

シ ラ バ ス

(令和 3 年度)

目	次
基 礎 分 野	
哲学	1
情報科学	2
生活科学	3
生物学	4
心理学	5
社会学	6
国語表現	7
国文学	8
教育学	9
英語	10
英会話	11
人間関係論	12
レクリエーション活動	13
専 門 基 礎 分 野	
解剖学	16
生理学	17
生化学	19
栄養学	20
微生物学	21
薬理学	22
病理学	23
病態生理Ⅰ(呼吸、循環・血液造血器系)	24
病態生理学Ⅱ(消化器・栄養代謝、腎・泌尿器)	25

病態生理学Ⅲ(運動器、脳神経、精神系)	26
病態生理学Ⅳ(女性生殖器・感覚器系)	27
病態生理学Ⅴ(小児・母性の異常)	28
病態生理学演習	29
公衆衛生学	31
社会福祉	32
関係法規	33
リハビリテーション概論	34

専 門 分 野 I

看護学概論	38
基本技術Ⅰ(コミュニケーション)	40
基本技術Ⅱ(対象把握の技術)	42
日常生活援助技術Ⅰ(環境調整・清潔、衣生活)	46
日常生活援助技術Ⅱ(食事、活動と休息)	48
日常生活援助技術Ⅲ(排泄)	53
診療に伴う援助技術	55
看護過程	56
臨床看護総論	58
臨床看護総論演習	60

専 門 分 野 II

成人看護概論	64
成人看護援助論Ⅰ(呼吸器、消化器系)	67
成人看護援助論Ⅱ(運動器、内分泌・代謝系)	71
成人看護援助論Ⅲ(循環器、血液造血器系)	75

成人看護援助論Ⅳ(腎・泌尿器、女性生殖器系)	80	在宅看護援助論Ⅲ(特殊な技術)	130
成人看護援助論Ⅴ(脳神経、感覚器系)	84	看護管理	132
成人看護援助論演習	89	医療安全	133
老年看護概論	92	医療安全演習	136
老年看護援助論Ⅰ(老年者のアセスメントと ケアの技法)	94	卒業研究	139
老年看護援助論Ⅱ(障害を持つ老年者の看護)	96	統合看護技術演習	141
老年看護援助論演習	98		
小児看護概論	100		
小児看護援助論Ⅰ(症状別看護と援助技術)	102		
小児看護援助論Ⅱ(疾患別看護)	105		
小児看護援助論演習	108		
母性看護概論	111		
母性看護援助論Ⅰ	112		
母性看護援助論Ⅱ	113		
母性看護援助論演習	114		
精神看護概論	116		
精神看護援助論Ⅰ(精神保健)	117		
精神看護援助論Ⅱ(看護援助の基本)	118		
精神看護援助論Ⅲ(看護過程の展開)	120		
統 合 分 野			
在宅看護概論	124		
在宅看護援助論Ⅰ(在宅ケアシステム)	126		
在宅看護援助論Ⅱ(日常生活援助)	128		

基礎分野

科目名	哲学		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	原崎 道彦	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

【授業の目的】

哲学的思考について理解し、人間の生きる意味、看護の本質を追求する思考能力を身につける

【到達目標】

【授業計画】

回	項目	授業内容	備考
1		哲学の誕生(神秘的・呪術的思考と哲学)	
2		古代・中世哲学	
3		近代・現代哲学	
4		現象学	
5		実在主義	
6		マルクス主義	
7		プラグマティズム	
8		構造主義	
9		分析哲学	
10		人間における自然と文化	
11		心と身体	
12		哲学における死の問題	
13		人間の社会性	
14		人間の自覚としての哲学	
15		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 医学書院 看護倫理

科目名	情報科学		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	坪内 達雄	実務経験の有無	

【授業の概要】

情報処理の基本的な考え方を学ぶことにより、科学的な思考を身につけ看護に役立たせる。

【到達目標】

- 1 基本的なコンピュータの使い方を学ぶ。
- 2 Word、Excel、Power Point などの操作法を学ぶ。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		情報科学の基礎・情報処理	
2		情報とデータ	
3		コンピュータの操作・入力等	
4		Word 1	
5		Word 2	
6		Word 3	
7		Word 4	
8		Word 5	
9		Excel 1	
10		Excel 2	
11		Excel 3	
12		Excel 4	
13		Excel 5	
14		Power Point	
15		評価	

【評価方法】 発表・授業態度・出席状況を総合して評価する

【教科書】 資料を配布する

科目名	生活科学		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員		実務経験の有無	

【到達目標】

人間の日常生活概念（衣・食・住）を学び自己の生活観を養い、看護における日常生活行動援助技術の基礎とする。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		衣の生活科学・心理的・社会的機能	
2		被服材料・構成・管理	
3		食の生活科学	
4		栄養・食品・調理	
5		食品衛生	
6		住の生活科学・外部気候・冷暖房とその対策	
7		わが国の住宅事情	
8		環境に対する諸問題 生活と微生物・生活と水	
9		環境汚染の諸問題・公害・水質	
10		衛生動物と殺虫剤・農薬	
11		生活環境としての気象・気候	
12		地球的規模の環境問題と対応	
13		エネルギー問題と生活機器	
14		皮膚の科学と化粧品・皮膚の科学・化粧品の科学	
15		テスト	

【評価方法】

テスト・授業態度・出席状況を総合して評価する

【教科書】

建帛社：生活科学双書 生活科学概論

科目名	生物学		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	種田 耕二	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

生物の発生と生命を維持する仕組み、遺伝及びその環境について理解する。

【学習目標】

- 1 生物の特性を把握
- 2 生物のつくりや働きを理解する。
- 3 人間の存在、発展のための自然と生物の生活についての知識を得る。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		生物学を学ぶにあたって	
2		生命のつくりとはたらき	
3		生命維持のエネルギー	
4		細胞の増殖とからだのなりたち	
5		生殖と発生	
6		遺伝情報の伝達と発現のしくみ 1	
7		遺伝情報の伝達と発現のしくみ 2	
8		個体の調節 1	
9		個体の調節 2	
10		刺激の受容と行動 1	
11		刺激の受容と行動 2	
12		生命の起源と進化	
13		生物と環境のかかわり	
14		地球環境とヒトの未来	
15		テスト	

【評価方法】

テスト・授業態度、出席状況を総合して評価する。

【教科書】

資料を随時配布する。

【参考書】

系統看護学講座 基礎3 生物学 桑澤清明 他 医学書院

科目名	心理学		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	高橋 礼子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

人間の心の働き、知覚の仕組みや学習の法則、記憶・思考の仕組み、人格の適応の仕組み、さらには集団のなかで、心の働きなどを多角的に学習する。

【到達目標】

- 1 知覚、学習、記憶、思考、感情等の一般法則を学習する
- 2 心の発達と適応の仕組みを学習する
- 3 自己理解や他者理解の方法を学習する

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		心理学概論	
2		心理学の問題	
3		知覚の心理	
4		記憶の心理	
5		思考・想像・言語の心理	
6		知能の心理と知能検査	
7		学習の心理	
8		感情・情緒・情操の心理	
9		適応の心理	
10		性格の心理と性格検査	
11		集団の心理	
12		発達の心理	
13		カウンセリング	
14		医療と心理学	
15		テスト	

【評価方法】

テスト・授業態度・出席状況を総合して評価する

【教科書】

医学書院：系統看護学講座 基礎6 心理学 辰野千寿

科目名	社会学		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	溝渕 智則	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

社会の構造、社会的人間構造、個人および集団の関係などを学び社会的存在としての人間理解を深める

【到達目標】

1. 現代の社会とそこで生きる人間について理解させる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		社会学とは何か	
2		人間と社会・個人と社会	
3		現代家族の諸問題・生活設計と社会福祉	
4		職業と職場集団	
5		地域社会の歴史的発展	
6		地域保健・医療・福祉の現状と課題	
7		職業と社会・経営体と職業集団	
8		医療集団	
9		現代社会の諸変化・自発的小集団とネットワーク	
10		現代文化の特徴	
11		社会問題・生活問題・社会病理現象の構造的問題	
12		総合福祉政策の展開・医療問題と保健、医療、福祉の総合化	
13		社会学と社会調査・看護社会学の対象と方法	
14		社会学と社会調査・社会調査の手順と方法	
15		テスト	

【評価方法】

テスト、授業態度、出席状況を総合して評価する。

【教科書】

新版看護学全書・社会学・メヂカルフレンド社

科目名	国語表現		
単位数・時間数	1 単位・15 時間	対象年次	1
担当教員	岡田 寿美	実務経験の有無	あり

【授業の概要】 文章の構成と書き方
文章の読み方と活用
国語表現の鑑賞と自己表現

【授業の目標】 様々な文章の構造を学習し、文章の作成力及び自己表現力を身につける。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		自己紹介文について学ぶ	
2		レポートの書き方を学ぶ	
3		レポートの書き方を学ぶ	
4		ことわざ、慣用句等を学ぶ	
5		ことわざ、慣用句等を学ぶ	
6		自分の文章を推敲する	
7		優れた文章に触れる	
8		テスト	

【評価方法】

テスト・レポート・授業態度・出席状況を統合して評価する。

【教科書】

資料を随時配布する

【参考書】

授業の中で紹介する

科目名	国文学		
単位数・時間数	1 単位・15 時間	対象年次	1
担当教員	岡田 寿美	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

古今の文学作品を読み、味わう

【到達目標】

古典文学を音読し、作品の解釈を通して新しい発見をする。

様々なジャンルの作品に出会い、読書の楽しみに出会う。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		古事記を読み、味わう	
2		万葉集を読み、味わう	
3		万葉集を読み、味わう	
4		枕草子、方丈記、徒然草を読み、味わう	
5		近現代詩歌を読み、味わう	
6		近現代詩歌を読み、味わう	
7		好きな作品を暗唱する	
8		テスト	

【評価方法】

テスト・授業態度・出席状況を総合して評価する。

【教科書】

資料を随時配布する。

【参考書】

授業の中で紹介する。

科目名	教育学		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	岡谷 英明	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

人間の成長発達と学習について理解させ、人間形成における教育の役割を学び、看護における指導技術の基礎とする。

【到達目標】

- 1 人間発達と学習について理解する。
- 2 人間形成における教育の機能を理解する。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		人間の成長	
2		人間形成作用	
3		家庭教育	
4		生涯学習社会	
5		社会教育	
6		学校教育の制度	
7		各国における学校制度	
8		教育目的	
9		学習指導	
10		生活指導	
11		教育評価	
12		自己評価	
13		障害の概念	
14		障害の種類に応じた教育	
15		テスト	

【評価方法】

テスト・授業態度・出席状況を総合して評価する

【教科書】

系統看護学講座 基礎7 教育学 大浦猛 編 医学書院

【参考書】

新版看護学全書 基礎科目 教育学 長尾十三二 他 メヂカルフレンド社

科目名	英語		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	ディロン・ブルース・ダグラス	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

英語の基本的な文法とその文法で可能な表現力形式を学ぶ。また英語で考え、説明する力を学ぶ。また、医学英語の読解、患者の入院用語、病状経過の読解も身につける。

【到達目標】

- 1 英文の内容を深く読みとる読解力を身につける。
- 2 基本的な文法に従って英文を作成する。
- 3 医学英語を読解できる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		①Unit 1 (受 付) ②医学英語 (20words) ③英会話(場面別) 病気・けが	
2		①Unit 1 (受 付) ②医学英語 (20words) ③英会話(場面別) 病気・けが	
3		①Unit 2 (診察室) ②医学英語 (20words) ③英会話(場面別) 電話	
4		①Unit 2 (診察室) ②医学英語 (20words) ③英会話(場面別) 電話	
5		①Unit 3 (道案内) ②外来語(1) (医療現場に関するもの) ③英会話(場面別) 交通手段	
6		①Unit 3 (道案内) ②外来語(1) (医療現場に関するもの) ③英会話(場面別) 交通手段	
7		①Unit 4 (検査室) ②外来語(1) (医療現場に関するもの) ③英会話(場面別) 5 W 1 H	
8		①Unit 3 (道案内) ②外来語(1) (医療現場に関するもの) ③英会話(場面別) 5 W 1 H	
9		①Unit 5 (アドバイス) ②医学英語 (20words) ③英会話(場面別) 機内で	
10		①Unit 5 (アドバイス) ②医学英語 (20words) ③英会話(場面別) 機内で	
11		①Unit 6 (クスリ) ②医学英語 (20words) ③英会話(場面別) 空港で	
12		①Unit 6 (クスリ) ②医学英語 (20words) ③英会話(場面別) 空港で	
13		①Unit 7 (会計) ②英語ことわざ ③英会話(場面別) トラブル	
14		①Unit 7 (会計) ②英語ことわざ ③英会話(場面別) トラブル	
15		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 資料を随時配布する。

【参考書】 授業の中で紹介する。

科目名	英会話		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	ディロン・ブルース・ダグラス	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

英会話の楽しさとコミュニケーションの大切さを知り、実践的な表現ができるように学ぶ。

また、臨床場面での英会話を身につける。

【到達目標】

- 1 日常会話をなめらかに口頭で表現する。
- 2 基本的な文法に従って英文を作成する。
- 3 臨床場面で英語を使用できる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		基本コミュニケーション（あいさつ、お礼、おわび、依頼、天気の基本文例）	
2		ナース同士の DIALOG であいさつの表現を学ばせる。	
3		ナースと患者の電話による DIALOG で電話の会話とマナーを学ばせる。	
4		患者と受付係の DIALOG で案内表現と人的援助の仕方を学ばせる。	
5		長時間順番を待っている患者とナースの DIALOG によって、ナースの適切な対応を学ばせる。	
6		SOS と遠さの表現を学ばせる。	
7		ナースと患者の病院の規則についての Q and A の DIALOG で丁寧な説明の仕方を学ばせる。	
8		5 W 1 H を使った疑問文を学習する。	
9		患者とナースの DIALOG で患者のクレームに対する対応の仕方を学ばせる。	
10		患者とナースの DIALOG で食事の重要性、栄養指導の実際を学ばせる。	
11		患者とナースの DIALOG で生活指導の実際を学ばせる。	
12		ナースと再診で病院に来た患者との DIALOG で久しぶりに会った患者を励ます表現を学ばせる。	
13		ナースと患者の家族との対話で家族の悲しみを共有する表現を学ばせる。	
14		ボランティアと高齢の女性との会話で励ましの表現を学ばせる。	
15		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 資料を随時配布する。

【参考書】 授業の中で紹介する

科目名	人間関係論		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	斎藤 一夫	実務経験の有無	

【授業の概要】

人間関係の意義及び看護場面における主要な人間関係の特性を理解し、看護での円滑な関わり、保健医療福祉チームとの協調性を学ぶ。

【到達目標】 人間関係の特性を理解できる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		人間存在と人間関係	
2		社会的相互作用と社会的役割	
3		社会的相互作用と社会的役割	
4		コミュニケーション	
5		人間関係の研究と対応	
6		人間関係の向上へのスキル	
7		保健医療チームの人間関係	
8		闘病生活を支える人間関係	
9		終末期の患者と家族を支える人間関係	
10		終末期の患者と家族を支える人間関係	
11		家族の人間関係と看護師のかかわり	
12		家族の人間関係と看護師のかかわり	
13		ソーシャルサポートをめぐる人間関係	
14		ノーマライゼーションをはぐくむ人間関係	
15		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 医学書院：人間関係論

科目名	レクリエーション活動		
単位数・時間数	1単位・15時間	対象年次	2
担当教員	小谷 正治	実務経験の有無	あり

【授業の概要】 ①レクリエーションの意義・目的・方法
 ②体力を増強し健全な心身の発達を図る

【到達目標】 レクリエーションを通じて協力や協調の態度を養う

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		レクリエーションの意義・目的・方法	
2		高齢者のレクリエーション	
3		高齢者のレクリエーション	
4		個人を対象としたレクリエーション	
5		屋外レクリエーション	
6		レクリエーション	
7		レクリエーション	
8		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 レクリエーション協会：レクリエーション支援の倫理と方法

專 門 基 礎 分 野

科目名	解剖学		
単位数・時間数	2単位・60時間	対象年次	1
担当教員	田口 尚弘	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

解剖学は、医学の体系の中でも基礎中の基礎となる領域である。人体の正常な構造と機能がもとになって、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断、患者の治療・看護が行われる。解剖学はおもに構造を学び、生理学に学ぶ機能を一体のものとして、医療・看護の基礎をつくる。

【到達目標】

人体の発生と構造について理解し、形態と機能を系統的に学ぶ。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1～5		人体の構造	
6～9		人体の構造と働き	
10		血液	
11		腎臓	
12		内蔵機能の調節	
13		内蔵機能の超越(骨格)	
14		関節・骨格筋	
15		体幹の骨格と筋	
17～20		筋肉系	
21		足の運動、頭頸部	
22・23		神経	
24～26		脳の構造	
27・28		眼球・眼球付属器・耳・味覚	
29・30		生殖器・皮膚	
31		テスト	

【教科書】 医学書院：解剖生理学
ぜんぶわかる人体解剖図

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

科目名	生理学		
単位数・時間数	2 単位・60 時間	対象年次	1
担当教員	有川 幹彦・津田 雅之・ 村田 芳博・戸高 寛	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

人体の正常な構造と機能に関する知識に基づいて病気の成り立ちが理解されるようになり、それを礎に病気の診断と患者への医療・看護が行われてきた。生理学はおもに人体の機能を学び、解剖学で学ぶ人体の構造と一体のものとして、医療・看護の基礎をつくる。

【授業の目的】

人体では、フィードバック機構や適応などの巧妙なしくみにより、体内環境の動的平衡状態が維持されている。この恒常性（ホメオスタシス）を植物性機能および動物性機能から理解する。

【到達目標】

1. 人体の正常な生命過程の骨子となる基本的な概念と専門用語の意味を十分に理解する。
2. 生物階層間の機能的関連性を重視し、機能が統合された個体全体の生命現象を理解する。
3. 生理学の学習を通して機能統合の考え方や系統的な科学的思考方法を身に着ける。

【授業計画】

回		項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習等）
1	戸高	細胞の基本機能	ホメオスタシス	
2			細胞の構造と機能	
3			神経の構造と機能	
4			筋肉の構造と機能	
5	津田	感覚	視覚	
6			聴覚・平衡覚	
7			味覚・嗅覚	
8			体性感覚・疼痛	
9		内分泌 生殖	内分泌とホルモン（1）	
10			内分泌とホルモン（2）	
11			生殖・発生（1）	
12			生殖・発生（2）	
13		生体防御	生体の防御機構（1）	
14		体温調節	生体の防御機構（2）	

1 5			体温とその調節	
1 6		第 1 回試験		
1 7	村田	消化と吸収	消化器系の構造と機能 咀嚼と嚥下	
1 8			胃のはたらき	
1 9			小腸のはたらき	
2 0			栄養素と水の吸収	
2 1	有川	血液と循環	血液	
2 2			循環器系の構造と機能	
2 3			血圧・循環調節	
2 4			心電図・心周期	
2 5		呼吸	呼吸器系の構造と機能	
2 6			ガス交換とガス分圧	
2 7			呼吸を調節するしくみ・ 肺機能検査	
2 8		腎機能	腎臓の構造と機能	
2 9			尿細管での再吸収と分泌（1）	
3 0			尿細管での再吸収と分泌（2）・ 排尿	
3 1			体液とその調節	
3 2		第 2 回試験		
〔メッセージ〕				

【評価方法】

第 1 回定期試験は 1～4 コマ分が 3 割、5～15 コマ分が 7 割で配点する。

第 2 回定期試験は 17～20 コマ分が 3 割、21～31 コマ分が 7 割で配点する。

第 1・2 回定期試験の合算および、授業態度、出席状況等を総合して評価する。

【教科書】

医学書院：解剖生理学

科目名	生化学		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	山崎 洋司	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

人体の構成物質である化学物質の性状、その分布および代謝について学び、人間の生命現象を深く理解する。

【到達目標】

人体の細胞の生体分子や、各栄養素の代謝等について理解する。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		細胞と生体分子	
2		タンパク質の性質	
3		酵素の性質と働き	
4		生体内における糖質の代謝	
5		生体内における脂質の代謝	
6		生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝	
7		生体内における核酸の役割	
8		体液	
9		ホルモン	
10		ビタミン	
11		内部環境の恒常性	
12		消化・吸収と栄養価	
13		血液	
14		尿	
15		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 医学書院：生化学

【参考書】 授業の中で紹介する

科目名	栄養学		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員			

【授業の概要】

生命科学を基本にして、栄養と健康、栄養と疾病、障害との関係、さらに人の栄養状態を適正化する方法について理解する。

【到達目標】

人間の栄養状態の評価方法や体内代謝と栄養素と関係を学習し、人間栄養学と看護について思考することで、栄養ケア、マネジメントの思考力を身につける

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		人間栄養学	
2		人間栄養学と看護	
3		栄養状態の評価・判断	
4		栄養素の働き	
5		エネルギー代謝	
6		栄養素の消化・吸収	
7		栄養素の体内代謝	
8		栄養ケア	
9		栄養ケアマネジメント	
10		ライフステージと栄養	
11		健康づくりと食品・食事・食生活	
12		臨床栄養	
13		栄養と疾病	
14		栄養と疾病・障害との関係	
15		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 医学書院：栄養学

【参考書】 授業の中で紹介する

科目名	微生物学		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	村主 節雄	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

微生物が生物界においてどのような位置を占め、自然界のどこにいて、生き物としてどのように生活をしているか、微生物が種を維持し増殖するためにどのような巧妙な感染の装置や構造を備えているか、一方、微生物が人体に侵入したあと体内でどのような反応や現象がおこり、感染から個体を防御しているか、さらに感染症と人間の社会との関係を学び、その知識を医療の現場で活かすことができるようにする。

【到達目標】

微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解し、その対応について学ぶ

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		微生物学の対象と目的	
2		細菌・真菌の性質	
3		原虫・ウイルスの性質	
4		感染と感染症・微生物感染の機構	
5		感染と感染症・ウイルス感染の機構	
6		感染に対する生体防御機構	
7		感染源・感染経路からみた感染症	
8		感染症の予防・滅菌と消毒	
9		感染症の予防・ワクチンと予防接種	
10		感染症の診断・病原体を検出する方法	
11		感染症の診断と治療	
12		感染症の現状と対策・感染症の変遷	
13		主な病原微生物・細菌感染症	
14		真菌・原虫・ウイルス感染症	
15		真菌・原虫・ウイルス感染症	
16		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 医学書院：微生物学

科目名	薬理学		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	森 正一	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

薬理学から得た知識を看護の実際によりよく生かせるよう学習する。

【到達目標】

薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解する。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		薬とは・薬理作用	
2		薬物に影響を及ぼす因子・有害作用	
3		薬の適応・内服・注射・処方	
4		感染症に関する基礎知識・抗生物質	
5		感染症に関する基礎知識・合成化学療法	
6		免疫治療薬・免疫抑制薬・増強剤	
7		アレルギーおよび炎症に対する薬物	
8		抹消での神経活動に作用する薬物	
9		中枢神経に作用する薬物・全身麻酔	
10		催眠薬・抗不安薬・抗精神病薬	
11		パーキンソン症候群・抗てんかん・鎮痛剤	
12		ジギタリス・狭心症治療薬・昇圧剤	
13		呼吸器に作用する薬物	
14		消化器に作用する薬物	
15		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 医学書院：薬理学

いちばんやさしい薬理学

【参考書】 新クイックマスター 薬理学

科目名	病理学		
単位数・時間数	1 単位・15 時間	対象年次	1
担当教員	中峯 寛和	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

病院と病気の特徴を理解し、疾患が人体の構造・機能や成長発達に及ぼす影響を解剖生理学と関連させて学ぶ

【到達目標】

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		病理学とは・疾病の様々な原因と分類	
2		先天異常とは・遺伝子疾患	
3		代謝障害・細胞障害・細胞の死・壊死	
4		循環器系の概要	
5		炎症と免疫、膠原病	
6		感染症	
7		老化と死	
8		循環器系の概要	
9		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 医学書院：病理学

科目名	病態生理Ⅰ（呼吸、循環・血液造血器系）		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	中峯 寛和 ・ 三宅 陽一郎 他	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

- 1 呼吸器系の主な疾患の病態生理、治療、検査
- 2 循環・血液造血器系の主な疾患の病態生理、治療、検査

【到達目標】

呼吸器系、循環・血液造血奇形の病態生理、治療、検査について理解する。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		呼吸器系の構造と機能	
2		呼吸器系の症状と病態生理	
3		呼吸器系の検査治療処置	
4		呼吸器系の検査治療処置	
5		感染症(肺炎)・肺癌	
6		テスト	
7		血液造血器系の主な疾患の病態生理	
8		血液造血器系の主な疾患の病態生理	
9		血液造血器系の主な疾患の病態生理	
10		血液造血器系の主な疾患の治療	
11		血液造血器系の主な疾患の治療・検査	
12		テスト	
13		循環系の主な疾患の病態生理	
14		循環系の主な疾患の病態生理	
15		循環系の主な疾患の病態生理・治療	
16		循環系の主な疾患の病態生理・検査	
17		循環系の主な疾患の病態生理・検査	
18		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 医学書院 系統看護学講座：呼吸器・循環器・血液

科目名	病態生理学Ⅱ(消化器・栄養代謝、腎・泌尿器)		
単位数・時間数	1単位・30時間	対象年次	1
担当教員	筒井邦彦・村尾孝児・岡添誉 藤田拓郎・尾崎太郎	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

- 1 消化器系の主な疾患の病態生理、治療、検査
- 2 栄養代謝系の主な疾患の病態生理、治療、検査
- 3 腎・泌尿器系の主な疾患の病態生理、治療、検査

【到達目標】

消化器・内分泌・代謝系、腎・泌尿器系の病態生理、治療、検査について理解する。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1	消化器系	消化器疾患について	
2		消化器疾患について	
3		消化器疾患について	
4		各疾患の検査・治療・処置について	
5		各疾患の検査・治療・処置について	
6	内分泌・代謝系疾患の 症状と病態生理、疾患 の理解	内分泌疾患について	
7		甲状腺について	
8		糖尿病・脂質異常症について	
9		各疾患の検査・治療・処置について	
10		各疾患の検査・治療・処置について	
11	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系疾患の症状	
12		腎・泌尿器系疾患の病態生理	
13		腎・泌尿器系疾患の病態生理	
14		腎・泌尿器系疾患の理解	
15		腎・泌尿器系疾患の理解	
16		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 医学書院 系統看護学講座：消化器・内分泌・腎泌尿器

科目名	病態生理学Ⅲ（運動器、脳神経、精神系）		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	吉本啓一郎・田宮隆・宍戸肇・吉井一郎	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

- 1 運動器系の主な疾患の病態生理、治療、検査
- 2 脳神経系の主な疾患の病態生理、治療、検査
- 3 精神系の主な疾患の病態生理、治療、検査

【到達目標】

運動器系、脳神経系、精神系の病態生理、治療、検査について理解する。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		運動器系の主な疾患の病態生理	
2		骨折・先天性疾、骨・関節の炎症疾患	
3		骨腫瘍と脊髄疾患	
4		運動器系のまとめ	
5		運動器系のまとめ	
6		脳神経系の主な疾患の病態生理、治療、検査	
7		脳神経系の主な疾患の病態生理	
8		脳神経系の主な疾患の治療	
9		脳神経系の主な疾患の治療	
10		脳神経系の主な疾患の検査	
11		精神系の主な疾患の病態生理、治療、検査	
12		精神系の主な疾患の病態生理	
13		精神系の主な疾患の治療	
14		精神系の主な疾患の治療	
15		精神系の主な疾患の検査	
16		テスト（精神系）	
17		テスト（脳神経系）	
18		テスト（運動器系）	

【評価方法】テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 医学書院 系統看護学講座：運動器・脳神経
南江堂 精神看護学Ⅱ

科目名	病態生理学Ⅳ（女性生殖器・感覚器系）		
単位数・時間数	1 単位・15 時間	対象年次	1
担当教員	橋元 粧子・鈴木 麻千子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

女性生殖器系、感覚器系の病態生理、治療、検査について理解する。

【到達目標】

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		女性生殖器の構造と機能・症状とその病態生理	
2		診察・検査と治療・処置	
3		診察・検査と治療・処置	
4		疾病の理解	
5		疾病の理解	
6		テスト	
7		口腔の構造と機能、症状とその病態生理	
8		検査と治療	
9		疾患の理解	
10		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 医学書院 系統看護学講座：女性生殖器・歯口腔

科目名	病態生理学Ⅴ（小児・母性の異常）		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	澤田 由紀子・藤田 晶子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

1. 小児の主な疾患の病態生理、治療、検査
2. 婦人科疾患の病態生理と、その看護

【到達目標】

1. 小児および母性の主な疾患の病態生理、治療、検査について理解する
2. 婦人科疾患患者の病態生理、特色とその看護について理解する

【授業計画】－女性生殖器疾患患者の看護－

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		染色体異常・体内環境により発症する先天異常・代謝疾患	
2		内分泌疾患・免疫・アレルギー性疾患・膠原病・感染症	
3		呼吸器疾患・循環器疾患・消化器疾患・血液・悪性新生物	
4		腎・泌尿器および生殖器疾患	
5		神経疾患・運動器疾患・皮膚疾患	
6		眼疾患・耳鼻科疾患・精神疾患	
7		事故・外傷・子どもの虐待	
8		テスト	
9		婦人科疾患をもつ患者の経過と看護 ・外来病棟における看護	
10		診療介助、症状とその病態に対する看護	
11		外陰部・膣・子宮・卵管・卵巣・骨盤腔内疾患患者の看護	
12		高齢女性におこりやすい女性生殖器疾患患者の看護	
13		手術をうける患者の看護	
14		化学療法・放射線療法・ホルモン療法を受ける患者の看護	
15			
16		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 医学書院 系統看護学講座：小児看護学・母性看護学

荒木奈緒，他編：ナースィング・グラフィカ母子看護学 母性看護技術第4版，メディカ出版，2019
病気が見える産科 他

科目名	病態生理学演習		
単位数・時間数	1 単位 30 時間	対象年次	2
担当教員	谷口真貴	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

既習の病態生理学（障害によってどのような異常状態になるのか）について代表的な疾患の病態・検査・治療と、急性期・慢性期といった病期別の看護の関連について、図式化された病態関連図を理解し説明する能力を養う。器官系統別の代表的な疾患をグループ学習後発表し学生同士が高めあう場とする。

【授業の目的】

既習の病態生理学の代表的な疾患について疾病の成り立ちや回復の促進に関して理解を深め、疾患の全体像とフィジカルアセスメントの視点を知り看護へとつなげていく。人体の正常な働き（解剖生理学と障害によってどのような異常状態になるのか（病態生理学）や、代表的な疾患の病態・検査・治療と、急性期・慢性期など病期別の看護を図式化し、系統立てて発表することで今後の学習に役立たせる。

【到達目標】

1. 代表的な疾患に関する知識を補充し、系統立てた自己学習方法を習得する。
2. グループ学習や発表で、協調性・主体性ある学生としての姿勢を身につける。
3. 疾患の全体像とフィジカルアセスメントの視点を知り看護へとつなげることができる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考 【予習復習内容】
1 2	病 態 関 連 図・疾患別看護ケア関連図の知識	シラバス説明 病態関連図とは 疾患別看護ケア関連図とは (例 COPD) 書き方のルール説明 グループ編成	【予習 1】 器官系統別解剖生理ドリル 【予習 2 事前学習 提出期限 始業日】 COPD の事前学習（解剖生理・原因・症状・検査・治療・看護など） 【復習】 COPD 事前学習の追加 提出日:5月連休明けの始業日
3 4	疾患別グループ学習	※解剖生理/疾病の成り立ち (糖尿病・脳梗塞・大腿骨頸部骨折・肺炎・心不全・肝硬変・急性白血病・関節リウマチ・パーキンソン病・慢性腎臓病)	【予習 1】 疾患の事前学習 ※ 【予習 2】 各自が疾患に関連する過去問 1 問を用意して解説まで出来るように準備する 【復習】 過去問を間違えた学生は、誤答修正
5 6	疾患別グループ学習	※回復の促進	
7	疾患別グループ学習	※病態関連図	
8 9	疾患別グループ学習	発表原稿作成 発表練習・資料仕上げ	
10 ～ 12	発表会 ～ 振り返り	発表 15 分 質疑応答 5 分	【予習 1】 当日までに 発表練習・配布資料を準備しておくこと

13	観察項目	疾患（COPD）の観察項目と フィジカルアセスメントの視点	指導後、週明けにすべて提出予定
14	観察項目	観察項目修正 病態過去問プリント	
15	筆記試験	総まとめ	

【評価方法】筆記試験（４０％）、グループワークと発表態度（４０％）提出物（２０％）

【教科書・参考書】

系統看護学講座 教科書

解剖生理学・病理学・その他の文献各種

南江堂 根拠がわかる症状別看護過程

メディックメディア 病気が見えるシリーズ 他

科目名	公衆衛生学		
単位数・時間数	2 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	竹本 真里	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

公衆衛生学を学ぶことを通じて健康に対する考えを時代的变化に基づき関心を持ち、その中で人々の健康を保持・増進し、疾病を予防し、保健・医療・福祉に関する社会資源の整備と有効な活用を図り、身体的にも、精神的にも社会的にも個人と社会の能力を十分に発揮させる機能を学ぶ

【到達目標】

- 1 公衆衛生に関する基礎的な知識を学習する
- 2 ひとりひとりの生活と公衆衛生のかかわりを具体的に理解する
- 3 自分の周囲から広く国内や世界の公衆衛生上の問題を知り、その理解と解決への視点を身につける

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		公衆衛生の概念	
2		健康と環境、免疫的方法	
3		健康の指標	
4		感染症とその予防	
5		食品健康と栄養	
6		生活環境の保全	
7		医療の制度	
8		地域保健活動	
9		母子保健	
10		学校保健	
11		生活習慣病・難病 健康教育とヘルスプロモーション	
12		精神保健福祉	
13		産業保健	
14		公衆衛生学まとめ	
15		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 ニーベルヒロカワ 公衆衛生学

【参考書】 公衆衛生が見える

科目名	社会福祉		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	溝渕 智則	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

少子高齢化社会の進行による社会状況を理解しつつ、主に太平洋戦争後の日本における社会保障の理念、社会福祉の生成と変遷、生活問題に対する法律に基づいた社会福祉の援助方法、関連領域等を軸に講義する。複合的に人と人を取りまく社会の相互作用、社会福祉の視点を理解することを目標とする

【到達目標】

- 1 現代社会の中で社会福祉の果たす役割と課題について理解する。
- 2 人と人を取りまく社会との相互作用、社会環境を分析、理解する力を養う。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		現代社会と社会福祉 家族・地域社会の変化	
2		現代社会と社会福祉 個人を取りまく社会環境を理解する視点	
3		現代社会と社会福祉 日本国憲法	
4		現代社会と社会福祉 社会福祉・社会保障の理念	
5		社会福祉のあゆみ 諸外国における社会福祉	
6		社会福祉のあゆみ 日本における社会福祉	
7		社会福祉サービスの概観 1	
8		社会福祉サービスの概観 2	
9		社会福祉従事者と専門職倫理	
10		社会福祉援助技術	
11		社会福祉の法としくみ	
12		社会保障および関連制度 1	
13		社会保障および関連制度 2	
14		近年の社会福祉施策の動向	
15		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 中央法規出版 社会福祉概論

【参考書】 公衆衛生が見える

科目名	関係法規		
単位数・時間数	2 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	溝渕 智則	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

看護師が、職業人として活躍するために、その活動分野である我が国の保健・医療・福祉分野に関する各種の制度を理解したうえで、「看護」の専門性はどのように位置づけられているのか、そして看護職はどのような認識を担っているのかを認識することができるよう法令や規則を学ぶ

【到達目標】

看護職に必要な法令について学ぶ。看護職としての法的責任を自覚するとともに対象に必要な法の活用ができる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		人間の生活と法律・法律の基礎知識	
2		生活者の健康と法律	
3		社会保険関係法規	
4		社会保険関係法規	
5		社会保険関係法規	
6		社会保険関係法規	
7		社会福祉関係法規	
8		社会福祉関係法規	
9		看護活動に関する法規	
10		保健衛生法規	
11		保健衛生法規	
12		保健衛生法規	
13		薬事法規	
14		生活衛生法規・労働関係法規	
15		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 中央法規出版 社会福祉概論

【参考書】 公衆衛生が見える

科目名	リハビリテーション概論		
単位数・時間数	1 単位・ 1 5 時間	対象年次	1
担当教員	富田 豊	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

リハビリテーションの概念について、基本的な講義を行い、実技やビデオ鑑賞により理解を深める。

【到達目標】

リハビリテーションの思想・理念と歴史を学び、リハビリテーションにおける看護師と他職種の役割・連携について理解する

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		リハビリテーションの概念	
2		病気と障害	
3		リハビリテーションの諸段階	
4		廃用症候群とは	
5		高次脳機能障害とは	
6		障害の受容	
7		トランスファ技術	
8		テスト	

【評価方法】 テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】 リハビリテーションビジュアルブック

專 門 分 野 I

科目名	看護学概論		
単位数・時間数	2 単位・4 5 時間	対象年次	1
担当教員	山下 美登世	実務経験の有無	あり

【授業の概要】 看護学概論では初めて学問として「看護学」の扉をあけた学生が探究心を持てる内容とし、医療を取り巻く環境の変化に合わせて学ぶべきこと、変化する中であって変わらないもの、変わってはいけないものを見極めていく。看護学概論とは看護学の入門、あるいは概要という捉え方もある。「看護を根源から問い直す」科目であるといえる。

【授業の目的】 人間科学としての看護学として「看護とは」何かを様々な角度から考えることができる。また、歴史を紐解きながら様々な理論家について学ぶことができる

【到達目標】 看護全般の概念を理解し、看護の位置付けと役割の重要性を認識できる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習内容）
1	看護学	人間科学としての看護 なぜ看護学概論を学ぶのか	
2	看護の過去から現在	看護の歴史（過去から現在） ナイチンゲール	【予習】自分の考える4つの主要概念について
3	実践における重要概念	「健康」「人間」「看護」「環境」について自己の考えを発表し、GWで図式化を行う	
4		グループ毎に4つの主要概念の発表を行う	
5	看護理論家	看護理論家について GW (それぞれの理論家の考える4つの主要概念)	
6		看護理論家について GW (それぞれの理論家の考える4つの主要概念)	
7		看護理論家について GW (それぞれの理論家の考える4つの主要概念)	
8		看護理論家について GW (それぞれの理論家の考える4つの主要概念)	
9		看護理論家についての発表会	
10		看護理論家についての発表会	

11	看護の役割と機能	看護が機能する場 チーム医療とは	
12	看護実践の方法	看護技術とは 看護過程とは	【予習】日本看護協会看護師の 倫理要綱
13	看護倫理	看護における倫理と法 倫理とはそもそも何か	
14	看護実践を支えるもの	看護制度とは 看護の周縁的な役割	
15	専門職としての看護	専門職とは 看護基礎教育の歴史的変遷	
16	医療安全	医療事故と医療安全	
17	グローバル社会	異文化の理解 国際看護とは	【宿題】印象に残っている災害 についてまとめる
18	災害看護	災害とは 災害支援ナース・DMAT・災害看護専門看護師	
19		災害を想定しグループでパンフレット・ポスターを作成	
20		災害を想定しグループでパンフレット・ポスターを作成	
21		災害トリアージとは	【予習】ディベートとは何か
22	ディベート	自己の考えの偏りに気づくためディベートを行う	
23		テスト	
<メッセージ> 概論とは大きな枠組みの事です。皆さんが目指す看護師はどんな看護師ですか？ そもそも看護ってなんだろうというところから学び始め、そして深めて行きたいと思います。そしてこの科目の中で災害看護についても学習していきましょう。また、夏休みに看護覚え書について課題を出します。理論家たちの考え方も取り入れながら自分自身のなりたい看護師像を明確化できればと思います。長い講義枠ですが楽しみながら進んでいきましょう。			

【評価方法】筆記試験 80%・授業態度 10%・出席状況 5%・提出物 5%で総合的に判断します

【教科書参考書】メヂカルフレンド社：看護学概論
ナイチンゲール「看護覚え書」
ケースを通してやさしく学ぶ看護理論

科目名	基本技術Ⅰ（コミュニケーション）		
単位数・時間数	1 単位・15 時間	対象年次	1
担当教員	山下 美登世	実務経験の有無	あり

【授業の概要】 看護技術とは何かを学び、看護の共通基本技術としてコミュニケーションの技術を学ぶ。看護実践においては、患者から得られる情報が不可欠であり、患者の問題を見出し、変化を的確にとらえることが重要。それらを左右するコミュニケーションの能力を身につける。

【授業の目的】 1. コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解する
2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、ミスコミュニケーションを避け、適切なメッセージを伝える方法を学ぶ
3. コミュニケーションの基本的な方法について学び、実践する能力を習得する
4. コミュニケーション障害がある人の特徴と効果的な対応を学ぶ

【到達目標】 1. 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの特徴について学ぶ
2. 人間のコミュニケーションは相互作用であることを理解する
3. 対人関係における効果的コミュニケーションについて学ぶ
4. コミュニケーションを促進し、より良い人間関係を築くためには、自己理解を深める必要がある事を学びコミュニケーション技術を用いて、看護の目的を達成していくことの重要性について理解する
5. ケアリングは、効果的なコミュニケーションによる対人関係を通して実践できることを理解する

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習内容）
1	意義と目的	コミュニケーションとは 看護・医療におけるコミュニケーション	【予習】コミュニケーションの定義 【復習】医療場面におけるコミュニケーションの重要性
2	構成要素と成立過程	コミュニケーション手段 構成要素と成立過程 ミスコミュニケーション	【予習】ヘルスコミュニケーションモデル 【復習】ミスコミュニケーション
3	関係構築	コミュニケーションの原理 接近的行動の前提となる基本的な態度	【予習】患者に寄り添う態度の前提 【復習】初対面時の対応
4		接近的行動と非接近的行動	【予習】接近的行動・非接近的行動 【復習】様々な技法
5	コミュニケーションの実際	傾聴の技術 情報収集の技術	【予習】傾聴とは・アサーティブとは

		アサーティブネス	【復習】「聞く」と「聴く」の違いを理解する
6	コミュニケーション障害への対応	コミュニケーション障害のある人の特徴と対応	【予習】認知症について 【復習】
7	自己の振り返り	プロセスレコードとは プロセスレコード振り返り・沈黙について	【予習】プロセスレコードとは 【復習】自己を振り返るという事
8		筆記試験	
【メッセージ】 ・コミュニケーションというのは人と人をつなぐ大切な技術であり方法です。看護においてもその意味は大きくコミュニケーションから患者様との関係性は構築されていきます。 <u>意味のある</u> コミュニケーションがとれるように学びを深めて行きましょう。			

【評価方法】 筆記試験 75 % 出席状況 10 % 授業態度 10 % 予習提出状況 5 % により総合的に評価する

【教科書】 医学書院 基礎看護技術 I

【参考図書】 医学書院：看護コミュニケーション
医歯薬出版：看護のコミュニケーション・センス
メヂカルフレンド社：コミュニケーション Lesson

科目名	基本技術Ⅱ（対象把握の技術）		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	濱邊 由美・川並 愛	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

健康レベルを把握するためのフィジカルアセスメントは、単なるモノとしての身体の査定ではなく、その人の精神としての身体の査定であり、看護実践に根拠を与え人々の健康に携わる者としての特権であり、責務と考える。この科目は、人間の身体的側面、心理的側面、社会的側面の関係を踏まえながら全身状態を系統的に把握するために、必要な情報を収集し、それらの情報の意味を理解し、基本的なヘルスアセスメントができる能力を養う。主な内容は、ヘルスアセスメントの中でもフィジカルアセスメントに主軸をあて、フィジカルイグザミネーションスクリーニング、系統的フィジカルアセスメントにおける基本的な知識を理解するように学修する。またフィジカルアセスメントに共通する基本的な技術の演習やシミュレーション人形による実施などを行い、身体各部のアセスメント能力を養う。

【授業の目的】

1. フィジカルアセスメントに関する基本的な知識と技術を修得することをねらいとする
2. 看護上の問題を見出すためのヘルスアセスメント技術を学修し、臨床的に活用できるようにする

【到達目標】

1. 人体の構造・機能に関する知識をもとにフィジカルアセスメントの根拠が理解できる
2. フィジカルアセスメントの意義が理解できる
3. フィジカルアセスメントの基本技術が修得できる
4. 各アセスメント項目が適切な手法で実施できる
5. フィジカルアセスメントの結果、正常であることが確認できる。異常である場合はそれに気づくことができる
6. アセスメントの結果が記録できる
7. シミュレーターにおいて異常呼吸音が適切な手法で聴き分けることができる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習等）
1・2		1) フィジカルアセスメントとヘルスアセスメント、概念と方法の理解 2) 問診（面接）の技術 ①系統的な観察 ②健康歴の聴取 ③対象者への対応や配慮 系統的な観察の視点、健康歴の聴取、身体の状態を頭部から足先まで系統的に問診する知識と技術、対象者との関係づくり	【予習】 予習課題配布 教科書第2章 P64～P79 を読んでおく 【復習】 復習課題配布

		3) 環境の準備、物品の準備	
3		1) フィジカルイグザミネーションの基本的技術：①視診、触診、打診、聴診 2) 看護記録の意義と経時記録の記載方法	【予習】 予習課題配布 教科書第2章 P80～P112 を読んでおく
4	バイタルサインの観察とアセスメント	2) 一般状態のアセスメント ①一般状態の観察 ②身体各部の観察ポイント ③バイタルサイン測定 ④記録方法 (体温) ：体温測定の意義、体温調節のメカニズムと影響因子、体温測定の方法 (呼吸) ：呼吸調節のメカニズムと影響因子、呼吸の性状と種類、測定のポイントと測定方法 (脈拍・血圧) ：脈拍調節のメカニズムと影響因子、測定部位と測定方法、血圧調節のメカニズムと影響因子、測定時のポイントと測定方法 (意識) ：意識に関する基礎知識、意識レベルの評価方法	【復習】 復習課題配布
5.6		バイタルサイン測定、経時記録の実践演習（2年生による実演）	※演習後、技術練習を繰り返し身につけること ※正常値についても併せて覚えること
7	系統別フィジカルアセスメント (1)	呼吸器系： ①呼吸器の解剖生理学 ②呼吸器の視診・触診・打診・聴診 ③呼吸音の聴取 ④アセスメント ※シュミレーターを使用する	【予習】 予習課題配布 教科書第2章 P127～P140 を読んでおく 【復習】 復習課題配布
8		演習：呼吸器系（事例：①） ①呼吸器の視診・触診・打診の技術実施 ②呼吸音の聴診部位の理解 ③呼吸音の正常音と副雑音 ④アセスメントの報告	【予習】 事例の観察項目、根拠を指定用紙に記入する 事例の疾患、理解していない専門用語等の意味を事前に調べておくこと 【復習】 復習課題配布 観察項目、追加学習をまとめ、提出する ※パフォーマンス評価対象とします

9	系統別フィジカルアセスメント (2)	循環器系： 1) ①心臓の解剖生理学 ②胸部の外観・頸静脈や動脈の拍動の有無、性状 ③頸静脈・動脈の拍動・視診・聴診 ④アセスメント ※シュミレーターを使用する	【予習】 予習課題配布 教科書第2章 P140～P158 を読んでおく 【復習】 復習課題配布
10		演習：循環器系（事例：②） ①頸静脈・動脈の拍動・視診・聴診 ②心音の聴診部位 ③正常音と心雑音 ④アセスメントの報告	【予習】 事例の観察項目、根拠を指定用紙に記入する 事例の疾患、理解していない専門用語等の意味を事前に調べておくこと 【復習】 復習課題配布 観察項目、追加学習をまとめ、提出する ※パフォーマンス評価対象とします
11	系統別フィジカルアセスメント (3)	腹部・消化器系： ①腹部臓器の解剖学的構造 ②腹部全体の視診・聴診・触診・打診 ③腹部の外観の異常、腹部の圧痛 ④肝臓および脾臓、腎臓の触診の方法 ⑤蠕動音の聴診方法 ⑥アセスメント ※シュミレーターを使用する	【予習】 予習課題配布 教科書第2章 P158～P165 を読んでおく 【復習】 復習課題配布
12		演習：腹部・消化器系（事例：③） ①腹部全体の視診・聴診・触診・打診②腹部の外見の観察、圧痛、随伴症状③肝臓・脾臓・腎臓の触診④腸の蠕動音の聴診 ⑤アセスメントの報告	【予習】 事例の観察項目、根拠を指定用紙に記入する 事例の疾患、理解していない専門用語等の意味を事前に調べておくこと 【復習】 復習課題配布 観察項目、追加学習をまとめ、提出する ※パフォーマンス評価対象とします

13	系統別フィジカルアセスメント (4)	1) 筋・骨格系のアセスメント ①関節可動域②MMT 2) 神経系のアセスメント ①神経系統の解剖学的構造 ②深部反射・表在反射、病的反射、膝蓋腱反射・アキレス腱反射・バビンスキー反射 ③反射の異常、種類 ④膝蓋腱反射⑤意識レベル ⑥瞳孔反射 3) 頭頸部、感覚器のアセスメント 4) 心理・社会状態のアセスメント	【予習】 予習課題配布 教科書第2章 P164～P216 を読んでおく 【復習】 復習課題
14.15	技術試験 + 筆記試験	技術試験+筆記試験 ※OSCE：客観的臨床能力試験 ※事例①に対してバイタルサインの実施とフィジカルアセスメント及び報告までを実施 ※技術試験後、指定の用紙へ記録、提出する	※技術試験の詳細については後日説明
メッセージ		演習後は復習を兼ねてフィジカルアセスメントの技術の修得に向けて繰り返し練習をすること。	

【評価方法】

技術試験：50%、筆記試験：50%配点得点を総合評価する

※課題の提出期限切れは0点となりますので、注意してください。

【教科書】

①専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学②）医学書院 2019

②看護がみえる フィジカルアセスメント 2019

【参考図書】

ナーシンググラフィカ 解剖生理学 （メディカ出版） フィジカルアセスメントワークブック（医学書院）

科目名	日常生活援助技術 I (環境調整・清潔、衣生活)		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	川並 愛	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

1. 生活環境を整えることは看護の基本である。環境調整の意義と環境に影響を与える要素を理解するとともに、病室における環境調整方法を学修する。
2. 清潔は人間に欠かせない基本的ニーズであり、その充足を支える看護の視点から安全・安楽・自立の基礎となる看護基本技術を学ぶ。後期に履修する「臨床看護総論演習」とも連動しており、基本的知識および基礎的技術を学修する。

【授業の目的】

生活環境を整え人間の生活行動の基となるニーズとその充足を支える看護の視点から、基本技術を修得するとともに、看護技術の根幹をなす安全性・安楽性・自立性について理解することができる

【到達目標】

1. 人間の生活行動と基本的ニーズを理解することができる
2. 療養生活環境の構成要素を理解し、生活環境について考えることができる
3. 対象の状態に適した環境調整方法としてのベッドメイキング技術を習得することができる
4. 対象に応じた清潔援助技術(手浴・足浴・入浴・清拭・更衣)を実践することができる
5. 生活行動援助における安全性・安楽性・自立性を理解し、看護援助に結び付けることができる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備 考(予習・復習)
1	概論	看護技術の基盤「看護実践能力の構造」	【復習】教科書 P2～8 を読みなおす
2	環境調整	「生活環境を整える」とその援助	【予習】「私のまわりの環境」課題シートを作成する 【復習】教科書 P10～19 を復習し、暗記する箇所を覚える
3	ベッドメイキング	合理的かつ機能的なベッドメイキング技法	【予習】教科書 P20～24 を参照しベッドメイキングの手順書を作成、指定期日までに提出する(QR コードも参考に)
4		臥床患者のベッドメイキング技法の習得	【復習】練習を各自で繰り返す
5	清潔と健康	・入浴、シャワー浴、清拭のケア効果と心身への負荷	【予習】教科書 P164～170 を参照しベッドメイキングの手順書を作成、指定期日までに提出する(QR コードも参考に)。
6		・皮膚清拭の目的、方法と原則・留意点 ・皮膚清拭と寝衣交換	【復習】教科書 P152～P170 を復習し、手順書に追記する。練習を各自で繰り返す。
7		・洗髪の方法と原則・留意点 ・ベッド上臥床患者の洗髪(ケリーパッド、	【予習】P170～179 を参照し洗髪の手順書を作成、指定期日までに提出する(QR

		洗髪車、洗髪台による洗髪)	コードも参考に)。
8			【復習】教科書 P170～179 を復習し、手順書に追記する。練習を各自で繰り返す。
11		・足浴、手浴のケア効果と方法、原則、留意点 ・坐位と仰臥位で行う足浴、手浴	【予習】P179～184 を参照し洗髪の手順書を作成、指定期日までに提出する(QRコードも参考に)。
12			【復習】教科書 P179～184 を復習し、手順書に追記する。練習を各自で繰り返す。
13	試験	実技試験	オリエンテーション時に詳細を配布する
14			
15		筆記試験	
【メッセージ】			
学ぶ知識を基礎として、身体全体を動かし反復練習をして、自分自身の身体に覚えこませてください。 時間は自分で作るものです。練習する時間を確保して、自己研鑽に励んでください。			

【評価方法】

筆記試験 70%、技術試験 30%を総合して評価する

【教科書】

任和子，他編：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ第17版第3刷，2019

岡庭豊：看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版，2018

【参考書】

山口瑞穂子：看護技術 講義・演習ノート上巻 第1版第1刷，医学芸術社，2013

竹尾恵子：看護技術プラクティス第3版動画付き，学研メディカル秀潤社，2015

日本看護協会：看護覚え書き

専門分野Ⅰ（日常生活援助技術Ⅱ）

1. 単位数と時間数

単位数	1 単位	時間数	30 時間
-----	------	-----	-------

2. 科目構成

1) 食事	0.5 単位	15 時間
2) 活動と休息	0.5 単位	15 時間

3. 対象年次

1 年次

4. 評価方法

- 1) 本科目の評価点配分は 1) 食事 50%、2) 活動と休息 50%とする。
合算し 60 点に満たない場合は、再試験対象となる。
- 2) ただし、1) に該当せず、どちらか一方が 60 点に満たない場合は、確認試験を実施し知識の定着度を確認する。

1)	食事	担当教員	谷 早加	実務経験の有無	あり
----	----	------	------	---------	----

【授業の概要】

人が毎日の生活を健康的に送るうえで必要不可欠な身の回りの身体的活動・動作を日常生活活動（日常生活動作＜ADL＞）という。基本的な日常生活活動である食事、活動、休息などの看護援助技術は人間の健康状態をよりよく変化させる。疾患などにより ADL に支障をきたすと、これまであたりまえに行っていた生活を行うことができなくなる場合がある。看護による活動の援助はただ単に人の動きを助けるだけでなく生活を整える援助であるといえる。食事は 1 日の生活の中で生活リズムを構成する要素として必要な活動である。食事をするという事は人が生命を維持するうえで必要不可欠な行為である為、食事援助の基本知識として、栄養状態や摂食能力などのアセスメント方法について学び、それを基盤に病人への食事援助方法の基本の演習を通して学ぶ。疾病・障害などの理由で食事摂取が困難になった対象者に、その人の通常の生活に近い状態で食事ができるよう、機能回復訓練も含めた総合的な援助の提供を学び、対象者の食べる能力（自立への支援）を最大限に引き出し、食べることによって対象者の療養生活が豊かになるよう適切に援助する能力を養う。

【授業の目的】

看護による活動の援助はただ単に人の動きを助けるだけでなく生活を整える援助であることを念頭に、基本的な日常生活活動である食事、活動、休息などの看護援助技術を学ぶことで、対象を身体的、心理的、社会的に捉え、セルフケア能力を支援する援助を提供することができる。

【到達目標】

<食事援助技術>

1. 食事・栄養摂取の意義とその仕組みについて説明でき、食事・栄養摂取のアセスメントができる
2. 食事動作機能障害がある患者の食事介助の援助方法が理解できる
3. 口腔内の汚れを除去し、清潔に保ち、口腔機能を改善する事が出来る
4. 非経口的栄養摂取法の種類と特徴、援助方法について述べる事ができる

【授業計画】

1	A 食事援助の基礎知識	・食事援助の基礎知識 ・食事の意義（身体的・心理的・社会的側面から学ぶ） ・栄養状態のアセスメント	【予習】 食事の意義 【復習】 栄養状態のアセスメントの視点を整理する 【課題】 事例 Aさんの栄養状態をアセスメントする
2		・食事援助の基礎知識 ・摂食・嚥下能力のアセスメント ・摂食行動のアセスメント ・医療施設で提供される食事の種類と形態	【予習】 食べるために必要な機能、食べるために必要な脳機能 【復習】 摂食・嚥下能力、摂食行動のアセスメントの視点を整理する
3	B 食事摂取の介助	・食事摂取の介助 ・援助の実際（演習を行います）	【予習】 食事介助の手順書作成 【復習】 自分の技術の不足点、自己の課題

4	C 摂食・嚥下 訓練	・口腔ケアの実践と習得 ・摂食・嚥下訓練 ・確認テスト	を明確にする。確認テストで間違ったところを復習し、知識を定着させる
5	D 非経口的栄養 摂取の援助	・経管栄養法 経鼻経管栄養法、胃瘻法	【予習】経管栄養法の手順書作成 【復習】自分の技術の不足点、自己の課題を明確にする。確認テストで間違ったところを復習し、知識を定着させる
6		・経管栄養法 援助の実際（演習を行います） ・確認テスト	
7	D 非経口的栄養 摂取の援助	・経静脈栄養法 末梢静脈栄養法 中心静脈栄養法	【予習】解剖整理（動脈・静脈） 【復習】輸液の速度計算、輸液の合併症について、整理する
8	試験	筆記試験	
メッセージ		・予習課題は事前にプリントを配布します。必ず予習課題に取り組んで授業に臨んでください。食事介助が一番多く関わる援助であり、危険が潜んでいる援助であります。正しい知識を身に付け、安全で安楽に、そして楽しく美味しく患者さんが食事できるよう、援助できる能力を学びましょう。	

【評価方法】

筆記試験 90%、学習態度、演習態度、課題提出物 10%を統合して評価する

※課題の提出期限切れは 0 点となりますので、注意してください

【教科書】

- 1.基礎看護技術Ⅱ：医学書院
- 2.看護がみえる vol① 基礎看護技術
- 3.看護がみえる vol② 臨床看護技術

【参考書】

1. 基礎看護学③ 基礎看護技術：ナーシンググラフィカ
2. 基礎看護技術 第8版：医学書院
3. 看護技術ベーシックス 第2版：サイオ出版
4. 看護技術プラクティス：学研
5. 看護技術講義・演習ノート 上巻 日常生活援助技術編：サイオ出版

2)	活動と休息	担当教員	川並 愛	実務経験の有無	あり
----	-------	------	------	---------	----

【授業の概要】

人間の生活は活動と休息の連続である。人が健康な生活を維持していくためには、活動と休息のバランスがとれていることが重要な要素である。運動機能の低下や活動の制限、睡眠障害は人間にとってさまざまな健康障害を引き起こす。対象の身体・心理・社会的側面を理解し、安楽の提供に資する看護実践尿力の修得が望まれる。

【授業の目的】

「看護の基本となる」活動と休息の意義を理解し、活動と休息のバランスが阻害された対象のリスクアセスメントとリスク低減のための看護について学ぶ。

【到達目標】

- 1) ボディメカニクスの原理を理解し、安全な看護を提供するための基本を修得する
- 2) さまざまな体位とその目的を学び、安楽な体位を整えることができる
- 3) 対象者と看護師の双方にとって、安全で安楽な体位変換の技術を修得する
- 4) 車椅子・ストレッチャーについて理解し、安全な移乗の援助と移送の方法を修得する
- 5) 睡眠と睡眠障害について理解し、対応策を検討することができる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考(予習・復習内容)
1	看護援助技術の根底をなすもの	1) 看護技術の2大側面「安全」「安楽」の重要性について 2) 科学的根拠に基づいた看護技術の重要性について	教科書 P2～8 を事前に読む
2	看護援助に共通する技術	1) ボディメカニクスの意義・目的と原理について 2) ボディメカニクスを活用した看護援助への応用 3) 体位の種類と姿勢・体位が心身に及ぼす影響	【予習】地域で生活している高齢者を観察し、加齢に伴う変化を考える 【復習】復習課題あり
3	体位と体位変換	1) 人間にとっての活動・休息の意義 2) 体位変換の意義・目的と安楽な体位保持(ポジショニング)について	【予習】P105～113に掲載されている動画 QR コードを参照してくる 【復習】授業で学んだ知識をレポートにまとめ提出する。技術を修得できるまで練習を繰り返す。
4		3) 体位変換、ポジショニングの実施	
5	安全安楽な移動・移送	1) 安全で安楽な移動(移乗)援助と移送の援助方法の原理・原則の理解	【予習】P118～120に掲載されている動画 QR コードを参照し、‘看護技術手順書’を作成する。 【復習】技術を修得できるまで練習を繰り返す。
6		2) 移乗・移送援助の実施	

7	安楽を図るための 看護技術	1) 罨法 2) タクティールケア	【復習】P142～150 の技術を家族や 友人に実践し、他者評価を受ける
8	筆記試験		

【評価方法】

筆記試験 90%,学習態度 5%,提出課題 5%による総合的に評価する

※課題の提出期限切れは 0 点となりますので、注意してください

【教科書】

任和子，他編:系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 第 17 版，医学書院，2019

岡庭豊，他編:看護がみえる vol.1 基礎看護技術第 1 版，メディックメディア，2018

【参考図書】

深井喜代子，他編:新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ第 3 版，メヂカルフレンド社，2017

竹尾恵子，他編：看護技術プラクティス[第 3 版動画付き]，学研メディカル秀潤社，2015

科目名	日常生活援助技術Ⅲ(排泄)		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	中川 香居、敷地 美帆	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

排泄は、人間が生命を維持するため・快適な生活を営むための基盤である。排泄の援助が日常生活や看護場面で重要な意味を持つためメカニズムを理解しアセスメントすることが必要である。

自分自身の生活体験や、既習の解剖生理の知識を振り返りながら、対象の安全・安楽・自立に配慮し、個性性を考慮しながら安心して排泄するための援助技術を学ぶ。

【授業の目的】

排泄の意義と援助の基本を学び、看護師として必要な判断力を身に付け、その判断に基づく日常生活への援助ができる能力を習得する。

【到達目標】

- 1.排泄の意義及び患者の尊厳を踏まえた援助の基本を理解する
- 2.排泄のメカニズムとアセスメントに必要な知識を習得する
- 3.トイレでの排泄、ベッドサイドでの排泄、ベッド上での排泄など患者の病態および ADL の程度に応じた様々な排泄援助の実践について学ぶ
- 4.排便障害、排尿障害の種類と病態理解、および病態に応じた患者への援助方法を学ぶ
- 5.解剖生理を理解し、浣腸・摘便・導尿を安全に行う知識・技術を習得する

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備 考 (予習・復習等)
1	概論	排泄の意義とメカニズム 失禁への看護	【予習】意義とメカニズム (基礎看護技術Ⅱ P 59～62) 【復習】メカニズムの異常時どのような症状が出現するか、また看護の役割はどのようなことか
2		排泄のアセスメント 残存機能を生かした排泄援助方法の検討	【予習】状態に応じた援助にはどのようなものがあるか(基礎看護技術Ⅱ P 62～65) 【復習】患者の状態に応じた援助方法について
3・4	排泄の援助	自然排尿・自然排便の介助の実践 (トイレにおける排泄介助・床上排泄介助)	【予習】トイレやポータブルトイレへの移乗や尿器・便器について(基礎看護技術Ⅱ P 65～70)【復習】ポータブルトイレへの移乗や尿器・便器について手順を見直す

5・6	排便、排尿障害 のある患者の援助	自然排尿・自然排便の介助の実際 （オムツ交換・陰部洗浄）	【予習】陰部洗浄・オムツ交換の手 技について陰部洗浄（基礎看護技術 Ⅱ P 185～188） オムツ交換（基礎看護技術Ⅱ P 70 ～73） 【復習】陰部洗浄・オムツ交換の手 順見直し
7・8	排泄援助の意義 試験	排便困難な患者のアセスメントと援助 （グリセリン浣腸・摘便）	【予習】浣腸・摘便の手技の理解 （基礎看護技術Ⅱ P 80～86） 【復習】手順書見直し
9・ 10		清潔操作の理解、間歇的導尿の実践 持続的導尿セットの展開	間歇的導尿・持続的導尿の実技 【復習】各援助の手順書見直し
11・ 12		オムツ交換・陰部洗浄演習	【予習】清潔操作と物品・手技の理 解 【復習】手順書見直し
13・ 14		オムツ交換・陰部洗浄演習テスト	【予習】清潔操作と物品・手技の理 解
15		筆記試験	
【メッセージ】 ・排泄は看護技術において必要不可欠のものです。知識・技術をしっかり身につけていけるようがんばりま しょう			

【評価方法】

筆記試験 60%、演習テスト 30%、提出物・授業態度等 10%で評価する

【教科書】基礎看護技術Ⅱ 医学書院

【参考図書】

1. 基礎看護技術Ⅱ メジカルフレンド社
 2. 看護技術プラクティス 学研
- 看護が見える メディックメディア

科目名	診療に伴う援助技術		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	塩田 花純 ・敷地 美帆	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

- 1.呼吸状態を改善し整える技術を学び理解する
- 2.創傷の観察・処置方法を理解する
- 3.検査は患者の病態把握、検査が適切に行われるように看護援助を学ぶ
- 4.医療器具の使用目的を理解し、取り扱い方法を身につける

【授業の目的】

呼吸の意義・創傷の種類及び治療過程を学び・検査の必要性・医療器具などの基本的項目及び援助を学び、看護師として必要な判断力を身につけ日常生活への援助ができる能力を養う

【到達目標】

- 1.呼吸を整える技術・酸素吸入の実際・一時的吸引法・人工呼吸器の援助を学ぶ
- 2.体温・循環調節の手段としての冷・温罨法の意義と方法を学ぶ
- 3.皮膚の構造や創傷の種類・治療過程などの創傷の基本的事項を学ぶ
- 4.薬物の作用機序や体内動態など、薬物療法の基本を理解する
- 5.検査（採血・排泄物・生体検査）における看護

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1	呼吸の意義	呼吸の意義と仕組み・酸素吸入療法	P214～
2	呼吸を整える援助の 基本	排痰法・一時吸引法・持続吸引の援助と看護 吸入の援助と看護	吸引の手順書作成 吸入法手順 * 演習
3			
4			
5	罨法・創傷管理	体温管理・皮膚の構造創傷の種類・治療経過など 基本的知識褥瘡管理・予防	罨法の手順書 * 演習
6			
7	包帯法	包帯の基本的な取り扱い	
8	与薬について	薬物の作用機序・体内動態など薬物療法の基本を 理解する（内服・吸入・点眼の援助）	吸入・点眼手順書
9			
10	輸血管理	輸血療法の基礎知識・方法	
11	注射法	注射の基本知識・皮下・筋肉・静脈注射の基本知識 血 糖測定と静脈血採血の方法	注射法の手順書 * 演習
12			
13	生体機能管理技術	検体検査に伴う看護技術の基本知識	
14	生体検査	各種検査・処置の介助技術を学ぶ	
15	試験	筆記試験	

【評価方法】 筆記試験 80% 授業態度(出席状況を含む)10% 復習や課題 10%の取り組み(提出期限)により総合的に評価する。※課題の提出期限切れは 0 点となりますので注意してください。

【教科書参考書】 医学書院：専門分野Ⅰ基礎看護学Ⅲ 基礎看護技術Ⅱ

科目名	看護過程		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	山下 美登世・谷 早加	実務経験の有無	あり

【授業の概要】 看護実践では、対象の捉え方と判断力、問題解決力、看護を展開するための 論理的思考力が重要となっている。ここでは、その基礎となる方法論を学ぶ。さらに理解を深めるために提出された事例を用いてグループワークを行い看護過程の展開を行う。

【授業の目的】 看護過程の基となる考え方、どのような変遷を経て現在の形に発展したのかを学び、看護過程の意義と目的、今後の展望について学ぶ。

- 【到達目標】
1. 看護過程の概念が理解できる
 2. 看護過程の構成要素および展開のプロセスが理解できる
 3. 事例を用いてアセスメント・看護計画の立案ができる
 4. 看護記録の目的と留意点、その構成について理解できる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習内容）
1	看護過程とは	・看護過程とは ・看護過程の変遷	
2		・看護過程の構成要素 ・アセスメント・情報収集・看護診断 ・看護計画・実施・評価	
3	問題解決過程	・問題解決過程とは ・クリティカルシンキングとは	【予習】自分の周りの問題について
4	ロイ適応看護モデル	・シスターカリスタロイについて ・ロイ適応看護モデルについて ・各記録様式について（語句の意味調べ）	【予習】看護学概論の中から理論家について
5	看護記録	・看護記録とは	
6	事例展開	・受け持ち患者記録Ⅰ グループワーク（情報の意味）	【予習】臨床看護総論の事例を読み込む
7		・受け持ち患者記録Ⅰ グループワーク（分析・解釈方法）	
8		・受け持ち患者記録Ⅰ グループワーク（分析・解釈方法）	
9		・受け持ち患者記録Ⅰの発表会	【予習】関連図を各自で作成
10		・関連図作成及び発表（看護診断ハンドブック	

		使用方法)	
1 1		・受け持ち患者記録Ⅱ 個人ワーク(行動のアセスメント・刺激のアセスメント)	
1 2		・受け持ち患者記録Ⅱ 個人ワーク(行動のアセスメント・刺激のアセスメント)	
1 3		・受け持ち患者記録Ⅲ 個人ワーク(目標設定方法)	
1 4		・受け持ち患者記録Ⅲ 個人ワーク(プラン作成及び評価)	
1 5	筆記試験	筆記試験	
<メッセージ> 看護過程と聞くと難しい印象を持つと思いますが、人は日常あらゆる問題に遭遇していると思います。そのたびに解決方法を考え、知らず知らずのうちに解決しようとしています。その一連の流れを看護に応用したものが看護過程の一種です。患者様の問題点、そして出来ていることにも着目し看護展開がしていけるよう思考を整理していきましょう。			

【評価方法】 筆記試験 75%・授業態度 10%・提出物 10%・出席状況 5%等を勘案して評価する

【教科書】 1. 医学書院 基本看護技術 1
2. 医学書院 看護診断ハンドブック

【参考書】 照林社 看護論と看護過程の展開
ヌーヴェルヒロカワ ロイ看護モデルを使った看護の実践 他

科目名	臨床看護総論		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	中川 香居	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

本単元では「看護学概論」「基礎看護技術」で学んだ知識を基に、医療行政の動向を的的確に把握し、臨床看護の意義と役割理解へと発展させる。「健康障害を持つ対象と家族を身体・心理・社会的に捉え臨床看護の本質を追求する」姿勢を養う。本単元で学んだ知識は今後、専門分野と臨地実習への基盤、応用の基盤となるものである。

【授業の目的】

看護の対象となる人々と状態に応じた看護の考え方を知り、看護はあらゆる場で提供されていることを学ぶ。そして、臨地実習や就職に向けて、対象に応じた日常生活の援助ができる能力を養う。

【到達目標】

1. 健康障害をもつ患者・家族について理解する
2. 健康障害の経過でどの対象にも共通して起こりうる看護の視点と援助の基本を学ぶ
3. 臨床で多く遭遇し、種々の疾患に共通してみられる症状の援助の基本を学ぶ
4. 臨床で多く遭遇し、どの対象にも共通して行われる治療・処置の援助の基本を学ぶ

【授業計画】

回		授 業 内 容	備考（予習・復習等）
1		臨床という場と看護の役割 医療行政の動向と期待される看護師像	【予習】第1章 P2～第2章 P70 まで読む 【復習】看護の役割について教科書見直す
2		経過でとらえる健康障害と各期の看護の役割（急性期）	【予習】第2章 P71～86 まで読む 【復習】看護の役割について教科書見直す
3		経過でとらえる健康障害と各期の看護の役割（慢性期）	【予習】第2章 P86～100 まで読む 【復習】慢性期の看護について見直す
4		経過でとらえる健康障害と各期の看護の役割 （回復期・リハビリテーション）	【予習】第2章 P101～116 まで読む 【復習】看護の役割について見直す
5		経過でとらえる健康障害と各期の看護の役割（周術期）	【予習】第4章 P278～290 読む 【復習】看護の役割について見直す
6		経過でとらえる健康障害と各期の看護の役割（終末期）	【予習】第2章 P116～132 読む 【復習】終末期の看護について
7		臨総看護総論の事例分析・ 基礎看護実習Ⅰ－Ⅱに沿った記録用紙・観察項目の作成	【復習】事例の分析
8	個人ワーク	事例に沿った記録を作成する。	【復習】事例の分析の作成

9 10 11 12	GW	個人の作成した記録用紙・観察項目を基にグループで共有し、それぞれの意見を統合し、グループ用としての ①受け持ち患者フェイスシート ②観察記録用紙 ③観察項目の作成を行う	【復習】授業でできなかった用紙を作成する
13	発表会	グループでの発表	
14	発表会	各グループでの意見交換を行うことで看護の統一ができる。	
15		事例に合わせた援助の実験を体験する。	
【メッセージ】 教科書をしっかり読んできて下さい。 援助ができる知識を身につけましょう。			

【評価方法】 試験 60%・課題提出内容と提出期限・授業態度・グループメンバーとの協調性 40%

【教科書参考書】 臨床看護総論 （医学書院）
 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
 看護が見える①基礎看護技術
 看護が見える②臨床看護技術
 フィジカルアセスメントが見える

科目名	臨床看護総論演習		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	1
担当教員	中川 香居 ・浜田 留美	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

今まで学習してきた基礎看護学における看護学概論及び基礎看護技術、臨床看護総論の学習を踏まえた上で療養生活を送る人々に必要な援助方法を実施できる能力を身につけることができる。

【授業の目的】

基礎看護学実習 1－2 に向けて、対象に必要な援助を考え援助の手順を追うだけでなく、根拠に基づいて安全・安楽な援助を実施し看護者としての基本的態度を身につける。

【到達目標】

看護技術のまとめとして、原理・原則をふまえ、①対象を理解し（認識能力）②その認識事象から援助の必要性を見出し（観察能力）③援助方法を選定し（専門知識力）④実施する（基本の技術の適用）⑤振り返りをして次につなぐ（自己評価能力）能力を養う。

【授業計画】

回		授 業 内 容	備考（予習・復習等）
1	技術演習	・臨床看護総論技術試験についての説明 ・臨床看護総論でグループで見出し、統一した援助で技術試験を行う。	【予習】 手順書の作成 【復習】 手順書の見直し・修正 ・手順書はその都度、グループで追加、修正を行い提出を行う。 ・グループで協力しながら全員が援助技術できるように、空きコマ、放課後も利用して学習を深めること。 ・疑問に思ったこと、困ったことについては、教員に、報告・連絡・相談を行いながら実践していく。 ・適宜、教員が指導に入りながら援助実践を行っていきます。
2		事例に沿った援助技術について、看護実習室でグループ演習しながら、手順書を作成・見直していく。	
3		第1課題（急性期の看護）	
4		第2課題（回復期・慢性期の看護） 援助計画書提出 各グループで技術練習 1つ1つの援助の根拠を考えながら実践すること	
5		各グループで技術練習	
6		1つ1つの援助の根拠を考えながら実践すること 第1回手順書提出 観察項目提出	
7		各グループで技術練習	
8		1つ1つの援助の根拠を考えながら実践すること	
9		第2（最終）回手順書提出	
10		観察項目提出 各グループ技術練習 1つ1つの援助の根拠を考えながら実践すること	
11		各グループで技術練習 1つ1つの援助の根拠を考えながら実践すること	

12	技術演習	・ 基礎看護技術試験	【予習】 手順書を見ながら技術の練習
13			
14			【復習】 振り返りレポートの記入
15			
【メッセージ】 技術は練習あるのみです。患者様に安心して援助を受けていただけるようグループで協力して技術練習をしてください。あなたの行った援助で患者様を笑顔にすることができると嬉しいです。患者様に「今」必要な援助は何かをしっかりと考え実施できるようにしましょう			

【評価方法】

技術試験 80%、授業態度 10%（演習へ取り組む姿勢、グループメンバーとの協働性）、提出物 10%（期限・記録物の内容）

【教科書参考書】

基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ （医学書院） 基礎看護学 臨床看護総論（医学書院）
看護がみえる① 基礎看護技術 （メディックメディア）

專 門 分 野 II

科目名	成人看護概論		
単位数・時間数	1 単位 30 時間	対象年次	1
担当教員	橋本 真祐未	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

現代の経済的・環境的变化は目まぐるしく、そのことに影響を受けるであろう大人の健康問題も複雑化や多様性をましている。成人看護学では、大人を包括的に理解するために、大人の生活や健康に関する最新の動向をキャッチし、時代を生きる大人の健康生活と健康に関する基本的知識の理解を基盤とし、健康問題に対応するための看護アプローチの基本的な考え方・方法を学んでいく。

【授業の目的】

成人看護学の大枠をつかみ看護実践の理解を深め、今後の成人看護学各論の学習能力や臨床能力を養う。

【到達目標】

- ①大人を知る。大人の健康問題を理解する
- ②その人らしくあるように看護の基本となる考え方や方法論について理解する
- ③急性期看護・慢性期看護をイメージできる
- ④対象に対して最適な健康状態をもたらす行為・原理を理解する

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考(予習・復習)
1	成人と生活	①対象の理解：大人になること ②働いて生活を営むこと	【予習】エリクソンの発達段階・ハヴィガーストの発達課題・青年期・壮年期・中年期 P4～40 まで熟読する 【復習】成人の障害発達の特徴を、各期に分けて整理する
2	生活と健康	①成人を取り巻く環境と生活の状況 ②成人の健康の状況 ③生活と健康を守り育むシステム	【予習】 p42～85 まで熟読・ 【復習】健康について生活という視点から多面的・包括的に理解する生活環境や社会状況との関係でとらえる 保健・医療・福祉システムの連携について整理する
3 4	成人への看護 アプローチの 基本	①生活の中で健康行動を生み、育む援助 ②医療における人間関係 ③人々の集団に調和や変化を促す看護アプローチ(ナース役割・マネジメント 倫理的判断・意思決定支援・家族支援)	【予習】 p90～147 まで熟読 【復習】各用語の意味を理解する アンドラゴジー・セルフエフィカシー・リスクマネジメント・ケアマネージャー・モニタリングアドボカシー・オーガニゼーション・グループダイナミクス・クリニカルパス・倫理の原則を整理する
5	ヘルスプロモーションと看護	①ヘルスプロモーションとは 個人・健康増進への環境づくり ②ヘルスプロモーションを促進する看護	【予習】 p152～168 熟読 ヘルスプロモーションとは何か 【復習】個人の主体的健康づくり・健康増進のための環境づくりをまとめ整理する

6	健康をおびやかす要因と看護	①健康バランスの構成要素 ②生活行動がもたらす健康問題と予防（飲酒・喫煙・活動量低下と運動不足肥満・環境衛生・感染症・引きこもり・うつ）	【予習】 p 170～187 熟読 【復習】 健康と病気の違いを理解する。環境・人間・病因の3方向から看護からの健康を整理する
7	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	健康の急激な破綻 ①生命の危機状態 ②急性期にある人の看護・救急医療を必要とする人々	【予習】 P190～211 フィンの危機モデルを表6-4
8	慢性病との共存を支える看護	①慢性病患者の理解 ②慢性病との共存を支える看護の実践	【予習】 首尾一貫感覚・エンパワメント・エンパワメントエディケーション・セルフケア・セルフマネジメントの意味を調べる 【復習】 慢性病患者のセルフマネジメント能力を高めるアプローチについてまとめる
9	障害がある人の生活とリハビリテーション	①障害がある人とリハビリテーション ②障害がある人の生活を支援する看護	【予習】 障害とリハビリテーション p234～246 熟読 【復習】 急性期・回復期・維持期のリハビリと看護についてまとめる
10	人生の最期のときを支える看護	①延命医療から患者の自己決定を重視した医療へ・緩和ケア ②人生の最後の時を支える看護	【予習】 ターミナルケア・ホスピスケア・緩和ケア・エンドオブライフケアの定義を調べる 【復習】 全人的苦痛・霊的苦痛・ケアリングの要素を述べられるように整理する
11	成人の健康生活を促すための看護技術	①エンパワメントエデュケーション ②セルフマネジメントへの看護技術 ③自己効力を高める看護教育技術	【予習】 p 275～291 熟読 【復習】 コンプライアンスを高めるための方法自己効力に影響する4つの情報を整理する
12	治療過程にある患者への看護技術	①回復促進のための看護技術 ②安全を援助する技術 ③社会復帰にむけた看護技術 ④ボディイメージに対する看護技術 ⑤そのひとらしい日常生活支援の看護技術	【予習】 p 294～334 【復習】 治療に伴う疼痛・不快症状はどのような機序でおこるのかまとめる
13	症状マネジメントにおける看護技術	①症状マネジメントと看護 ②症状マネジメントと看護実践モデル ③症状マネジメントモデルから導かれた看護のアプローチ	【予習】 p 338～369 【復習】 症状体験を効果的に傾聴するためにはどう対応するか整理する。表12-3 痛みの表現例を理解する
14	療養の場を移行する人々へ	①療養の場の移行支援とは、活動・理由 ②退院後の支援	【予習】 p383～385 【復習】 退院支援方法の基本的な考え方・

	の看護技術	③再入院時の移行支援	退院支援の要支援者を見極める基準を理解する
15		①移植・再生医療 ②新たな治療法・医療処置を受ける患者・家族の看護	【予習】 p 406～ 【復習】 臓器移植を理解する
16	試験	筆記試験	
【メッセージ】成人看護学概論は、成人の健康生活を促すための基本となる看護実践への大切な学習である。授業前には、しっかりと予習し熟読しておいてください。時にグループワーク等もしながら進めていきます。予習したところで理解不明な点がありましたら、一緒に考え学習していきましょう。			

【評価方法】

筆記試験 80% 授業態度(出席状況を含む)10%

復習や課題 10%の取り組み(提出期限)により総合的に評価する

※課題の提出期限切れは 0 点となりますので注意してください

【教科書】

成人看護学総論：医学書院

【参考図書】

看護倫理：医学書院

ヘルスプロモーション：メジカルフレンド社

ヘルスアセスメント：南江堂

成人看護技術：南江堂

成人看護援助論Ⅰ（呼吸器・消化器系）

1. 単位数と時間数

単位数	1 単位	時間数	30 時間
-----	------	-----	-------

2. 科目構成

1) 呼吸器	0.5 単位	15 時間
2) 消化器	0.5 単位	15 時間

3. 対象年次

1 年次

4. 評価方法

- 1) 本科目の評価点配分は呼吸器 50% 消化器 50%とする。合算し 60 点に満たない場合は、再試験対象となる。
- 2) ただし、1)に該当せず、どちらか一方が 60%に満たない場合は、確認試験を実施し知識の定着を確認する。

1)	呼吸器	担当教員	浜田 留美	実務経験の有無	あり
----	-----	------	-------	---------	----

【授業の概要】

呼吸器障害を持った患者の看護を学ぶにあたり、既習の解剖生理学・病理学の知識を踏まえ、患者の持つ身体

的、心理的、社会的問題に視点を移しながら、看護援助の方法論を学習していく

【授業の目的】

呼吸器機能障害を持った成人期にある対象を理解し、個別性を重視した看護を行う基礎を習得する。

【到達目標】

1. 呼吸器疾患の疾患を持つ患者のアセスメントが出来る。
2. 主な呼吸器疾患の疾患を持つ患者の看護が理解できる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1	医療の動向と看護	呼吸器疾患の動向、社会や環境の変化を視野に入れ、ケアの考え方・あり方 患者の特徴と看護の役割	P 6～18
2	各期の経過と看護	急性期・回復期・慢性期・終末期の看護 症状に対する看護（咳嗽・血痰・胸痛・呼吸困難）	P 226～245
3	主要疾患の経過と看護	検査・治療・処置を受ける患者の看護	P 246～251
4		人工呼吸器装着・気管切開患者の看護	P 251～273
5		気管切開・胸腔ドレナージを受ける患者の看護	P 273～283
6		手術を受ける患者の看護（術前・術中・術後・回復期）	P 254～303
7		疾患を持つ患者の看護	P 305～356
8	試験	筆記試験	

【評価方法】

筆記試験 80% 授業態度(出席状況を含む)10% 復習や課題 10%の取り組み(提出期限)により総合的に評価する。※課題の提出期限切れは0点となりますので注意してください。

【教科書】

医学書院 成人看護学②：呼吸器

【参考図書】

病気がみえる(呼吸器) メディックメディア

2)	消化器	担当教員	中川 香居	実務経験の有無	あり
----	-----	------	-------	---------	----

【授業の概要】

消化器疾患を持った患者を学ぶにあたり、既修の解剖生理学・病理学の知識を踏まえ、患者の持つ身体的・

心理的・社会的問題に視点を移しながら、看護援助の方法論を学んでいく。

【授業の目的】

1. 消化器疾患の医療の動向と看護を知る。
2. 疾患の経過を急性期・慢性期・回復期・終末期の4期に分けそれぞれに踏まえた援助を知る。
3. 消化器の構造を整理する。
4. 消化器疾患患者の主要疾患の経過や特徴に応じた看護を学び、主観的データおよび客観的データから
アセスメント方法を学ぶ。

【到達目標】

消化器疾患を持った成人期にある対象を理解し個別性を重視した看護を行う

基礎を習得する。アセスメントでは具体的な指標・評価・看護診断・看護実践にいたる目を養う。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	予習・復習内容
1	疾患をもつ患者の経過と看護	(急性期・回復期・慢性期・終末期) 大腸がん患者を例えて)	【予習】 p 268～276 熟読 消化器系の解剖を覚えておく 【復習】 小テストを行い・ポイントを整理する
2・3	症状に対する看護	嚥下困難・おくび・胸やけ・吐き気・嘔吐・腹痛・吐血・下血・下痢・便秘のある看護について調べる。	【予習】 p 277～289 熟読 【復習】 小テスト・嚥下困難・吐血・下血を整理する
4	腹部膨満・意識障害のある患者の看護	鼓張・腹水・食欲不振・体重減少・黄疸	【予習】 p 290～299 熟読 【復習】 小テスト・腹水・黄疸の機序を整理する
5	検査を受ける患者の看護	腹部エコー・CT・MRI・肝生検・上部・下部消化管内視鏡検査・造影検査・ERCP	【予習】 p 299～322 まで読み込む 【復習】 小テスト上部・下部消化器検査整理しておく
6	疾患をもつ患者の看護	食道がん・胃・十二指腸疾患・腸閉塞 大腸がん・肝臓・胆嚢疾患・肝硬変・胆石・	【予習】 p 342～p 424 まで読み込む 【復習】 小テスト各疾患の看護をポイントおさえ整理する
7	膵臓疾患患者の看護	膵炎・手術時の看護	【予習】 p 424～433 【復習】 小テスト

8	試験	テスト	小テスト内容を含む
メッセージ 消化器の看護を学ぶにあたっては、患者の身体的・心理・社会的特徴を明確にしなければならない。経過別・症状別・検査及び治療をしっかり修得してほしいです。しかしながら解剖学的に学習していないと看護に繋がらない為、これを機会に再度、消化器の解剖学・生理学を復習され、消化器看護に挑んでほしいです。 必要時プリントで課題等を出します。必ず予習・復習をしてください。必ず国家試験の役に立ちます。			

【評価方法】

筆記試験 80% 授業態度(出席状況を含む)10% 復習や課題 10%の取り組み(提出期限)により総合的に評価する。

評価する。

※課題の提出期限切れは 0 点となりますので注意してください。

【教科書】

消化器：成人看護学： 医学書院

【参考図書】

医学書院・病気が見える

メデックメディア

スーパービジュアル消化器

看護国試ココポイ

成人看護援助論Ⅱ（運動器、内分泌・代謝系）

1. 単位数と時間数

単位数	1 単位	時間数	30 時間
-----	------	-----	-------

2. 科目構成

1) 運動器	0.5 単位	15 時間
2) 内分泌・代謝系	0.5 単位	15 時間

3. 対象年次

2 年次

4. 評価方法

- 1) 本科目の評価点配分は運動器 50%、内分泌・代謝系 50%とする。合算し 60 点に満たない場合は、再試験対象となる。
- 2) ただし、1) に該当せず、どちらか一方が 60 点に満たない場合は、確認試験を実施し知識の定着度を確認する。

1)	運動器	担当教員	橋本 真祐未	実務経験の有無	あり
----	-----	------	--------	---------	----

【授業の概要】

1. 運動器における成人という概念を把握した上で、身体的・精神的な障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態に置かれているかを理解し、その時のニーズを満たすためにはどうすればよいかを学習する。
2. 看護では、症状別・経過別・疾患別看護の実際を理解するすべてを看護過程に基づいて展開することにより、患者の有する問題を倫理的・総合的に理解する。

【授業の目的】

運動器系の疾患を持った成人期にある対象を理解し、個別性を重視した看護を行う基礎を習得する。

【到達目標】

1. 運動器の医療の動向・看護上の問題・その特質について理解する
2. 体位の取り方・機能訓練の方法・合併症や二次障害の予防・装具・自助具・生活への援助方法等運動器疾患の基本的な知識・技術を学ぶ
3. 運動器疾患の症状・検査を受ける患者のアセスメント・看護目標・看護活動を段階的に学ぶ
4. ギプス固定・牽引などの保存的治療方法、外科的手術を受ける看護について学ぶ
5. 各疾患を持つ患者の看護を看護過程にまとめて詳しく学ぶ

【授業計画】

回	項目	授 業 内 容	備考
1	医療の動向と看護	疾病構造・医療供給体制の変化 患者の特徴と看護の役割	P 8～17 熟読
2	主要疾患を持つ患者の経過と看護	大腿骨骨幹部骨折・関節リウマチ患者の看護	P 188～熟読
3		身体機能の評価 良肢位と廃用症候群 ADL の評価	【予習】パーセル指数 道具の種類と活用
4		保存療法を受ける患者の看護 ギプス固定・副子固定	【予習】ギプス固定の 手順
5		手術を受け継患者の看護	【予習】P254～熟読
6		脊髄損傷患者の看護	【予習】P293～
7		四肢の切断術と看護	【予習】P270～
8	試験	筆記試験	

【評価方法】

筆記試験 90%、学習態度・提出課題 10%、による総合的評価する

【教科書参考書】

医学書院：専門分野Ⅱ成人看護学 10 運藤器

病気が見える：メディックメディア

生計外科ナース 1 年生：MC メディカ出版

2)	内分泌・代謝系	担当教員	谷 早加	実務経験の有無	あり
----	---------	------	------	---------	----

【授業の概要】

成人看護学総論において成人各期の特徴を学び、成人という概念を理解したうえで、既習の解剖生理学・生化学などで学んだ内分泌・代謝系の知識を臨床実践に結び付けて統合し、疾患の理解及び患者の看護を学ぶことで、患者・家族がかかえる疾患、症状の理解につなげる。また、代表的な慢性疾患である内分泌・代謝疾患の患者の特徴を、身体的・心理的・社会的側面から捉え、それぞれに対する看護援助の視点を学び、さらに慢性疾患患者に特徴的な役割の1つである患者・家族への教育的支援について触れ、その中でヘルスプロモーションの考え方について学ぶ。

【授業の目的】

内分泌・代謝疾患を持った成人期にある対象を理解し、看護の対象である人間のあらゆる変化に対応できる知識・技術・態度を養うことで、慢性疾患患者に特徴的な役割の1つである患者・家族への教育的支援、個別性を重視した看護を実践できる能力を養う。

【到達目標】

1. 代表的な慢性疾患である内分泌・代謝疾患の医療の動向と看護を知る。
2. 患者の特徴を身体的、心理、社会的側面からとらえ、それぞれに対する看護援助の視点が理解できる。
3. 慢性の経過をたどる糖尿病について学び、慢性期のみならず急性増悪、急性合併症を含めた経過別看護、症状別看護、治療（食事療法、運動療法、薬物療法）について理解できる。
4. 慢性疾患患者に特徴的な役割の1つである患者・家族の教育的支援、ヘルスプロモーションについて理解できる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習等）
1	医療の動向	・ 内分泌器官の構造と機能について復習 ・ 主要な疾患における医療の動向 ・ 患者の特徴と看護の役割	【予習】 ホルモンの産生場所、働き 慢性疾患患者の特徴 【復習】 内分泌・代謝疾患の患者の特徴を身体的・心理的・社会的にわけて整理する
2	下垂体疾患 患者の看護	・ 下垂体ホルモン復習問題 ・ 下垂体前葉機能亢進症患者の看護/先端 巨大症の看護 ・ 下垂体後葉疾患患者の看護/ADH 不適切 分泌症候群/尿崩症	【予習】 下垂体ホルモンの働き（前葉、後葉）、機 能亢進、機能低下異常について 【復習】 国家試験問題（内分泌系）を行い、自分で調べな がら整理する。
3	甲状腺疾患 患者の看護	・ 甲状腺機能亢進症 ・ 甲状腺機能低下症 ・ 甲状腺クリーゼ患者の看護	【予習】 甲状腺ホルモンの働き バセドウ病の病態生理と症状 【復習】 甲状腺機能亢進症と、甲状腺機能低下症 の症状と看護の違いを整理する 【課題】 第 7 章の事例から関連図作成（パフォー マンス評価対象とします）
4		・ 甲状腺切除術を受ける患者の看護	【予習】 全身麻酔について

			【復習】術後合併症について整理する
5	糖尿病患者 の看護	・疾患の特徴 ・身体的、心理、社会的な特徴 ・合併症予防に対する援助 ・長期間の自己管理に伴う問題	【予習】 インスリン、グルカゴン、カテコールアミン、副腎皮質ホルモンについて、糖代謝、2型糖尿病の病態生理 【復習】 第7章、糖尿病の事例を読み、p306のチェックポイントについて整理する
6		・看護の実際 ・患者・家族への教育的アプローチ /健康的な食（食事療法）に関する援助 /活動的な生活（運動療法）に関する援助	【予習】 栄養状態のアセスメントと、運動療法による効果について整理しておく 【復習】 授業を受けての学びを予習学習に追加し整理する。 【課題】 自分自身の食事療法、運動療法を考案し、パンフレット作製（パフォーマンス評価対象とします）
7		/薬物療法のある生活への援助 /経口血糖降下薬・インスリン注射 ・検査を受ける糖尿病患者の看護 /血糖測定演習	【予習】 経口血糖降下薬の種類、インスリンの種類について整理しておく 【復習】 授業を受けての学びを予習学習に追加し整理する。 【課題】 自己血糖測定手順書作成
8	試験	筆記試験	
メッセージ		・予習課題は事前にプリントを配布します。必ず予習課題に取り組んで授業に臨んでください。 ・内分泌器官の構造と機能、分泌異常については学習したうえで授業に臨んでください。まず、ホルモンについて理解できていないと授業の理解が難しくなります。 ・糖尿病患者は全国1000万人と推定され、「糖尿病列島」とも称されています。実習でも関わることが少なくないでしょう。糖尿病の治療の目標を理解し、どのような看護が必要なのか、教育的支援と、予防・ヘルスプロモーションの考えを持って授業に取り組んでいきましょう。	

筆記試験 90%、学習態度、課題提出物 10%を統合して、総合的に評価する

※課題の提出期限切れは0点となりますので、注意してください

【教科書】

血液造血器 成人看護学④：医学書院

【参考図書】

①内分泌・代謝： メディカルフレンド社

②内分泌・代謝： ナーシンググラフィカ社

③病気がみえる（内分泌・代謝）：メディックメディア

④糖尿病パンフレット：日本赤十字病院

⑤看護師国家試験のためのゴロあわせ集：かんごろ：メディックメディア

⑥看護技術がみえる2：臨床看護技術

成人看護援助論Ⅲ（循環器・血液造血器系）

1. 単位数と時間数

単位数	1 単位	時間数	30 時間
-----	------	-----	-------

2. 科目構成

1) 循環器	0.5 単位	15 時間
2) 血液造血器	0.5 単位	15 時間

3. 対象年次

2 年次

4. 評価方法

- 1) 本科目の評価点配分は循環器 50%、血液造血器 50%とする。合算し 60 点に満たない場合は、再試験対象となる。
- 2) ただし、1) に該当せず、どちらか一方が 60 点に満たない場合は、確認試験を実施し知識の定着度を確認する。

1)	循環器	担当教員	川並 愛	実務経験の有無	あり
----	-----	------	------	---------	----

【授業の概要】

本単元は一年次に履修した「解剖生理学」および「病態生理学」を基礎とし、循環器の主要疾患における疾患別看護を学び、臨床看護へ応用・発展していく。さらに、医療に主軸を置く看護師としての役割だけではなく、循環器疾患における社会の動向を踏まえた上で、一次予防から三次予防を見据えた包括的な看護実践を提供する人材育成のための基本となる知識を身につけることを狙いとする。

【授業の目的】

循環器疾患を有する対象および家族の心理、社会的な問題を理解すると共に、循環器系の健康が生涯にわたり最善となるよう疾患の予防、発見、悪化・再発を防ぐための治療と看護を実践できる基礎的な能力を養う。

【到達目標】

1. 循環器疾患に関する医療の動向と関係法規および看護職に期待される役割について理解する。
2. 循環器疾患と生活習慣の関係性および一次予防の重要性と意義について述べることができる。
3. 虚血性心疾患により急性期症状を呈する対象の看護とその後の生活拡大に向けた看護を理解する。
4. 心不全により慢性期・終末期症状を呈する対象の看護および求められる看護職の役割を理解する。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考(予習・復習)
1	医療の動向	1)循環器疾患における医療の動向と看護 2)一次予防に関する関係法規と看護の役割	【予習】1 年次に履修した解剖生理・病態生理の復習を行う 【復習】授業プリントを読み直し、調べたことを追記する
2	虚血性心疾患患者への看護	1)狭心症・心筋梗塞患者への検査、治療とその看護 2)一次、二次、三次予防 ～生活習慣是正を目的とした患者教育～ 3)心臓リハビリテーションの意義と看護の役割 4)確認テスト	【予習】予習課題あり 【復習】狭心症と心筋梗塞の違いを整理する。国家試験問題の復習
3			
4	心不全患者への看護	1)左心不全、右心不全の主要症状と看護 2)慢性心不全で疾患とともに生活する患者を支える看護 3)心不全の終末期におけるエンド・オブ・ライフケア	【予習】予習課題あり 【復習】課題 ・レポート 『心不全により慢性期・終末期症状を呈する対象の看護および求められる看護職の役割について』 ・心不全患者の関連図
5			

6	不整脈	1)不整脈を有する対象の看護 主要な不整脈と対応方法	【予習】 予習課題あり 【復習】 国家試験問題の復習
7	動脈、静脈系疾患患者への看護	1)動脈瘤疾患の理解 閉塞性動脈硬化症患者への看護 2)深部静脈血栓症患者への看護 3)挫滅症候群の理解 4)確認テスト	【予習】 予習課題あり 【復習】 確認テストの復習を行う
8	試験	筆記試験	
【メッセージ】 予習課題は事前にプリントを配布します。課題プリントは授業中も使用しますので持ってきてください。 循環器は生命維持の要(かなめ)です。既習の‘循環器系の構造と機能’は再復習した上で、授業に臨みましょう。 学生主体型の授業ですので、予習してきた事柄を活発に述べて、学び合いの場としましょう。			

【評価方法】

筆記試験 80%、提出課題 20%により総合的に評価する。

【教科書】

系統看護学講座専門分野Ⅱ「循環器」成人看護学③，第15版第1刷，医学書院

【参考書】

ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護②「循環器」，第1版第1刷，メディカ出版

看護師国家試験解剖生理学クリアブック，第2版，医学書院

早期から始める心不全のトータルケア，看護技術 2018，64(12)，メヂカルフレンド社

2)	血液・造血器	担当教員	谷 早加	実務経験の有無	あり
----	--------	------	------	---------	----

【授業の概要】

成人看護学総論において成人各期の特徴を学び、成人という概念を理解したうえで、既習の解剖生理学・病理学の知識を踏まえ、血液・造血器疾患を持つ対象及び家族の看護を学ぶ。

血液・造血器疾患は、病態の悪化及び治療に伴い血液3系統の機能が低下し、多様な症状・徴候を呈する。血液・造血器腫瘍の急性期とは生命の危機に直面している状態をいう。寛解期とは血液像が正常化し、発病前と同様な生活を営める時期、すなわち致命的な状態を脱した時期をいう。いずれも病態が進展しても自覚症状に乏しく、病気のなりゆき、個別的な状態を踏まえた看護が重要である。また、化学療法を受ける対象に対する有害事象の症状や、身体的・心理的・社会的苦痛の緩和を含めたアプローチ法について学習し、対象及びその家族のニーズを満たすための看護援助の方法を学んでいく。

【授業の目的】

血液・造血器系疾患を持った成人期にある対象を理解し、看護の対象である人間のあらゆる変化に対応できる知識・技術・態度を養うことで、個別性を重視した看護を実践できる能力を養う。

【到達目標】

- ①血液・造血器疾患に関する医療の動向と看護の概要を理解する。
- ②主要症状（貧血・出血傾向・易感染）を有する患者の特徴を理解しその看護の実践を理解する。
- ③造血器腫瘍患者に行われる化学療法・放射線療法・造血幹細胞移植における看護を理解する。
- ④白血病の看護を各病期に分けて経過別に理解する。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習内容）
1	医療の動向	・血液及び造血器疾患の理解と罹患率/死亡率/生存率 ・主要な疾患における医療の動向 ・患者の特徴/看護の役割	【予習】血液3系統の働きと正常値 【復習】血液3系統の異常がおこると、患者にどのような症状が出現するのか、また看護の役割について整理する
2	主要症状を有する患者の看護	・貧血のある患者の看護 鉄欠乏性貧血/溶血性貧血/ 巨赤芽球性貧血/再生不良性貧血	【予習】鉄欠乏性貧血/溶血性貧血/巨赤芽球性貧血/再生不良性貧血の病態生理 【復習】主要貧血の治療と看護についての違いを整理する
3		・出血傾向のある患者の看護 血友病/播種性血管内凝固症候群 ・易感染時の看護 白血球減少時患者の看護) ・確認テスト（国試問題）	【予習】血液凝固因子の働き 【復習】出血の予防、出血時の処置について、感染予防対策について整理する 国家試験問題で間違えた箇所について、再学習する
4		・骨髓穿刺を受ける患者の看護 ・確認テスト（国家試験問題）	【予習】骨髓穿刺について各自調べてくる 【復習】国家試験問題で間違えた箇所について、再学習する
5	造血器腫瘍患者の看護	・造血幹細胞移植を受ける患者の看護	【予習】骨髓移植について調べてくる

		・がん化学療法看護 放射線療法と看護	【復習】授業での学びを追加し整理する 【課題】骨髄移植についてのレポート作成 (パフォーマンス評価対象とします)
6	白血病	・白血病患者の看護 急性骨髄性白血病/急性リンパ性白血病/ 慢性骨髄性白血病/慢性リンパ性白血病/ 成人 T 細胞白血病	【予習】急性白血病の病態生理 【復習】看護師国家試験過去問題 【復習】急性白血病の病態関連図作成 (パフォーマンス評価対象とします)
7	白血病	急性白血病 (経過別看護) ・寛解導入療法と寛解後療法 (地固め療法、維持・強化療法) ・寛解導入期/寛解期/再発期の看護	【予習】寛解導入療法と寛解後療法とは 【復習】抗がん剤の副作用と時期について整理する。急性期、慢性期、再発期の看護について述べるができるよう、各自復習しておく。
8	試験	筆記試験	
【メッセージ】 ・予習課題は事前にプリントを配布します。必ず予習課題に取り組んで授業に臨んでください。 ・血液は全身への酸素の供給や栄養の補給、感染防御、止血機能などといった重要な役割を果たしており、生命維持上極めて重要です。既習である血液 3 系統の機能、正常と異常は理解したうえで授業に臨んでください。			

【評価方法】

筆記試験 90%、学習態度、課題提出物 10%を統合して、総合的に評価する。

※課題の提出期限切れは 0 点となりますので、注意してください。

【教科書】

血液造血器 成人看護学④：医学書院

【参考図書】

- ①血液造血器： メヂカルフレンド社
- ②血液造血器： ナーシンググラフィカ社
- ③病気がみえる（血液）：メディックメディア
- ④看護国試ココポイ！：照林社
- ⑤なぜ・どうして（血液・造血器）：メディックメディア

成人看護援助論Ⅳ（腎・泌尿器，女性生殖器系）

1. 単位数と時間数

単位数	1 単位	時間数	30 時間
-----	------	-----	-------

2. 科目構成

1) 腎・泌尿器	0.5 単位	15 時間
2) 女性生殖器系	0.5 単位	15 時間

3. 対象年次

2 年次

4. 評価方法

- 1) 本科目の評価点配分は腎・泌尿器 50%、女性生殖器系 50%とする。合算し 60 点に満たない場合は、再試験対象となる。
- 2) ただし、1) に該当せず、どちらか一方が 60 点に満たない場合は、確認試験を実施し知識の定着度を確認する。

授業科目	腎泌尿器	担当教員	濱邊 由美	実務経験の有無	あり
------	------	------	-------	---------	----

【授業の概要】

腎・泌尿器系疾患を持つ成人期の人々の身体的・心理的・社会的特徴や、家族を含めた健康課題・ニーズ、健康障害が及ぼす心身への影響へのアセスメント方法、看護援助について講義する。急性、慢性、周手術、終末各期に必要な看護実践の基盤となる知識や技術により、各疾患・に特徴的な看護実践についても教授する。

【授業の目的】

- 1・急性、慢性、周手術、終末各期の健康問題によりストレス・危機状況にある成人患者・家族に対して、人間関係を基盤として、問題解決の系統的アプローチ、看護理論・技術を適用し、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出すように働きかける看護能力を養う。
- 2・系統別健康問題のある成人患者・家族の身体・心理・社会的特徴を捉え、問題解決の系統的アプローチと看護理論、看護技術を適用し、成長・発達・適応へ向けての看護方法を修得する

【到達目標】

- 1・各期の患者の疾患や病態、その生体反応の特徴について記述することができる。
- 2・各疾患の経過、健康障害が及ぼす患者、家族への影響について適切な看護を記述することができる。
- 3・各疾患、健康問題へのアセスメントや予防についての安全な看護の実践方法を説明できる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習内容）
1	患者の特徴、症状と看護	・腎・泌尿器疾患を持つ患者の特徴、尿生成のメカニズム ・よくみられる症状、よく使われる薬剤 ・酸・塩基平衡、電解質異常 ・症状別看護、看護の役割	【予習】腎、泌尿器の解剖生理と機能 電解質、酸塩基平衡の基準値、教科書第3章（P40～66）を読んでおく 【復習】腎、泌尿器系の異常がおこると、患者にどのような症状が出現するのか、また看護の役割について整理する
2	検査・処置・手術	・主な検査、治療、処置、手術 ・検査データのみかた ・検査を受ける患者の看護 ※確認テスト（国家試験問題）	【予習】教科書第4章（P68～P112）、（P226～P235）を読んでおく 【復習】主な検査、処置、手術と検査データからのアセスメントについて理解する ※国家試験問題で間違えた箇所について、再学習し提出する
3	主要症状を有する患者の看護	・腎不全、糸球体疾患、全身性疾患による腎障害、尿細管間質性腎炎、腎梗塞、尿細管機能異常、腎性尿崩症、妊娠高血圧症候群（HDP） ※確認テスト（国家試験問題）	【予習】教科書第5章（P114～P152）P247～P264を読んでおく 【復習】主要な疾患の症状、検査、治療、看護について整理する ※国家試験問題で間違えた箇所について、再学習し提出する
4		・感染症、尿路の通過障害と機能障害、神経因性膀胱、尿失禁、前立腺肥大症、尿路損傷、尿路結石	【予習】教科書第5章（P152～P174）、P241～P247、P265～P268を読んでおく

		※確認テスト（国家試験問題）	【復習】※国家試験問題で間違えた箇所について、再学習し提出する
5	尿路・性器の腫瘍	・腎細胞がん、ウィルムス腫瘍、尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、精巣腫瘍 ・勃起障害（ED）、陰嚢水腫、停留精巣、精索捻転 ・がん化学療法看護 放射線療法と看護 ・前立腺全摘除術を受けた患者の看護 ※確認テスト（国家試験問題）	【予習】教科書第 5 章（P175～P192）、P269～P302、P321～P329 を読んでおく ※尿路変更術とその看護についてレポート提出してください 【復習】授業での学びを追加し整理する ※国家試験問題で間違えた箇所について、再学習し提出する
6	看護過程	糖尿病性腎症から、透析導入となった患者の看護過程	【予習】慢性腎臓病、腎不全の病態生理教科書第 7 章（P314～P321）の事例 ※慢性腎不全の患者の看護過程について、1 号紙、関連図、観察項目を完成させてください 【復習】復習課題配布
7	看護過程	膀胱がん患者の看護過程	【予習】寛解導入療法と寛解後療法とは 【復習】抗がん剤の副作用と時期について整理する。急性期、慢性期、再発期の看護について述べるができるよう、各自復習しておく。 【課題】事例から、1 号紙による情報の分類、分析、解釈を行い、関連図を完成し、看護診断を導き出してください （パフォーマンス評価対象とします）
8	試験	筆記試験	
【メッセージ】予習課題は事前にプリント配布もします。必ず予習課題に取り組んで授業に臨んでください。 腎・泌尿器系臓器の最も重要な役割は体液の恒常性維持であり、生命維持上極めて重要です。このシステムの傷害は、基本的な生命の維持、さらには社会生活に重大な影響を及ぼします。既習である解剖生理、病態生理を踏まえ、正常と異常を理解したうえで授業に臨んでください。			

【評価方法】

筆記試験 80%、学習態度 10%、課題提出物 10%を統合して、総合的に評価する。

※課題の提出期限切れは 0 点となりますので、注意してください。

【教科書】

腎・泌尿器 成人看護学⑧：医学書院

【参考図書】

- ①腎/泌尿器/内分泌・代謝： メディカルフレンド社 ②イメカラ（腎臓）： メディックメディア
 ③病気がみえる（腎臓）：メディックメディア ④腎・泌尿器疾患ビジュアルブック第 2 版：学研

2)	女性生殖器	担当教員	森田 婦美子	実務経験の有無	あり
----	-------	------	--------	---------	----

【授業の概要】

女性生殖器系疾患を持つ成人期の人々の身体的・心理的・社会的特徴や、家族を含めた健康課題・ニーズ、健康障害が及ぼす心身への影響へのアセスメント方法、看護援助について講義する。急性、慢性、周手術、終末各期に必要な看護実践の基盤となる知識や技術により、各疾患に特徴的な看護実践についても教授する。

【授業の目的】

1. 急性、慢性、周手術、終末各期の健康問題によりストレス・危機状況にある成人看護・家族に対して、人間関係を基盤として、問題解決の系統的アプローチ、看護倫理・技術を適応し、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出すように働きかける看護能力を養う。
2. 系統別健康問題のある成人患者・家族の身体・心理・社会的特徴を捉え、問題が行けるの系統的アプローチと看護倫理、看護技術を適用し、成長・発達・適応へ向けての看護方法を修得する。

【到達目標】

1. 各期の患者の疾患や病態、その生体反応の特徴について記述することができる。
2. 各疾患の経過、健康障害が及ぼす患者、家族への影響について適切な看護を記述することができる。
3. 各疾患、健康問題へのアセスメントや予防についての安全な看護の実践方法を説明できる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		産婦人科外来、病棟の看護	
2		女性生殖器疾患の患者の看護	
3・4		子宮がん患者の看護	
5		卵巣がん患者の看護	
6		月経異常、月経随伴症状、不妊症、不育症患者の看護	
7		乳がん患者の看護	
8		筆記試験	

【評価方法】 筆記試験・授業態度・出席状況等

【教科書】 医学書院 成人看護学⑨ 女性生殖器

【参考書】

成人看護援助論Ⅴ（脳神経・感覚器系）

1. 単位数と時間数

単位数	1 単位	時間数	30 時間
-----	------	-----	-------

2. 科目構成

1) 脳神経	0.7 単位	20 時間
2) 感覚器系	0.3 単位	10 時間

3. 対象年次

2 年次

4. 評価方法

- 1) 本科目の評価点配分は脳神経 70%、感覚器系 30%とする。合算し 60 点に満たない場合は、再試験対象となる。
- 2) ただし、1) に該当せず、どちらか一方が 60 点に満たない場合は、確認試験を実施し知識の定着度を確認する。

1)	脳・神経系	担当教員	敷地 美帆	実務経験の有無	あり
----	-------	------	-------	---------	----

【授業の概要】

成人看護学総論において成人各期の特徴を学び、成人という概念を理解したうえで、既習の解剖生理学の知識を臨床実践に結び付けて統合し、疾患の理解及び患者の看護を学ぶことで、患者・家族がかかえる疾患、症状の理解につなげる。

脳・神経疾患患者は、さまざまな機能障害を伴って生活の自立困難や障害をかかえ、おのずから心理・社会的問題も多くかかえることになり、QOLが大きく障害される可能性は高い。このような脳・神経疾患に対して、急性期は救命に向けた処置や援助が優先されるが、回復期以降はQOLの維持・拡大のために支援など、幅広い看護が必要となる。したがって、複雑な疾患の病態に関する基本的な知識と、それに基づいた各種の看護技術の習得とともに、患者の持つ身体的・心理的・社会的問題に視点を移しながら、看護援助の方法論を学んでいく。

【授業の目的】

脳・神経疾患患者のかかえる問題は生命にかかわるものから、日常生活動作や容姿にかかわるものまで多岐にわたる。発症直後の急性期から回復期、慢性期をたどる患者の経過別看護を学び、各期に応じた対象と家族への看護と個別性を重視した看護を行う基礎を習得する。

【到達目標】

1. 脳・神経疾患の医療の動向と看護を理解できる
2. 患者の特徴を身体的、心理、社会的側面からとらえ、それぞれに対する看護援助の視点が理解できる
3. 脳・神経疾患患者の主要疾患の経過や特徴に応じた看護を学び、主観的データおよび客観的データからアセスメント方法を理解できる
4. 急性期（患者の救命を第一）から回復期（リハビリテーション）慢性期（生活者としての立場）を考慮し関連付けた看護の展開ができる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習等）
1	医療の動向 看護の役割	・ 大脳の構造と機能（解剖学復習） ・ 脳・神経疾患患者の概況と看護 ・ 患者の特徴と看護の役割/障害の受容 ・ 疾病の経過と看護（急性期/回復期/慢性期/終末期/継続看護）	【予習】 大脳の構造と機能 【復習】 大脳の障害部位と症状を整理する
2	高次脳機能 障害	・ 高次脳機能障害患者の看護 ・ 言語障害のある患者の看護 /運動性失語、感覚性失語、構音障害	【予習】 脳の障害部位と症状を整理する、運動性失語、感覚性失語について 【復習】 高次脳機能障害の看護について整理する
3	脳 1 2 神経	・ 脳神経フィジカルアセスメント /Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅵの評価 ・ 脳神経の障害による症状と日常生活を営む うえでの影響	【予習】 脳 12 神経の働き 【復習】 看護師国家試験過去問題
4	症状・障害	・ 意識障害のある患者の看護	【予習】 死の 3 徴候、脳死とは、脳死判定、

	を持つ患者 の看護	遷延性意識障害・脳死判定	【復習】脳死、臓器移植について家族と話し合い をしましょう
5	疾患を持つ 患者の看護	脳梗塞患者の看護 /急性期の看護・回復期・慢性期の看護 /薬物療法を受ける患者の看護 p 312 ・確認テスト	【予習】脳梗塞の種類と機序（アテローム血栓性 脳梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞）の理解 【復習】脳梗塞治療薬の作用・副作用の生理、確 認テストで間違えた箇所の整理
6		脳出血患者の看護 /脳室ドレーン管理 頭蓋内圧亢進症状、脳ヘルニア ・確認テスト	【予習】脳動脈の解剖学 脳出血の種類（被殻、視床、橋、小脳） 【復習】ドレーン管理について整理する、確認テ ストで間違えた箇所の整理
7	症状・障害 を持つ患者 の看護	・筋力低下のある患者の看護 ・運動麻痺のある患者の看護 ・感覚障害のある患者の看護 ・褥瘡予防 ・嚥下障害のある患者の看護 ・排尿障害のある患者の看護	【予習】褥瘡予防と、創処置について 【復習】各、症状・障害を持つ患者の看護を整理 する 【課題】病態生理学演習で使用した事例をもとに 関連図を追加・修正してくる
8			
9		・くも膜下出血患者の看護 入院から手術までの看護（術前・術後看護） ・DVD 鑑賞	【予習】くも膜下出血の病態生理 【復習】術前・術後管理について整理する
10		脳腫瘍患者の看護 /下垂体腺腫/ハーディ手術 /化学療法、放射線療法、終末期の看護 （けいれんをおこす患者の看護）	【予習】脳腫瘍疾患の理解 【復習】終末期の看護について整理してくる
11	試験	筆記試験	
メッセージ		・予習課題は事前にプリントを配布します。必ず予習課題に取り組んで授業に臨んでください。 ・脳の構造と機能、脳神経の働きは理解したうえで授業に臨みましょう。 ・回復期（リハビリテーション）の看護とは、障害を持ってもなおその人らしく生活していくた めの支援とは、を考えながら看護を展開していきましょう。そのためには介護保険、社会資源に ついてもつなげて学んでいきましょう。	

【評価方法】

筆記試験 90%、学習態度、課題提出物 10%を統合して、総合的に評価する。

※課題の提出期限切れは 0 点となりますので、注意してください。

【教科書】

脳・神経 成人看護学⑦：医学書院

【参考書】

病気がみえる（糖尿病・代謝・内分泌）：メディックメディア

全部見えるスーパービジュアル脳・神経疾患 徹底図解でまるごとわかる：成美堂出版

看護国試ココポイ！：照林社 フィジカルアセスメントがみえる：メディックメディア

2)	感覚器	担当教員	中川 香居	実務経験の有無	あり
----	-----	------	-------	---------	----

【授業の概要】 視覚や聴覚などの感覚器の疾患はその器官や部位にとどまらず、患者の日常生活全般への影響を招き、自尊感情やライフスタイル、対人関係にも様々な影響を及ぼす。看護を学ぶにあたり既習の解剖生理学の知識を踏まえ、病態生理を学びさらに患者の持つ身体的、心理的、社会的問題に視点を移しながら看護援助について学習する

【授業の目的】

患者の身体的、心理、社会的特徴について明確に知り、疾患を理解したうえで、看護師として必要な診察・治療時の援助の知識を得ることができる。

【到達目標】

1. 耳鼻咽喉の疾患において経過別、症状別、検査および治療別、疾患別に看護の実際を学ぶことができる。
2. 眼疾患によって患者・家族におこるさまざまな問題を理解したうえで、どのような援助をしたらよいか、そのためにはどのような知識・技術が必要かを知る。
3. 皮膚に疾患を持ったことで日々の生活に支障をきたしている患者に対する看護を知る。
4. 患者一人ひとり、おのおの異なる身体的、心理、社会的背景もち、それぞれの患者のおかれている問題を明らかにし、個別性を重視した看護を提供していくことが重要であるか知る。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	予習・復習内容
1	皮膚	皮膚疾患の特徴の理解。 皮膚の解剖、疾患・検査・診察について	予習：P4 皮膚の構造 復習：皮膚疾患の治療を受けながら社会生活を送る際の援助の留意点
2	耳	耳の解剖、疾患・検査・診察の内容を学ぶ 看護の実際について知る。	予習：P274 解剖 復習：難聴患者のコミュニケーションの工夫。配慮。
3	鼻・咽喉	鼻・咽喉の解剖、疾患・検査・診察の内容を学ぶ 看護について知る。	予習：P281・283 解剖 復習：検査の特徴について
4	眼	眼の解剖、疾患・検査・治療・処置・手術時に求められる看護を知る。	予習：P124 解剖 復習：検査内容を読む
5	感覚器を使って	感覚器の機能について知る。	
6	テスト		

【メッセージ】

予習課題は授業のはじめにミニテストを行います。それを提出物とします。
教科書を使用しますので忘れないようにして下さい。

【評価際方法】

テスト 90%、提出物 10%

【教科書】

メヂカルフレンド社 疾病と治療 耳鼻咽喉 眼 皮膚 歯・口腔

医学書院 2019 年看護師国家試験問題集

科目名	成人看護援助論演習		
単位数・時間数	1 単位 30 時間	対象年次	2
担当教員	谷 早加 ・ 濱邊 由美・川並 愛	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

時間とともに急速に変化する時代において、人々を”生活者”としてとらえ、人々の具体的な生活に主軸をおき、状況を見極め、健康へのケアを構築する看護実践能力が求められている。本科目で対象としている成人期の人々は、社会のなかで一人ひとりが重要な役割を果たし、同時に次世代を育んでいるという特徴を持つ。成人期にある人々を統合的にとらえ、幅広い視野で創造的なケア構築ができる能力を養っていくために、経過別看護（急性期・慢性期）を学ばせ、慢性期看護では、慢性疾患をもちながら生きる人と家族を支える看護を学び、生活者としての視点をもったセルフマネジメント及び生活の立て直しに必要な看護援助ができる能力を養っていく。急性期看護においては、急性期にある対象者の状態と、起こりうる状況を科学的に分析し、生命危機を回避し、回復を支援するための援助の実際をメディカルラリー（救急医療技術の競技会）に参加することで学び、急性期看護のアセスメントの視点を養う。

【授業の目的】

1 年次の成人看護概論・病態生理学演習による既習の知識と関連付けながら、演習やグループワークを通して、成人期における健康障害をもった対象者の経過事例を用いて問題解決能力を養い、対象の状況にあった適切な看護技術や看護援助の実際を体験により学ぶ。また、学修した知識を看護実践に統合し活用する力を身に付ける

【到達目標】

1. 紙上の患者を用いて、看護過程の展開を行い、看護を行うための思考過程が習得できる。
2. 問題解決思考型看護診断、リスク型看護診断、ヘルスプロモーション型看護診断を考えさせることで、成人を対象とした健康教育の方法を学び、看護にいかすことができる。
3. 成人期における健康危機状況、行動変容、学習特性を看護理論とともに理解することができる。
4. 成人期にある患者の急性期・慢性期そして地域・在宅への継続医療と看護の視点が知識として習得することができる。
5. メディカルラリー（救急医療技術の競技会）の参加を通して、模擬的にリアルな救急現場（外傷、内因性疾患、集団災害等）での、チーム医療を学び、生命危機を回避する為の急性期看護のアセスメントの視点を学ぶ。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習等）
1	講義の概要	・オリエンテーション	【予習】事例についての疾患、病態生理、症状、治療、看護について事前学習し、1号紙の分析をしてくる 【復習】自己の1号紙に、知識を統合させたものを朱字で追加・修正し提出。
2	事例展開 （1号紙）	・受け持ち患者記録1号紙の分析・解釈においてグループワークで意見交換し、自己の知識の足りない部分を補う。 ・知識を統合させ、1号紙発表・意見交換 ・事後指導	

3	事例展開 (関連図)	・自己で作成してきた関連図をもとにグループワークで意見交換し、自己の知識の足りない部分を補う。 ・知識を統合させ、関連図発表・意見交換 ・事後指導（問題解決思考型、リスク型、ヘルスプロモーション型看護診断の捉え方）	【予習】 関連図を作成してくる 【復習】 自己の関連図に、知識を統合させたものを朱字で追加・修正し提出。
4			
5	事例展開 (看護計画)	・自己で作成してきた看護計画（3号紙）をもとにグループワークで意見交換し、自己の知識の足りない部分を補う。 ・知識を統合させ、看護計画発表・意見交換 ・事後指導（疾患の理解、成人の学習の特徴と看護問題の方向性、成人の保健行動を促す援助）アドヒアランス・エンパワメントの視点	【予習】 3号紙を作成してくる 【復習】 自己の関連図に、知識を統合させたものを朱字で追加・修正し提出。
6			
7		・グループで立案した介入プランの実践と評価 ・実践した介入プランをもとに、3号紙に、評価を記載する ・リフレクション（実践した援助をビデオを見て振り返ることで、学びを深める）	【予習】 事例展開した、介入プランが実践できるよう準備する 【復習】 自己の3号紙評価に、知識を統合させたものを朱字で追加・修正し提出。
8			
9			
10		・急性期看護の事例を用いて、発症している事象の原因、予測される経過、考えられる治療・処置別看護の検討 ・ディスカッション ・事後指導（アイウエオチップスとは）	【予習】 急性期看護について教科書を読み、整理しておく。 【復習】 ディスカッションの内容を、教科書を用いて、急性期看護の視点で整理する
11			
12		・メディカルラリーオリエンテーション ・メディカルラリー（救急医療技術の競技会）の参加を通して、模擬的にリアルな救急現場（外傷、内因性疾患、集団災害等）での、チーム医療を学び、生命危機を回避する為の急性期看護のアセスメントの視点を学ぶ。	【予習】 質問事項を考えてくる 【復習】 質問内容とともに、急性看護について整理する レポート提出：パソコンを使用。 用紙：市販の A4 判白紙・ 表紙：テーマ、学籍番号、氏名を記載 余白：上下左右すべて 30mm、1 枚を 40 文字×40 行（＝2500 字以内）設定、フォント「MS 明朝」・フォントサイズ 10.5 ポイントを使用 ・片面印刷で、ページ番号を下部の真ん中に記す。 ・引用・参考文献の記載 ・レポート作成についても評価対象になりますので、指定通りレポートを作成すること
13			
14			

15	試験	筆記試験	
----	----	------	--

【評価方法】

筆記試験 50% グループ学習態度 20% レポート評価 30%

提出物の内容、提出期限、授業・演習態度、出席状況により評価する。

※課題の提出期限切れは0点となりますので、注意してください。

【教科書】

成人看護学総論：医学書院

成人看護学[2]～[10]：医学書院

ロイの適応看護理論の理解と実践：医学書院

看護診断ハンドブック：医学書院

【参考書】

成人看護学概論/成人保健 ： メヂカルフレンド社

看護実践に生かす中範囲理論第2版 ： メヂカルフレンド社

科目名	老年看護概論		
単位数・時間数	1 単位 15 時間	対象年次	1
担当教員	谷口真貴	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

超高齢化社会が進行している日本で、高齢者は培った人生経験を活かして生活している。長寿化によって長期間となった老年期を生きる高齢者は、個別性や多様性が大きい。そのニーズに応え得る施策や医療・看護の役割を知る。学生であっても高齢化社会を担う一員であることを意識し、地域包括ケアシステムのなかで、その人らしく生きる社会を実現するための看護の在り方を学修していく。

【授業の目的】

超高齢化社会の現状と老年看護の目的・老年期の発達課題を知り、個別性や多様性の大きい高齢者への支援について考え、エンドオブライフケアを支える看護の重要性を学ぶ。

【到達目標】

1. ライフサイクルの老年期の位置付けと発達課題を説明できる。
2. 高齢者の倫理的課題や問題とその対応について説明できる。
3. エンドオブライフケアの考え方がわかり、意思決定支援の必要性を説明できる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習）
1	オリエンテーション 超高齢社会における我が国の高齢者の現状～ 老年看護の目的	シラバス説明 老年看護の目的・エイジズム・高齢者虐待・サクセスフルエイジング(ライフサイクルにおける老年期の位置付けと課題)	【予習 1】教科書の専門用語意味調べ(P2～15) 自分が理解して説明できるようにまとめる。 (単語帳・付箋・ノート等、様式は自由) 【復習 A】過去の新聞からエイジズム・高齢者虐待・権利擁護・認知症に関する記事を入し、事例報告の準備をする。
2	【復習 A】事例報告 認知症について	事例報告 認知症について または資料映像視聴他	【予習 2】意味調べ (P271～321) 自分が理解して説明できるようにする。 【復習 B】認知症プリント 他
3	2025 問題	2025 年問題で起こりうることと施策、問題解決のための取り組み	【予習 3】講義日朝 8 時 45 分までに①2025 年問題の PPT 印刷またはレポートを提出 【復習 C】グループ学習
4～5	2040 年問題 これからの高齢化社会の問題と対策	グループまとめ～ミニ発表会	【予習 4】講義日朝 8 時 45 分までに①2040 年問題の PPT 印刷またはレポートを提出 【復習 D】プリント他
6	高齢者のエンドオブライフケアを支える看護	意思決定支援 (ACP)	【予習 5】意味調べ (P62～75) 自分が理解して説明できるように暗記する。 【復習 E】自己課題の学習
7	筆記テスト【100 分】		テスト終了後、上記すべてファイル綴じで提出
8	老年看護学概論まとめ	テスト解説・	〈春休み課題プリント〉(教科書 P7～46 参照)

		全体の振り返り 他	※ 高齢者にインタビュー（電話も可）
--	--	-----------	--------------------

【評価方法】筆記試験（60％）態度・提出課題（40％）などを総合的に評価し、60 点以上を合格とする

※ 書類の不備や課題提出期限切れは 0 点、未提出はマイナス評価とする

【教科書参考書】 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学・老年看護病態疾患論

医学書院：生活機能から見た老年看護過程

メヂカルフレンド： 看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術第 3 版

1 科目名	老年看護援助論 I		
単位数・時間数	1 単位 30 時間	対象年次	2
担当教員	谷口真貴	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

高齢者に特徴的な加齢による心身・社会的変化を知り、日常生活に及ぼす影響について学修する。フレイルをもつ高齢者を主体とした残存機能や持てる力を発揮できる支援に着目し、高齢者を取り巻く医療・保健・福祉の連携や必要なシステム（特に介護保険）について学び介護度や健康レベルに応じたその人らしい生活や家族支援を実現するための方法を学ぶ。

【授業の目的】

老年期にある対象の日常生活支援と看護について具体的に学ぶ。高齢者に特徴的な状態に関する知識・技術・看護に必要な態度の習得を目指す。

【到達目標】

1. 高齢者の加齢による変化と日常生活行動への影響・看護について説明できる
2. 高齢者を取り巻く医療・保健・福祉の連携や必要なシステム（特に介護保険）のしくみと、高齢者・家族への看護を学ぶ。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習）
1	オリエンテーション 老年看護に必要なアセスメント技術	シラバス説明 高齢者に特徴的な加齢による心身・社会的変化	【予習】春休み課題（教科書 P7～46） 提出期限：登校日翌日 ※各自老年資料ファイルを準備し受講する事
2	老年看護に必要なコミュニケーション技術	① コミュニケーション ② コミュニケーション障害	【予習】（教科書 P47～59） 〈手順書〉「難聴のある高齢者とのコミュニケーション」P59 参照
3	身体の清潔を保ち、身だしなみを整える	③ 身支度 ④ 清潔	【予習】（教科書 P114～135） 〈手順書〉「フットケア」「ひげそり」
4	食べる	⑤ 食事・栄養 ⑥ 摂食嚥下障害・脱水	【予習】（教科書 P80～100、170～201）〈手順書〉「食事の介助」P93 資料 P183 表 1－10（コピー可）
5	褥瘡	⑦ 褥瘡	【予習】（教科書 P227～250） 資料 P232 DESIGN-R（コピー可）
6	からだを動かす	⑧ 廃用症候群	【予習】（教科書 P137～146） 【復習】自己学習
7	中間試験	筆記テスト【100 分】	【課題プリント A】筆記試験後提出 〈夏休み課題〉介護保険パンフレット作製 提出期限：登校日翌日

8	介護保険について	パンフレットの活用	【予習】（これからの高齢者看護学 P32～44）パンフレットを説明できるようにしてくる 【復習】パンフレット修正
9	薬物療法に伴うリスク せん妄	⑩ 薬物療法に伴うリスク ⑪ せん妄	【予習】（教科書 P251～268） 資料 P252 表 5（コピー可）
10	排泄する	⑫ 排泄する、排尿・排便障害	【予習】（教科書 P102～112、203～215）〈手順書〉「腰背・腹部温電法」
11	睡眠・休息する	⑬ 睡眠・休息する ※ 事例「転倒リスクのある患者」	【予習】（教科書 P140～160） 〈手順書〉「サーカディアンリズムを整えるケア」
12	高齢者を取り巻く医療 保健福祉施策と人権を 守る看護	（これからの高齢者看護学 P23～60） 教科書を中心に学習する	【予習】（これからの高齢者看護学 P23～30）統計データを最新にする。 【復習】予習データを暗記する
13	資料映像他	認知症ほか、過去問チャレンジ	【予習】（これからの高齢者看護学 P201～236） 【復習】P22.60.162.200.236 を理解してください
14	試験	筆記テスト【100分】	試験後、老年資料ファイル提出
15	老年Ⅰのまとめ	国家試験の傾向と対策	

【評価方法】 筆記試験（60％）学習態度・課題（40％）などを総合的に評価し、0点以上を合格とする。

※ 書類の不備や課題提出期限切れは0点、未提出はマイナス評価とする。

【教科書参考書】 メヂカルフレンド：看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術第3版
医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学・老年看護病態疾患論
医学書院：生活機能から見た老年看護過程

科目名	老年看護援助論Ⅱ		
単位数・時間数	1 単位 30 時間	対象年次	2
担当教員	谷口真貴	実務経験の有無	あり

【授業の概要】 老年期にある高齢者の特徴について既習の学習からイメージした内容に加えて、高齢者に特徴的な疾患と治療・看護を深めながら、健康レベルに応じたその人らしい生活を実現するための方法を学ぶ。

【授業の目的】

老年期にある対象の症状・疾患・障害の程度・生理機能をアセスメントし、加齢変化と高齢者の病態や症状を学修する。高齢者に特徴的な疾患に関する知識・技術・看護に必要な態度の習得を目指す。

【到達目標】

1. 高齢者が罹患しやすい代表的な疾病について、解剖・病態・治療・看護が説明できる
2. 健康障害別に 高齢者を取り巻く家族に役割を知り、家族への看護を学ぶ。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習）
1	高齢者に見られる症状と看護	高齢者に見られる症状の特徴・痛み・発熱・脱水	【予習】 これからの高齢者看護学 P113 【復習】 課題プリント A
2		せん妄・排尿症状・排便症状	【予習】 これからの高齢者看護学 p 124～
3		浮腫・皮膚症状（スキンテア）・褥瘡	【予習】 これからの高齢者看護学 P134～
4		低栄養・フレイル・サルコペニア・廃用症候群	【予習】 これからの高齢者看護学 P146～ 運動器の配布資料を持参すること
5		口腔・嚥下症状、視力・聴力低下	【予習】 これからの高齢者看護学 P 152～
6	資料映像他	認知症	【予習】 これからの高齢者看護学 P 156～過去の新聞記事から
7	中間試験	筆記テスト【100 分】	【課題プリント A】 筆記試験後提出
8	老年病の治療と看護	老年病の特徴・骨筋系疾患	これからの高齢者看護学 P 61～ これまでの骨粗鬆症に関する配布資料を持参すること
9		脳血管疾患・悪性腫瘍	
10		アレルギー疾患と免疫 呼吸器疾患	
11		循環器疾患・内分泌・代謝疾患	
12		腎泌尿器疾患・消化器疾患	
13		パーキンソン病・精神疾患	

1 4	試験	筆記テスト【100 分】	
1 5		老年Ⅱのまとめと国家試験の傾向と 対策	【課題 B】

【評価方法】 筆記試験（60％）学習態度・課題（40％）などを総合的に評価し、0 点以上を合格とする。

※ 書類の不備や課題提出期限切れは 0 点、未提出はマイナス評価とする。

【教科書参考書】 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学・老年看護病態疾患論

医学書院：生活機能から見た老年看護過程

メヂカルフレンド： 看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術第 3 版

科目名	老年看護援助論演習		
単位数・時間数	1 単位 15 時間	対象年次	2
担当教員	谷口真貴	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

老年期の高齢者に対する理解を深めながら、健康レベルに応じた質の高い生活を実現するための援助について学ぶ。地域包括ケアシステムや地域に暮らす高齢者の生活支援に関わる多職種連携、特に社会福祉協議会の役割や活動内容についても知識を深める。

【授業の目的】

高齢者の身体的加齢変化や健康障害がA D L に及ぼす影響を実体験し、高齢者看護に必要な知識・技術・態度の習得をめざす。地域包括ケアシステムにおける多職種と協働・連携した高齢者支援の実際について関心を持ち、特に社会福祉協議会との連携について学修する。高齢者体験は社会福祉協議会の体験学習等出前授業で実施し、高齢者理解に向けた取り組みや社会福祉協議会の役割について学習するとともに、保健・医療・福祉の連携について関心を高める。

【到達目標】

50年後の自分を疑似体験することで、加齢が日常生活に及ぼす影響（フレイル）を経験し、その問題点や援助方法をアセスメントし、高齢者の理解と看護の視点を養うことができる。フレイルとサルコペニア・ロコモティブシンドローム予防の観点を持ち、そのための高齢者支援や保健・医療・福祉の連携の重要性を認識できる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1	オリエンテーション 老年看護の振り返り	地域包括ケアシステムとは 高齢者のフレイルと生活リズム （活動と休息）事例学習 高齢者に対するレクリエーション	【事前学習 1】手順書「杖歩行の介助」 【事前学習 2】配布資料の意味調べ 【復習課題】地域包括ケアシステムにおけるフレイル予防と保健・医療・福祉の連携の重要性
2	資料映像視聴 （認知症高齢者）	グループごとにレクリエーション 計画書作成、レク準備 高齢者体験準備	【事前学習】レクの企画立案 【復習課題】高齢者に対するレクリエーションの効果と課題
3 ～ 4	高齢者体験	更衣、階段昇降、新聞、本を読む、 自販機、等 （タオルを持参してください）	【翌日提出レポート課題】 テーマ：高齢者体験での学び ～今後の看護にどう活かすのか～ タイトルは自由
5	高齢者体験の振り返り とレクリエーション準備		

6 ～ 7	学生レクレーション と振り返り		【復習課題】高齢者に対するレクリエーションの効果と課題
8	筆記試験	60分テスト	

【評価方法】 筆記試験（60％）事前学習、学習態度、課題など（40％）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

※ 書類の不備や課題提出期限切れは0点、未提出はマイナス評価とする。

【教科書参考書】 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学・老年看護病態疾患論
 医学書院：生活機能から見た老年看護過程
 メヂカルフレンド： 看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術第3版

科目名	小児看護概論		
単位数・時間数	1 単位・ 15 時間	対象年次	2
担当教員	濱邊 由美	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

小児看護の対象、理念と目標、小児医療、看護の変遷と法律・条約について学習し、小児各期の成長・発達の特徴とそのプロセスを理解し各期の発達課題の重要性を学ぶ。小児を取り巻く環境を踏まえ、各発達段階において子どもとその家族が心身ともに健やかに発達するための生育看護について学びを深めるよう教授する。小児の健康障害と、それが小児および家族に及ぼす影響を理解し、看護の必要性とその内容について学ぶ。

【授業の目的】

- 1・小児看護の対象・理念と目標、役割について理解する
- 2・小児の発達の概念、各期の健全な成長発達、評価方法について理解する。
- 3・小児とその家族の身体的・心理社会的発達過程について理解し、成長発達に適した環境及び生活援助について考究する。
- 4・小児の権利条約の成立背景・子どもの権利条約が小児の健全育成に果たす役割について学習し、小児の最善の利益にかなう医療・看護について考究する。

【到達目標】

- 1・小児看護の対象・理念・目標について説明できる
- 2・子どもの権利条約、小児看護領域で特に留意すべき子どもの権利と必要な看護について説明できる。
- 3・小児各期の成長・発達・認知の特徴とその過程その過程を説明できる。
- 4・小児各期の成長発達の評価方法について説明できる。
- 5・小児各期の健康課題に関し、その特徴と援助について説明できる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習等）
1	小児看護の対象、理念と目標	小児医療・看護の変遷、小児看護の課題と展望、アドボカシー、子どもの権利条約、インフォームドアセント、児童福祉法、母子保健法、乳幼児健診	【予習】教科書第1章（P4～P28）を読んでおく 【課題】レポート「子ども観について」提出 【復習】復習用課題配布
2	子どもの成長と発達	成長発達の原則、発達段階と発達課題、影響する因子、身体的発育評価、主な発達理論（ピアジェ、エリクソン）、現代家族の特徴、家族アセスメント	確認テスト（国家試験問題） 【予習】教科書第2章（P30～P51）、第6章（P146～P157）を読み、予習課題のプリントを完成させ持参する 【復習】復習用課題配布
3	新生児期の成長発達の特徴と養育	形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達、新生児の養育および看護	確認テスト（国家試験問題） 【予習】教科書第3章 P54～P70 を読み、予習課題のプリントを完成させ持参する 【復習】復習用課題配布

4	乳児期の成長発達の特徴と養育	形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達、情緒の分化、の乳児の養育および看護	確認テスト（国家試験問題） 【予習】教科書第3章（P71～P89）を読み、予習課題のプリントを完成させ持参する 【復習】復習用課題配布
5	幼児期の成長発達の特徴と養育	形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達、遊びの発達と社会性、乳児の養育および看護	確認テスト（国家試験問題） 【予習】教科書第4章（P92～P108）を読んで予習課題のプリントを完成させ持参する 【復習】復習用課題配布
6	学童期・思春期・青年期の成長発達の特徴と日常生活	学童を取り巻く諸環境、第二性徴、心理、社会適応に関する問題、性教育、喫煙、薬物濫用	確認テスト（国家試験問題） 【予習】教科書第4章（P109～P121）第5章（P124～P143）を読んで予習課題のプリントを完成させ持参する 【復習】復習用課題配布
7	小児の病気・事故防止と健康増進	子どもと家族を取り巻く社会、虐待、母子保健、予防接種、乳幼児公費負担制度、特別支援教育、臓器移植法、小児慢性特定疾病医療費助成制度、学校保健	確認テスト（国家試験問題） 【予習】教科書第7章（P163～P191）を読んで予習課題のプリントを完成させ持参する 【復習】復習用課題配布
8		筆記試験	
メッセージ		周囲の子ども達に関心を持って下さい。また社会で注目されている様々な子ども関連の記事にも注意を払い、メモを取るなど意識して受講してください。	

【評価方法】

筆記試験：80%、学習態度：10%、課題提出物：10%を統合して、総合的に評価する

※課題の提出期限切れは0点となりますので、注意してください

【教科書】

「小児看護学概論 小児臨床看護総論」小児看護学① 医学書院

「ナースィング・グラフィカ 小児看護学(2)：小児看護技術」中野綾美編、MC メディカ出版

【参考図書】

② 「ナースィング・グラフィカ 小児看護学(1)：小児の発達と看護」中野綾美編、MC メディカ出版

② Gsupple 改訂2版 場面でもなぶ小児看護学

科目名	小児看護援助論 I		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	濱邊 由美	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

小児看護学概論での学びと関連付けながら、小児の成長発達や家族のライフステージに基づいた健康な小児と家族の生活について教授する。また、様々な成長発達段階および健康状態にある小児と家族のアセスメント法や、小児看護の基礎的知識と援助法、小児期の特徴的な健康障害と看護方法について映像での学習や一部演習を取り入れて教授し、小児保健や小児看護に関する理解が深まるようにする。これらすべてに、小児と家族が主体的に行う心理的準備を支援することの重要性を伝えながら教授する。なお、学習者には常に看護職者としての倫理の原則について意識して学習することを求める。

【授業の目的】

- 1・小児とその家族中心の看護、安全・安楽・安心なケアの実施方法について理解する。
- 2・小児の成長発達に応じた、主体性を引き出す関わり方について考察する。
- 3・小児の基本的生活習慣の獲得過程を、成長発達過程との関連で理解し、その援助法を習得する。
- 4・小児の成長発達に基づいたフィジカルアセスメント方法と注意点について理解する。
- 5・小児看護の基本的援助技術について理解する。
- 6・小児救急の実際と援助の在り方について理解する。

【到達目標】

- 1・小児とその家族中心の看護の重要性について説明できる。
- 2・小児の基本的生活習慣と援助法を発達段階との関連で説明できる。
- 3・事故予防や安全への配慮について説明できる。
- 4・小児の発達段階に応じた、主体性を引き出す関わりについて説明できる。
- 5・小児の成長発達に応じた説明の必要性について説明できる。
- 6・小児の成長発達に基づいたフィジカルアセスメントについて説明できる。
- 7・小児の生活援助に必要な看護技術において、安全安楽やその留意点について説明できる。
- 8・小児の薬物療法の特徴と起こりえるノンコンプライアンス状況について説明できる。
- 9・小児救急の現状について説明できる。
- 10・小児の主要症状に応じた子どもと家族の反応と適切な看護について説明し、援助を習得できる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習等）
1		病気・障害が小児と家族に与える影響： ディストラクション・インフォームドアセ ント・プレパレーション、疾病・障害が各 発達段階の小児・家族に与える影響、外来、 入院中、在宅療養中、災害時の小児と家族 の看護、看護の役割、安全・安楽のための	【予習】教科書第1～2章 P196～P243 を読 んでおく。予習の課題プリントを仕上げてお く。 【復習】教科書第1章①～③（P209）、教科 書第2章①～④（P245）の章末ゼミナール 「復習と課題」についてノートにまとめる

		環境整備	
2 3 4	講義＋演習	小児の健康状態を把握する技術：アセスメントに必要な技術 ①コミュニケーション・遊び ②バイタルサイン測定とフィジカルアセスメント ③身体測定	【予習】教科書第4章 P284～P341 を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 「バイタルサイン」「身体計測」の手順書を作成する 【復習】教科書第4章①～③（P341）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
5 6	講義＋演習	生活援助に必要な看護技術： 消化機能・嚥下・咀嚼の発達、経管栄養・母乳育児援助・調乳・食事介助・排泄介助	【予習】※（小児看護技術 小児看護学②メディカ出版）教科書 P59～P107 を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 「調乳」の手順書を作成する 【復習】演習後、課題のテーマに沿ってレポートを作成する
7		小児における疾病の経過と看護(1) ①急性期・慢性期	【予習】教科書第3章 P248～P256 を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 【復習】教科書第3章①～③（P281～P282）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
8		小児における疾病の経過と看護(2) ②周手術期・終末期	【予習】教科書第3章 P256～P282 を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 【復習】教科書第3章④～⑧（P282）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
9 10.		小児の主要症状と看護： 呼吸困難・チアノーゼ・ショック・不機嫌・啼泣・痛み・呼吸困難・発熱・嘔吐・下痢・便秘・脱水・痙攣・発疹・浮腫・出血・黄疸	【予習】教科書第5章 P344～P414 を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 【復習】教科書第4章①～⑧（P414）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる

11. 12.		検査・処置を受ける小児への援助技術： 発達段階に応じた説明と同意、薬物動態、 与薬、輸液管理、抑制、検体検査、浣腸、 骨髄穿刺、腰椎穿刺	【予習】教科書第6章 P416～P471 を読み、 予習の課題プリントを仕上げておく ※（小児看護技術 小児官学② メディカ出版）教科書 P141～P142、予習配布資料を読み、「吸入」「ミキシング」の手順書を作成する 【復習】教科書第6章①～⑦（P477）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
1 3		障害のある小児と家族の看護、 （子どもと家族の障害受容、障害のある小児と家族の特徴、生活指導と療育指導、障害のある小児と社会的支援）	【予習】教科書第7章 P480～P492、教科書第8章 P494～P510、を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 【復習】教科書第7章①～③（P492）、第8章①～⑤（P510）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめ
1 4		小児の救急看護： 小児救急の現状と緊急度評価、一時救命のアルゴリズム	【予習】教科書第6章 P471～P478 を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 【復習】教科書第6章⑧（P477）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
1 5		筆記試験	
メッセージ	小児看護学概論での学びを想起しましょう！		

【評価方法】

筆記試験 80%、課題提出物 10%、学習態度 10%を統合して、総合的に評価する。

※課題の提出期限切れは0点となりますので、注意してください。

【教科書】

系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論小児臨床看護総論/ 著:奈良間美保
他/医学書院/2018

中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 小児看護学② メディカ出版 2018 年

【参考図書】

中野綾美編：ナーシンググラフィカ小児看護①小児の発達と看護，メディカ出版
（小児看護学概論で 使用の教科書）

※履修上の注意

- ・手順書「バイタルサイン測定」「身体計測」「調乳」「吸入」「ミキシング」の4つを作成すること
- ・夏季休暇課題「小児の成長発達段階表」を作成すること

科目名	小児看護援助論Ⅱ		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	塩田 花純	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

成長・発達過程にある子どもとその家族が、健康障害や入院によって受ける影響とその反応について教授する。そして、その子どもが自分の身体的・心理的・社会的な可能性を最大限発揮し、より良い成長・発達を遂げることができるように、加えて、その家族が子どもへの養育力を十分に働かせ、対処能力を発揮できるよう援助するために必要な知識・方法・態度について教授する。授業では一部演習として、様々な状況にある子どもと家族に関する紙面上例を用いて、看護過程の展開を行う。本授業では看護職者としての倫理原則を意識して学習することを求める。

【授業の目的】

- 1・小児に特有な疾患に罹患した小児の特徴や、小児とその家族への看護ケアについて、発達段階を踏まえて学習し、いくつかの症例に関して関連図を作成、看護問題を抽出する。
- 2・検査・処置・手術を受ける小児とその家族の看護、痛みの発生機序と最新の緩和ケアについて学び、プレパレーションや緩和ケアの重要性を理解する。
- 3・慢性疾患を持つ小児とその家族の発達課題の達成やセルフケア能力、QOL を高める援助法を学習し、小児とその 家族への看護について理解する。
- 4・小児とその家族の疾患・入院に対する反応や対処、危機理論について学習し看護について理解する。
- 5・発達段階に基づく小児の死の理解、ターミナル期の小児や家族の反応について学習し、ターミナル期の看護やグリーフケアについて理解する。
- 6・変化する社会の中での小児看護の質を向上するうえでの課題やあり方について理解する。

【到達目標】

1. 疾患や障害をもつ小児の看護について、状況別の重要点を説明できる。
2. 疾患による小児やその家族の反応や対処、入院が小児とその家族の生活に及ぼす影響について説明でき、保健・医療、教育、福祉等の連携について意見を述べるができる。
3. 検査・手術を受ける小児とその家族の反応について説明できる。
4. 小児がんと診断された患児が受ける治療・検査の目的・内容と家族を含めた援助のあり方について説明できる。
5. 慢性疾患を持つ小児とその家族の発達課題や QOL、セルフケアの重要性について説明できる。
6. 小児がもつ死の概念の発達的变化を説明できる。
7. 小児看護におけるグリーフワーク、グリーフケアについて説明できる。
8. 疼痛の発生機序に基づいて、緩和ケアやプレパレーションの重要性を説明できる。
9. 小児と家族を対象とした看護の質向上に貢献する活動について説明できる。
10. 小児看護について自己の考えを述べるができる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習等）
---	-----	---------	------------

1		染色体異常・免疫・代謝疾患を持つ子どもとその家族の看護： 低出生体重児、ディベロップメンタルケア、体温管理、呼吸管理、感染管理、安静、ファミリーケア、NICU	【予習】教科書第 1～2 章 P2～P63 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。 【復習】教科書第 1 章①～③ (P15)、第 2 章①～④ (P64) の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
2		小児の感染症 症状の観察と緩和・環境調整・感染防止	【予習】教科書第 6 章 P140～P173 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。 【復習】教科書第 6 章①～⑤ (P173) の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
3		呼吸器・循環器疾患を持つ子どもとその家族の看護	【予習】教科書第 7～8 章 P176～P222 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。 【復習】教科書第 7 章①～③ (P188)、第 8 章①～④ (P222) の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
4		内分泌・免疫・アレルギー疾患・リウマチ性疾患を持つ子どもとその家族の看護 事例：①気管支喘息	【予習】教科書第 4～5 章 P88～P137 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。 ⑤の事例について課題の紙上事例展開を自分の力でに行い臨む 【復習】教科書第 4 章①～⑤ (P103)、第 5 章①～④ (P137) の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
5		血液・造血器・腫瘍疾患を持つ子どもとその家族の看護	【予習】教科書第 10～11 章 P282～P336 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。【復習】教科書第 10 章①～③ (P300)、第 11 章①～⑤ (P336) の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
6		消化器・腎・泌尿器・生殖器疾患を持つ子どもと家族の看護	【予習】教科書第 9 章 P224～P279、12 章 P338～P377 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。 【復習】教科書第 9 章①～⑦ (P279)、第 11 章①～④ (P377) の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
7		神経系・運動器・感覚器疾患を持つ子どもとその家族の看護	【予習】教科書第 13～17 章 P380～P484 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。【復習】教科書第 13 章①～③ (P413)、第 14 章①～② (P434)、第 15 章①～② (P449)、第 16 章①～② (P468)、第 17 章①～② (P484) の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
8		精神疾患をもつ子どもとその家族の看護	【予習】教科書第 18 章 P486～P518 を読み、予習

		護	課題のプリントを仕上げておく。 【復習】教科書第 18 章①～⑥ (P518) の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
9		事故・外傷と看護	【予習】教科書第 19 章 P520～P536 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。 【復習】教科書第 19 章①～⑦ (P536) の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
10. 11.		急性期にある小児と家族への援助 事例：②川崎病 ③肺炎 ④感染性胃腸炎 ※トリアージ、看護展開	【予習】②～④の事例について課題の紙上事例展開を自分の力で行い臨む 【復習】復習課題を配布
1 2		手術を受ける小児と家族への援助 事例：⑤アデノイド・扁桃腺摘出術 ※プレパレーションを考える	【予習】⑤の事例について課題の紙上事例展開を自分の力で行い臨む 【復習】復習課題を配布
1 3		慢性疾患を持つ小児と家族への援助 事例：⑥ネフローゼ症候群 ※退院指導、学習支援を考える	【予習】⑥の事例について課題の紙上事例展開を自分の力で行い臨む 【復習】復習課題を配布
1 4		ターミナル期の小児とその家族への援助 ※グリーフワークとグリーフケア	授業後、レポート課題を提出
1 5		筆記試験	
メッセージ		前期に受講した小児看護概論、小児看護援助論Ⅰを十分復習したうえで、健康な子ども像をイメージしながら講義・演習に臨むこと。常に子どもならではの特徴を意識し、援助の根拠と関連させながら受講する。	

【評価方法】

筆記試験 80%、課題提出物 10%、学習態度 10%を統合して、総合的に評価する。

※課題の提出期限切れは 0 点となりますので、注意してください。

【教科書】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 奈良間美保他著、医学書院

【参考図書】

新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 松尾宣武編、メヂカルフレンド社

「こどもの病気の地図帳」鴨下重彦・柳沢正義監修、講談社

※履修上の注意

- ・事例①～⑥については、小児看護学援助論演習にて

(客観的臨床能力試験：Objective Structured Clinical Examination)、以下 **OSCE** に使用します。

- ・定期的にノート提出が必要です

科目名	小児看護援助論演習		
単位数・時間数	1 単位・15 時間	対象年次	2
担当教員	塩田 花純	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

様々な健康状態及び発育・発達段階にある小児・家族を統合的に理解し、小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ、Ⅱにおいての学修を基に、子どもの健やかな成長、育成を支えていく上での看護師の役割と多様な場所における看護師の活動について学修する。小児看護学援助論Ⅱにおける事例①～⑥から、健康障害の回復に必要な看護上の課題の発見と解決方法を、演習を通じて学習し、子どもの状況に応じ、発達レベルと健康レベルを考慮した看護技術を修得する。看護職者としての倫理原則を意識し、小児看護実践に関する基礎的な知識や技術、態度と思考プロセスを身につける。予防的視点に立ち、どのような健康状態にあっても「生活の質」の観点から、本人、または家族の意思を尊重しながら暮らすことを支援するための小児看護の役割と責任、多職種との連携と協働についての理解を深める。

【授業の目的】

- 1・小児とその家族への看護ケアについて、小児看護援助論Ⅱで学んだ事例①～⑥に関して、小児特有の看護技術であるプレパレーションの実践を行うことで、小児科看護師の子どもの権利を守るための援助を理解する。
- 2・小児看護援助論Ⅱで学んだ事例①～⑥の展開を通じ、子どもの健康状態や成長発達に合わせて必要な看護を判断し、適切な介入を模擬体験する。
- 3・保育所、小学校における指導案を作成し、演習を通じて模擬体験することで実際の場面におけるプレゼンテーション上の問題点を抽出し、イメージする。

【到達目標】

- 1・臨床判断を通して健康障害が子ども・家族へもたらす影響と、援助の方法を述べることができる。
- 2・小児看護を必要とする子ども・家族と援助的な人間関係を構築する方法を説明できる
- 3・子どもの発達段階や健康の段階に合わせた看護が考えられ、小児看護の役割が理解できる
- 4・地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護の基礎が理解できる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1	1～2	小児看護技術演習 (バイタルサイン・身体測定・調乳・吸入・ミキシング・クベース・固定法)	
3		保育指導案について、グループ内作成と発表、指導案実施と振り返り	グループ学習 【予習】保育指導案について予習。個人で作成してくる

4		プレパレーションの意義と方法 (子どもの権利、プレパレーションの概念・実際、倫理的課題、ツール紹介)	
5	5～6	グループワーク：プレパレーション実施計画書作成 1) 事例の設定年齢は 3～7 歳の間で自由に変更可。また家族状況の設定についても変更可。 2) 事例①～⑥を選択、発達段階と疾患からアセスメント・問題点を考える。 3) さらに（感染予防行動・治療・処置・検査・疾患・与薬・バイタルサイン）の 7 項目の中から 1 つ選択すること 4) プレパレーション実施のためのツールを選択 5) リーダー、サブリーダー、書記を選定。また「看護師」「患児」「家族」の役割をメンバー内で設定。 ※全員が役割を持つこと 6) プレパレーション方法の手順について計画書を作成 7) 計画書は担当教員へレポート形式で提出 ※様式は説明を行う ※変更箇所については赤字で計画書を訂正。削除箇所は 2 重線で訂正し計画書を担当教員へ再提出。	グループレポート
7		プレパレーション演習発表会 ※演習後レポートを担当教員へ全員提出 ※様式は説明を行う	レポート
8	8～9	健康教育指導案につおよび PPT について、グループ内作成と発表、指導案実施と振り返り	グループ学習 DVD 視聴「新・地域看護活動とヘルスプロモーション（学校保健）」 【予習】健康教育指導案について予習。個人で作成してくる
10		筆記試験	

【評価方法】

筆記試験 60% 授業態度・出席状況 20% 提出物 20%

【教科書参考書】

医学書院/小児看護概論・小児臨床看護総論、ナーシンググラフィカ/小児看護技術

DVD「新・地域看護活動とヘルスプロモーション（学校保健）」（4 1分）株式会社メディカルビジョン

※履修上の注意

・課題提出、授業の中で資料作成があります。

・「プレパレーション実施計画書」作成

・「保育指導案」作成

・「健康教育指導案」、PPT 作成

※様式は授業の中で提示

※プレパレーション演習発表会後のレポート提出

※筆記試験要綱は後日提示します。

科目名	母性看護概論		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	森田 婦美子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

生命が誕生し、家族のなかでその命が育まれ、やがて親として次の世代を形成していく。こうした人間が何気なく繰り返してきた営みも、時代の流れに伴って変化し、いろいろな問題をはらんできた。個々では、もう一度人間にとっての「母性」とは何かをしっかりと考え、その講義を明確にしよう。それによって、母性看護の対象・役割・機能を理解するとともに、母性の対象が置かれている現状を知り、「母性看護の成長を促し、その機能を最大限にいかすことができるように援助する」という母性看護の役割を認識する。

【到達目標】

母性および母性各期の特徴を理解し、母性保護システムにおける母性看護の機能と役割を理解する。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		母性とは	
2		セクシュアリティ	
3		リクロダクティブヘルス／ライツ	
4		ヘルスプロモーション	
5		母子保健統計の動向と組織・法律	
6		同上	
7		ディスカッション	
8		女性生殖器の機能・性分化	
9		女性のライフサイクルと家族	
10		母性看護に必要な看護技術	
11		女性のライフステージ各期における看護	
12		同上	
13		家族計画	
14		人工妊娠中絶と看護・喫煙女性の健康と看護	
15		テスト	

【評価方法】

テスト・授業態度・出席状況を統合して評価する

【教科書】

荒木奈緒，他編：ナーシング・グラフィカ母子看護学 母性看護技術第4版，メディカ出版，2019

母性看護学概論，医学書院

科目名	母性看護援助論 I		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	藤田 晶子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

母性としてのピークである妊娠・分娩の身体的・精神的・社会的母性を学ぶことで、「妊娠・分娩は病気ではないが心身ともに大きな変化を遂げる。また、現代における多様な妊娠・出産・分娩・育児への問題点や看護を理解する。ライフスタイルにおいても特殊で重要な時期」ということを認識する。

【到達目標】

妊娠、分娩、産褥、新生児期における家族を含む対象の正常経過を理解し、状態に応じた看護を行う基礎を学ぶ。

【授業計画】－妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における理解と看護－

回	項 目	授 業 内 容	備考
1	妊娠期における看護	子どもを産み育てるということ，サポートの必要性	
2		正常妊娠に関する理解と定義，妊娠の全体像	
3		妊娠の成立 胎児・胎盤系・臍帯・羊水・ホルモン	
4		出産前からのリプロダクティブケア，不妊治療と看護	
5		妊娠期の身体的特性・心理・社会的特性	
6		妊婦と胎児のアセスメント	
7		妊婦と胎児のアセスメント，妊婦と家族の看護	
8	分娩期における看護	分娩の要素・分娩の経過	
9		産婦・胎児・家族のアセスメントと看護	
10		分娩期の看護の実際	
11	新生児期における看護	新生児の生理・アセスメント	
12		新生児のアセスメントと看護	
13	産褥期における看護	産褥期経過・褥婦のアセスメント	
14		褥婦と家族の看護・施設退院後の看護	
15		単位認定試験	

【評価方法】 テスト・レポート・授業態度・出席状況を統合して評価する

【教科書】 荒木奈緒，他編：ナースング・グラフィカ母子看護学 母性看護技術第4版，メディカ出版，2019
病気が見える 産科 他

科目名	母性看護援助論Ⅱ		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	藤田 晶子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。

【到達目標】

妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過中にみられる異常に対する看護について学ぶ。

【授業計画】－妊娠・分娩・新生児期・産褥期の異常の理解と看護－

回	項 目	授 業 内 容	備考
1	妊娠期における異常と看護	ハイリスク妊娠 妊娠期の感染症	
2		妊娠疾患・多胎妊娠	
3		妊娠持続期間の異常・異所性妊娠	
4		ハイリスク妊娠の看護	
5	分娩期における異常と看護	産道・娩出力の異常	
6		胎児の異常による分娩障害	
7		胎児附属物の異常・胎児機能不全	
8		分娩時の異常・産科処置と手術	
9		異常のある産婦の看護	
10		異常分娩時、分娩時異常出血時の産婦の看護	
11	新生児期における異常と看護	新生児仮死・分娩時外傷・低出生体重児	
12		高ビリルビン血症、ビタミンK 欠乏性出血症	
13	産褥期における異常と看護	子宮復古不全・産褥期の発熱・血栓症	
14		精神障害・異常のある褥婦の看護 (精神障害合併妊娠と家族の看護)	
15		単位認定試験	

【評価方法】 テスト・レポート・授業態度・出席状況を統合して評価する

【教科書】

荒木奈緒，他編：ナースング・グラフィカ母子看護学 母性看護技術第4版，メディカ出版，2019
病気が見える 産科

科目名	母性看護援助論演習		
単位数・時間数	1 単位 15 時間	対象年次	3
担当教員	川並 愛	実務経験の有無	

【授業の概要】

母性看護は、女性のリプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点から、母性の健康の保持増進と次世代を生き育てる機能が健全に発揮できるよう、対象の身体的、心理・社会特性について多面的に理解し、健康への支援に必要な知識および技術が求められる。学内でくり返し練習、イメージトレーニング、ロールプレイ演習を行い、実践の場で安全・正確・安楽な技術を提供するための実践と直結した講義である。

【授業の目的】

妊娠・分娩・産褥の期間をとおして、母体および胎児・新生児の健康を維持・増進、および異常の早期発見と予防ができるよう援助するために必要な基本的援助技術を学ぶ。また、健やかな母子の生活を支援するための地域包括ケアシステムについて知識を深める。

【到達目標】

1. 安全な沐浴を行うための技術が修得できる。
2. 沐浴についての教育を行うことができる。
3. 母子保健における地域包括ケアシステムのあり方を述べることができる
4. 乳幼児健康診査の意義と役割を述べるができる
5. 妊娠期・産褥期および新生児のアセスメントと基本的な援助技術が修得できる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考(予習・復習内容)
1	沐浴技術確認	2 名で母親への沐浴教育を行う。 1 名は児を入れ、1 名は説明を行い OSCE 沐浴技術試験で評価する。	【予習】2 名で協力し、沐浴教育の練習を繰り返し行う。
2			【復習】振り返りシートに自己の教育内容を振り返り期日までに提出する。
3	母子保健における地域包括ケアシステムのあり方	・母子保健の動向 ・四万十市における地域包括ケアシステムの実際<妊娠・出産包括支援事業、母子保健センター、ファミリーサポートセンター>	【予習】レポート課題 「地域で母子を支援するための地域包括ケアのあり方と看護職の役割」 【復習】実習事前学習として、四万十市の母子保健概要をまとめる
4	乳幼児健康診査の意義と役割	・乳幼児健診で取り扱う健康課題 ・健やか親子 21 ・健やかな次世代を継承することを支援するとは	【予習】乳幼児健康診査について調べてくる 【復習】実習事前学習として、乳幼児健康診査の概要をまとめる。
5	妊娠期・分娩期のアセスメントと基本的な援助技術	・事例のアセスメント ・レオポルド触診法 ・子宮底長、腹囲の計測 ・NST(ノンストレステスト)装着法	【予習】教科書 QR コードで技術の確認と手順書を書く 【復習】手順書へ不足分の追記をし、各自で何度も練習し技術を習得する

		・NST(ノンストレステスト)判読法 ・分娩時のアセスメントの視点 (DVD 使用)	
6	産褥期の アセスメントと 基本的な援助技術	・事例のアセスメント ・子宮底の観察と 子宮底輪状マッサージ ・乳頭・乳輪マッサージ 乳房トラブル ・授乳姿勢(抱き方、ラッチオン、 乳頭の含ませ方、排気)	【予習】教科書 QR コードで技術の確認と手順書を書く 【復習】手順書へ不足分を追記し、各自で何度も練習し技術を習得する
7	新生児の アセスメント技術	・事例のアセスメント ・経皮的ビリルビン測定 ・バイタルサインの測定技術 ・新生児の全身観察 ・身体計測技術	【予習】教科書 QR コードで技術の確認と手順書を書く 【復習】手順書へ不足分を追記し、各自で何度も練習し技術を習得する
8	筆記試験		
【メッセージ】 ・レポート等に使用した資料は、すべて手元に保管しておきましょう。実践的な技術修得は何度も練習しなければ身につけません。時間を見つけて練習を繰り返し、必要な知識と技術を身につけてください。			

【評価方法】

筆記試験 80%,課題 20%

【教科書】

荒木奈緒, 他編: ナーシング・グラフィカ母子看護学 母性看護技術第4版, メディカ出版, 2019
 森 恵美, 他編: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論第13版, 医学書院, 2019

【参考図書】

厚生労働統計協会: 厚生指標 増刊 国民衛生の動向第66巻第9号, 厚生労働統計協会, 2019

科目名	精神看護概論		
単位数・時間数	1 単位・15 時間	対象年次	2
担当教員	小笠原 庸行	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

精神看護の位置付け、心の健康とその考え方、精神看護の歴史・目的・対象・役割・精神保健の意義と役割、精神障害者問題の社会的背景について概説する。

【到達目標】

人間の心の健康と精神保健活動における看護の役割を理解し、こころのバランスを崩している人々とその家族に対する看護について学ぶ。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		精神障害の基本的な考え方	
2		人間の心と行動	
3		人生各期の発達課題	
4		精神医学と看護の歴史の変遷	
5		精神科医療をめぐる法律	
6		精神科看護におけるケアの方法	
7		看護の倫理と人間擁護	
8		テスト	

【評価方法】 テスト・レポート・授業態度・出席状況を統合して評価する

【教科書】

南江堂 精神看護学Ⅰ・Ⅱ

科目名	精神看護援助論Ⅰ（精神保健）			
単位数・時間数	1 単位	1 5 時間	対象年次	2
担当教員	出島 寿人	実務経験の有無	あり	

【授業の概要】

さまざまな状態にある対象のメンタルヘルスについて学び、その過程から看護師としての態度・あり方を学ぶ。
ここに障害を持つ対象を理解し、その治療環境について理解する。

【授業の目的】

それぞれの発達段階を学び、その過程から看護師としての態度のあり方を学ぶ。

【到達目標】

1. 精神科の入院について理解し、入院形態について述べることができる。
2. プロセスレコードを活用して自分を見つめることができる。
3. 回復に向けた援助と社会資源について理解できる。
4. 精神科における安全管理を理解できる。
5. 向精神薬の作用・副作用について理解できる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1	精神科医療について	自身の精神科に対するイメージ。 精神科病院について	映像
2	メンタルヘルスと入院について	さまざまな状態にあるメンタルヘルス 精神科の入院について	
3	ケアの人間関係	人間関係における原則とケア・患者—看護師間で起こること	
4	ケアの人間関係	プロセスレコードの活用	プロセスレコード
5	回復に向けて	精神科におけるリハビリテーションと援助・社会資源	
6	リスクマネジメント	精神科におけるリスクマネジメント	
7	薬物療法	向精神病薬について：作用と副作用	
8	終講試験		

【評価方法】 学習態度・提出物・筆記試験を総合的に評価する

【教科書】 南江堂 精神看護学Ⅰ・Ⅱ

科目名	精神看護援助論Ⅱ（看護援助の基本）		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	山下 美登世	実務経験の有無	

【授業の概要】

こころに障害を持つ対象を理解し、その障害を持つ患者への看護の方法を学ぶ

【授業の目的】

疾患を理解し、こころに障害を持つ対象への援助方法を知ることができる

【到達目標】

1. 統合失調症・気分障害のある患者の看護を理解できる
2. 精神科でおこりやすい身体疾患について理解することができる
3. 主要な精神疾患が理解できる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習内容）
1	統合失調症	統合失調症とは 統合失調症の症状の理解	【宿題】精神についてのイメージ
2		幻覚・妄想の看護	
3	うつ病	DVD「つれがうつになりました」	【宿題】DVD 感想
4		双極性障害とその看護	【予習】認知症のイメージ
5	認知症	アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症・レビー小体型認知症とその看護	
6	睡眠障害・摂食障害	身体的要因に関連した精神障害と行動障害	
7	小児に起こる障害	てんかんや発達障害について	
8	依存症・ストレス関連障害	精神作用物質使用による精神・行動障害について さまざまなストレス関連障害とその看護	
9	検査について	生物学的側面からアプローチする検査 心理学的側面からアプローチする検査 社会機能を知る尺度	
10	治療・ケア・支援	薬物療法 薬物療法における看護の役割 電気けいれん療法（ECT） 電気けいれん療法における看護	
11		身体合併症とケア 精神療法の基本	
12		社会復帰・社会参加の基本と働きかけ 地域での自立、統合への支援 他職種によるアウトリーチ	
13		安全管理（セーフマネジメント）	
14		家庭・学校・職場における精神科看護	

15	筆記試験	【宿題】認知症についてまとめる
<メッセージ> 精神看護は看護の原点と言われる分野です。それは疾患ではなく、人を見ていく看護だからです。人と人として関わる中で看護者自身が自分自身と向き合う領域であるとも言えます。 看護は患者様を知りたいという思いから始まります。相手を知るためには自分自身を知ることが不可欠です。自分を知り、相手を知り、より良い看護につなげていけるよう学んでいきましょう。		

【評価方法】 筆記試験 80 % ・ 授業態度 10 % ・ 出席状況 5 % ・ 提出物の状況 5 %

【教科書】 南江堂 精神看護学Ⅱ

【参考書】 医学書院 精神看護学①精神看護の基礎②精神看護の展開

科目名	精神看護援助論Ⅲ （看護過程の展開）		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	3
担当教員	山下 美登世	実務経験の有無	

【授業の概要】

紙上事例を展開させ、こころに障害を持つ対象への看護や、社会資源を活用した退院支援について学ぶことができる。また、対象を理解したうえでレクリエーションを企画し実践につなげてく

【授業の目的】

1. 精神に障害を持つ患者のこころと行動を総合的に理解する
2. 精神障がい者に対する人権擁護の重要性を理解する
3. 生活者としての精神障がい者を理解する
4. 患者との関わりを通して接近の技術を学ぶ

【到達目標】

1. 精神障がい者の病態を理解し、患者の心身の変化と全体像が理解できる
2. 精神症状が日常生活に及ぼす影響を理解できる
3. 精神障害状態にある患者への接し方が理解できる
4. 患者の日常生活が安全に過ごせるように配慮した計画を立案できる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習内容）
1	DVD 視聴	こころに障害のある対象とのコミュニケーション 「はじめよう 精神科訪問看護」	
2	講義 看護展開・個人	看護過程の構成要素（アセスメントの視点） 事例展開 看護過程の展開（統合失調症・うつ他）	【宿題】事例からアセスメント を考える
3	看護展開・個人	事例展開 看護過程の展開	
4	看護展開・GW	事例展開 看護過程の展開 各自の考えた看護看護の方向性についてグループ 内で発表し、グループとしての方向性を定める	
5	看護展開・GW	事例展開 看護過程の展開	
6	看護展開・GW	事例展開 看護過程の展開	
7	看護展開	事例展開 看護過程の展開発表会	
8	看護展開	事例展開 看護過程の展開発表会	【予習】レクリエーションの意 義
9	レクリエーション	精神科におけるレクリエーションの企画・準備	
10	レクリエーション	精神科におけるレクリエーションの準備	
11	レクリエーション	レクリエーション発表会	
12	レクリエーション	レクリエーション発表会	
13	DVD 視聴	DVD でよりイメージを広げる	
14		「チャンス商会」または「閉鎖病棟」	【宿題】DVD 感想
15	筆記試験		

＜メッセージ＞イメージしにくい精神科ですが、代表的な事例を通して看護展開を行い、グループごとにレクリエーションを企画し、模擬を実施してみましょう。仲間との協力姿勢を持ち、効果的なレクリエーションの企画を期待しています。まず、自分達が楽しむことが大切です。

【評価方法】 筆記試験 80 % ・ 授業態度 10 % ・ 出席状況 5 % ・ 提出物の状況 5 %

【教科書】 南江堂 精神看護学Ⅱ

【参考書】 医学書院 精神看護学①精神看護の基礎②精神看護の展開

統 合 分 野

科目名	在宅看護概論		
単位数・時間数	1 単位・15 時間	対象年次	2 年生
担当教員	武内 千枝美	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

地域包括システムの一躍を担う看護師は、生活と医療の両方の視点をもって、“個”から地域システム全体を見渡し、ケアを展開する”要“としての役割が期待されている「地域で療養している人々とその家族の健康生活を支援すること」「療養者と家族が生活しているそれぞれの地域の保健医療システムの特徴を踏まえ、それを活用すること」「家族の役割を果たしていくと共に関係職種と協働していくこと」が考えられる。それらのことについて学習し理解を深めていく。

【授業の目的】

少子・高齢化が進む中で、変化してきた在宅看護の社会背景や在宅看護の特徴・役割・機能について理解する。

【到達目標】

1. 在宅看護の目的および対象者の特徴と看護師の役割が理解できる
2. 保健医療福祉の連携や社会資源の活用を含む在宅療養支援が理解できる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考(予習・復習内容)
1	在宅看護の目的と特徴	在宅看護のめざすもの 在宅看護を取り巻く状況 在宅看護が提供される場 在宅看護の場の広がり 在宅看護に求められること	【予習】 p 12～24 在宅看護の背景について熟読 【復習】在宅看護の変遷と今後の課題 熟読
2	在宅看護における看護師の役割	超高齢多死社会の進展と地域包括ケア 対象者のニーズに応じた在宅看護の提供 在宅看護における看護師の倫理	【予習】 p 36 看護倫理の概要と活用を熟読 【復習】倫理問題を理解する
3～4	在宅看護の対象者	対象者の特徴 住まい方と健康 ・健康に暮らせる住まいと住まい方 ・住む人の個性を尊重した看護 ・在宅生活の継続を支援する 家族 ・在宅看護の対象者としての家族 ・家族のとらえ方と看護師のかかわり ・家族のアセスメント・家族の支援	【予習】 p 26 個人と家族を対象とする在宅看護 p 52 家族のとらえ方、家族への看護の熟読 【復習】在宅療養者の家族を理解する

5	在宅療養の支援	在宅看護の提供方法 療養の場の移行 ・患者・家族の意思決定と調整 ・退院支援・退院調整 在宅看護の基本となるもの	【予習】 p 70～77 地域包括ケアシステムとは、療養の場の移行に伴う看護の熟読 【復習】 地域包括システムの理解
6～7	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用	在宅看護にかかわる法令・制度 介護保険制度 ・保険者・被保険者・受給権者 ・利用の手続き ・給付対象となるサービス・利用料 訪問看護の制度 ・訪問看護の利用者・訪問回数 ・訪問看護ステーションに関する規定 ・訪問看護利用までの手順 訪問看護サービスの提供 ケアマネジメントと社会資源の活用 地域における多職種連携	【予習】 p 112～130 地域療養を支える制度熟読 【復習】 社会資源の活用・医療保険介護保険を理解する
8	試験	筆記試験	
【メッセージ】 少子高齢化の進展と共に『医療機能の分化・連携の推進による切れ目のない医療の提供』『在宅医の充実による患者の生活の質(QOL)の向上』が求められ、在宅看護は増々重要となってきました。病院での看護の違いに着目して、在宅看護を学習して下さい。国家試験にも沢山出題されています。重要キーワードを理解したうえで授業に臨んでください。			

【評価方法】

筆記試験 80% 授業態度(出席状況を含む)10% 復習や課題 10%の取り組み(提出期限)により総合的に評価する。

※課題の提出期限切れは0点となりますので注意してください。

【教科書】

地域療養を支えるケア (ナーシング・グラフィカ)

写真でわかる 訪問看護 アドバンス (インターメディカ)

【参考図書】

在宅看護論 実践を言葉に (ヌーヴェルヒロカワ)

場面でまなぶ 在宅看護論 (メディカ出版)

よくわかる在宅看護 (Gakken)

家族看護を基盤とした在宅看護論

プリンシプル在宅看護学

科目名	在宅看護援助論Ⅰ（在宅ケアシステム）		
単位数・時間数	1単位・15時間	対象年次	2
担当教員	橋本 真祐未	実務経験の有無	

【授業の概要】

在宅看護の役割は、「地域で療養している人々とその家族の健康生活を支援すること」「療養者と家族が生活しているそれぞれの地域の保健医療システムの特徴を踏まえ、それを活用すること」「家族の役割を果たしていくと共に関係職種と協働していくこと」が考えられる。それらのことについて学習し理解を深めていく。

【授業の目的】

少子・高齢化が進む中で、変化してきた在宅看護に関わる法規、関係機関や職種と連携するための技術について理解する。

【到達目標】

地域保健福祉活動の全体像を把握し、在宅ケアシステムの中の看護の位置づけと、看護師の役割を理解する。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考(予習・復習内容)
1	在宅療養を支える訪問看護	訪問看護とは ・在宅ケアを支える訪問看護ステーション 家庭訪問・初回訪問 訪問看護サービスの展開・訪問看護の記録	【予習】在宅看護を提供する場とは 訪問看護ステーションが行う訪問看護について サービスの特徴・サービスを利用するには訪問看護の目的・役割・機能・基本姿勢・対象・緊急時の看護・災害時の看護 【復習】訪問看護の役割について理解する
2		在宅療養における看護過程の展開	【予習】 【復習】
3	在宅療養生活を支える基本的な技術	コミュニケーション フィジカルアセスメント・環境整備・生活リハビリテーション・感染予防・ターミナルケア	【予習】在宅療養を支える技術の本参考・p26～54読み込む 【復習】1年時のフィジカルアセスメントを確認しよう
4 5	在宅における援助技術	生活ケアと医療的ケア・生活ケアの援助技術 食・排泄・清潔・移動・呼吸のアセスメントと援助	【予習】p208～218まで読み込む 【復習】1年生の時の再復習です。再度確認を
6	在宅看護における安全と健康危機管理	在宅看護における危機管理 日常生活における安全管理 災害時における在宅	【予習】 p164～174 p194～205 熟読 【復習】災害時の危機管理は何に気をつけるべきか

		療養者と家族の健康 危機管理	
7	国家試験出 題傾向	復習	ミニテスト
8	試験	筆記試験	
【メッセージ】 ・予習・復習は教科書等で学習できます。熟読して授業に臨んでください。必要時プリント等配布いたします。 国の推進する地域包括ケアシステムにおいて“個のケア”から”地域システム全体”を見渡しケアを展開する時代になり、病院等の医療機関だけでなく訪問看護ステーション・地域包括支援センター・療養通所介護や複合型サービス事務所など活動範囲は拡大しています。在宅看護はこれから増々重要な位置になってきます。国家試験にも沢山出題されています。重要キーワードを理解できるよう授業に臨んでください。			

【評価方法】

筆記試験 90% 授業態度(出席状況を含む)10% 復習や課題の取り組み(提出期限)により総合的に評価する。
※課題の提出期限切れは0点となりますので注意してください。

【教科書】

地域療養を支えるケア (ナーシング・グラフィカ)
地域療養を支える技術 (ナーシング・グラフィカ)
写真でわかる 訪問看護 アドバンス (インターメディカ)

【参考図書】

場面でまなぶ 在宅看護論 (メディカ出版)
在宅看護論 実践を言葉に (ヌーヴェルヒロカワ)
よくわかる在宅看護 (Gakken)
家族看護を基盤とした在宅看護論
プリンシプル在宅看護学

科目名	在宅看護援助論Ⅱ（日常生活援助）		
単位数・時間数	1単位・30時間	対象年次	2
担当教員	浜田 留美	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

その人らしい生活を営むことは、人間として基本的な欲求の一つである。しかし、在宅で療養する人達の中には、通常の生活を一人では行うことが出来ない場合があることが多い。その際、看護師としてその家にある物を臨機応変に応用・工夫しながら、その人らしい生活を送ってもらうために看護やケアを提供していかなければならない。ここでは、訪問時マナーをはじめ、日常生活上の援助の方法について、基礎・専門基礎分野で学んだ知識と、基礎看護技術を統合し、在宅場面で実践できる看護技術についての学習を深めていくこととする。

【授業の目的】

在宅での生活を可能にする為の看護師としての姿勢と日常生活援助の方法について理解する。

【到達目標】

在宅での看護を展開していくための姿勢と日常生活援助の方法を習得することができる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考(予習・復習内容)
1	在宅における 基本技術	①コミュニケーション技術	【予習】 対象者の生活様式と価値観の尊重・対象を理解するとは、失語症とコミュニケーション(具体的援助)/高齢者の住宅の4つの要素/嚥下障害・食事摂取時の姿勢 オムツ交換・洗髪・足浴・陰洗の技術を再復習しておく。 【復習】 在宅での日常生活援助のポイントを理解し応用できるようにする
2		②観察技術	
3		③療養環境の工夫・配慮（住居）	
4		④日常生活援助技術 （食生活・排泄）	
5		清潔・移動・活動・睡眠・受診と服薬	
6		⑤在宅看護におけるリスクマネジメント	
7		⑥心理・社会的側面に対する援助技術	
8	在宅療養者の 症状・状態別の 看護	①脳血管患者の在宅看護	在宅看護論①P42～
9		②難病患者の在宅看護	②ALS 急性増悪の早期発見と対応 P47.147.255.
10		③認知症患者の在宅看護	③認知症とは、 p 18.47.155.251
11		④感染症患者の在宅看護	④感染症の在宅看護・MRSA・エイズ・ノロウイルス・大腸菌 O-157・B型肝炎・肺炎・上気道感染・尿路感染・結核・疥癬 【復習】 各感染症は、疾患から対処法は整理し理解する
11		⑤在宅ターミナルケア	
11		⑥精神障害者の在宅看護	
12		⑦小児の在宅看護	⑤ターミナル期の各期における訪問看護の役割を理解しておく

13			
14			⑥精神障害者のセルフケア援助を理解する（どんなことがセルフケア不足になるのか）
15	試験	筆記試験	
【メッセージ】 ・予習・復習は教科書等で学習できます。熟読して授業に臨んでください。必要時プリント等配布いたします。 日常生活援助技術は、在宅看護では、必須の技術です。ポイントをおさえ、対象者に添える様に、いつでも、どこでもケアとして実施できるように、常に復習しておきましょう。国家試験にも基本技術は沢山出題されています。			

【評価方法】

筆記試験 80% 授業態度(出席状況を含む)10% 復習や課題 10%の取り組み(提出期限)により総合的に評価する。※課題の提出期限切れは0点となりますので注意してください。

【教科書】

在宅看護論 ①地域医療を支えるケア ②在宅療養を支える技術 メディカ AR
写真でわかる 訪問看護 アドバンス (インターメディカ)

【参考図書】

場面でまなぶ 在宅看護論 (メディカ出版)
地域療養を支えるケア (ナーシング・グラフィカ)
よくわかる在宅看護 (G a k k e n)
家族看護を基盤とした在宅看護論
プリンシプル在宅看護学

科目名	在宅看護援助論Ⅲ（特殊な技術）		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	浜田 留美	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

医療の高度化とともに、今後ますます在宅で療養する人々が増加していく、2025 年問題を控え
看護師として疾病・障害がありながら在宅で生活をしている療養者とその家族を対象とし、その対象
とし、その対象がセルフケア能力を高めるための支援およびニーズに基づいた生活の実現に向けて支
援する方法を学ぶ。

【授業の目的】

地域で療養している人々に対する特殊な技術をともなう看護や処置の方法を知り、在宅療養者の療養状況を理
解し、各々の在宅看護の実際について学ぶ。

【到達目標】

在宅での看護を展開していくための処置の方法や、在宅での看護過程の展開について、その方法を理解し、実
践していくための基礎的な知識を習得することができる。

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習）
1	処置に伴う援助・ 補助技術	①在宅酸素療法 ②在宅人口呼吸療法 ③CAPD療法 ④ストーマケア	【予習】①在宅酸素療法とは、HOT の 適応基準・p 256～272 熟読する 【復習】p265 在宅酸素療法を受ける療 養者の看護を整理し理解する
2		⑤褥瘡ケア ⑥経管栄養・在宅中心静脈栄養法・胃瘻 ⑦気管切開口のケア・疼痛コントロール ⑧在宅でのターミナル ⑨死後の処置 ⑩今後の在宅看護の動向	【予習】②在宅人口呼吸療法(HMV・ NPPV・TPPV)とは、目的と適応・レ スパイトケアとは、今後の課題を熟読 【復習】②についてのリスク管理を整 理し安全性について述べることができ る
3			【予習】③について・透析療法とは、 p 284～286 の看護を熟読
4			【予習】④について p 288～293 熟読 基礎看護技術の排泄の教科書のストー マを熟読する
5			【予習】⑥について p 303～315 熟読す る 【復習】輸液ルートの交換ポイント起 こりやすいトラブルと対策を整理する
6			【予習】⑦p320～p 328 ⑧⑨プリント配布熟読
7			【予習】⑩国家試験によく出る用語の

			意味・解説確認
8	事例検討 演習	①訪問看護導入のプロセスと療養者と家族との信頼関係成立の方法をグループによるロールプレイ ②看護記録と評価 ③看護過程の展開	事例を通してグループで考える。 看護過程の展開を個人で考え、発表できるようにしてくる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15	試験	筆記試験	
【メッセージ】 予習・復習は教科書等・必要時プリント等配布いたします。熟読して授業に臨んでください。 さまざまな事例から、療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について学ぶことができます			

【評価方法】

筆記試験 80% 授業態度(出席状況を含む)10% 復習や課題 10%の取り組み(提出期限)により総合的に評価する。

※課題の提出期限切れは 0 点となりますので注意してください。

【教科書】

在宅看護論 ①地域医療を支えるケア ②在宅療養を支える技術 メディカ AR
写真でわかる 訪問看護 アドバンス (インターメディカ)

【参考図書】

場面でまなぶ 在宅看護論 (メディカ出版)
地域療養を支えるケア (ナーシング・グラフィカ)
よくわかる在宅看護 (G a k k e n)
家族看護を基盤とした在宅看護論
プリンシプル在宅看護学

科目名	看護管理		
単位数・時間数	1単位・30時間	対象年次	3
担当教員	竹林 高子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

看護管理の基礎を学ぶことで、看護の成果を導くための有効な方法を知る

【到達目標】

1. 自己の看護実践のマネジメントスキルを理解することができる
2. リーダーシップとメンバーシップを理解することができる
3. 実践に活用可能な資源について理解することができる
4. 看護をシステムとして考えることができる
5. 医療と他産業の相違を理解することができる
6. 看護に対する思考力を高める方法を理解することができる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考
1		自身の人生の軌跡と今後の人生設計（SW/GW）	
2		人々の生活と看護活動の場面の变化	
3		看護管理とは	
4		組織の成り立ちと構造	
5		人間関係を構築するスキル（SW/GW）	
6		ストレスマネジメント（SW/GW）	
7		リーダーシップ① ＊リーダーシップの使い分け	
8		リーダーシップ② ＊意思決定と嫌われる勇気	
9		看護の質保証と看護管理	
10		看護経営の基礎	
11		生涯学習と成人学習者理論	
12		看護と関係法規（事前GW宿題の提出と発表）	
13		7人の怒れる男（DVD 視聴）	
14		7人の怒れる男（レポート・GW）	
15		テスト	

【評価方法】

試験、課題レポート、GW参加度、出席状況、授業態度

【教科書】

ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践の看護管理

【参考書】

「組織で生きる」 医学書院 「リーダーシップが面白いほど身につく本」 中経出版
「組織つくりとマネジメントの鉄則」 MCメディカ出版
「看護現場のストレスケア」 医学書院
「嫌われる勇気」 ダイアモンド社

科目名	医療安全		
単位数・時間数	1 単位 30 時間	対象年次	1
担当教員	橋本 真裕未	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

感染防止：感染を未然に防ぐ知識と技術は、地域・在宅から医療機関まであらゆる看護の領域において重要な課題である。院内感染や施設内感染の防御に必要な標準予防策と感染経路別予防策について理解すると共に、正しい技術を身につける。また、薬剤耐性菌や COVID-19 など国際的に脅威となる感染症が世界的に増加しており、正しい知識のもとで感染症拡大への対策を講じる必要がある。

医療安全：医療事故について事例を通して学ぶことで、対象の安全を脅かす因子を理解し、医療に潜む危険性を回避するための正しい知識を養う。安全な医療を提供する医療者としての責任と自覚を養い、対象の安全を守るための原理原則を学ぶ。本単元は3年次に履修する医療安全演習の基礎的知識となる。

【授業の目的】

医療現場や療養の場において、対象の生命や健康状態を直接脅かす危険性を排除するための基礎知識および原理原則に則った技術を修得する

【到達目標】

- 1.医療安全、感染予防を学ぶ意義を述べることができる
- 2.基本的な感染防御の知識・技術を習得することができる
- 3.医療現場における安全の阻害因子が説明できる
- 4.医療廃棄物の取り扱いや放射線被爆について必要な知識を述べるができる
- 5.看護事故防止のための患者誤認、誤薬防止対策を実践することができる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考(予習・復習内容)
1	概論	感染防止における看護師の責務と役割 「感染防止の技術を学ぶことのたいせつさ」について	【予習】感染症に関する新聞記事を調べ、感想をレポート用紙1枚にまとめる。新聞記事と共に提出する。
2	特別講義 (認定看護師)	感染防止の基本技術「手指消毒と手洗い」	【予習】教科書 P428～429 の QR コードで動画を参照し手順書を書く
3	標準予防策 について	感染と感染防止の基礎知識 「スタンダードプリコーションと感染経路別予防策の概要」	【復習】接触・飛沫・空気感染の違いについてノートにまとめ、課題としている国家試験問題を復習する
4	感染防止の 具体策	1) 感染性廃棄物の取り扱い 2) 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識	【予習】バイオハザードマークを調べる 【復習】国家試験問題を確認する
5		1) 無菌操作の正しい知識 2) 個人防護用具の正しい着脱技術の修得	【予習】個人防護用具着脱の手順書を作成する。

			【復習】試験に向けて技術を練習する
6		「個人防護用具の着脱手技」確認試験	試験待機中に感染防止啓発ポスターを作成する。各自でペンを持参すること。
7			
8	概論	1) 医療職を選ぶことの重さと安全努力の責務「医療安全を学ぶことのたいせつさ」について 2) 医療事故と看護事故 3) 看護事故の構造(2種5群)	【予習】医療事故に関する新聞記事を調べ、感想をレポート用紙1枚にまとめる。新聞記事と共に提出する。 【復習】看護事故の構造についてまとめる
10	療養環境から考える	"実習への心構え： 「患者の安全を守るとは」 療養環境の清潔保持と危険防止の視点、転倒転落防止"	【予習・復習】特になし
11			
12	看護事故防止のための対策	1. 患者の誤認防止に向けた取り組み 2. 誤薬の防止「6Rの徹底と事例から学ぶ」 薬剤を見て危険を予測しよう!!	【予習】6Rについて調べる 【復習】国家試験問題の復習を行う
13		3. ライン・チューブトラブルの防止 ～自己抜去を防ぐためにできること 4. 放射線被爆・薬物被爆の防止 5. 針刺し・切創事故防止に向けた取り組み	【予習】なし 【復習】国家試験問題の復習を行う
14	危険予知トレーニング	リスクアセスメント力を身につけるための実践的医療安全トレーニング	【予習・復習】最終レポート課題に向けて文献等を調べる
15	試験	1) 筆記試験 2) レポート提出 テーマ[医療職を選択することの重さと安全努力の責務～自己の課題とこれからの取り組み～]	
【メッセージ】 感染防止と医療安全は、医療職に対する社会からの信頼を得るための根幹をなすものです。みなさんが目指す看護師は、人びとの“生命”と直接向き合い、そして安全な医療を提供するという責任と義務があります。過去の重大な医療事故にしっかりと向き合い、事故から得た教訓を学び取ってください。			

【レポート課題】

- 1) レポート用紙2枚(3200文字以内)とし、参考・引用文献等の記載は3枚目に行う。
- 2) 文字数40字、行数40行、余白上下左右20mm、字体MS明朝、フォント10.5に設定する。
- 3) 表紙をつけテーマ、授業名、担当教員名、学籍番号、氏名を記載する。

【評価方法】

筆記試験 80%、レポート 10%、技術試験 10%で総合的に評価する。

【教科書】

川村治子:系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践第 4 版, 医学書院, 2018

任和子, 他編:系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 第 17 版, 医学書院, 2019

岡庭豊, 他編:看護がみえる vol.1 基礎看護技術第 1 版, メディックメディア, 2018

【参考図書】

石川雅彦, 斉藤奈緒美:リスクアセスメント力が身につく 実践的医療安全トレーニング第 1 版, 医学書院, 2016

小林美亜, 他編:看護学テキスト統合と実践 医療安全 改訂第 2 版, 学研メディカル秀潤社, 2018

科目名	医療安全演習		
単位数・時間数	1 単位 15 時間	対象年次	3
担当教員	橋本 真裕未	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

看護はサービスの対象が人間、それも疾病や障害、苦痛を心身にもつ患者である。医療職ほど、わずかな間違いでも対象の傷害に直結する職業はない。よって、どの過程においても確かな知識と技術とともに対象の安全を最優先する看護の提供が求められる。そのためには、医療安全の基本的知識の修得は基より、安全なケア環境を提供する能力、危険を認識する能力を養う必要がある。本単元は一年次で履修した「医療安全」を基礎とし、実践の場である臨地実習における患者への看護を通して、医療安全に対する知識と技術と態度を身につける。

【授業の目的】

医療安全の根幹となる安全な医療やケアを提供するための原理・原則の遵守、ノンテクニカルスキル、失敗から学ぶ姿勢、レジリエンス力を修得する

【到達目標】

1. 「人は間違いをおかす」存在であることを自覚し、自己モニタリングができる
2. 看護実践に潜む危険性を査定できる
3. 対象の日常生活援助において危険回避の方策を考え、実践できる
4. SBAR での報告方法を理解し、正確に報告することができる
5. 医療に潜む危険性を回避するために他職種に必要な情報を提供することができる
6. 組織としての医療安全対策について述べることができる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考(予習・復習)
1	安全な看護ケアを提供する際の留意点	1) 実習への向き合い方 2) 医療安全に対する責任と義務 3) 看護学生のヒヤリハット事例	【復習】“これまでの実習で体験したヒヤリハット”課題を提出する
2	危険予知トレーニング	1) リスクアセスメント力を身につけるための KYT 活動 【複数患者受け持ちを想定した実践的事例展開】	【予習】最近の医療事故に関する新聞記事を調べ、感想をレポート用紙 1 枚にまとめる。新聞記事と共に提出する。
3		臨床を想定し①多重課題②時間切迫③業務中断を体験する。 グループディスカッションを行い危険予知と対応方法について検討する。	【復習】授業の感想を指定の用紙に書いて提出する(期日は授業中に伝える)

4	組織としての医療安全対策	1) 医療安全推進のための取り組み 2) システムとしての事故防止の具体例 3) 医療事故調査制度の概要	【予習】なし 【復習】統合実習に向けて組織としての医療安全体制および実習施設の取組みを調べてまとめる。
5	医療事故から学ぶことの大切さ	1) DVD 視聴 2) 視聴したのちグループディスカッション 3) 自己の考えをまとめる	
6	SBAR について学ぶ	1) コミュニケーションエラーを防ぐ“SBAR(状況・背景・評価・提案)の基礎” 2) SBAR の実践と臨地実習での活用	【復習】 実習場所で実践し活用する
7	国家試験問題	国家試験問題から医療安全に必要な知識の再確認および定着を図る	【復習】 間違えた問題を徹底的に復習する
8	試験	1) 筆記試験 2) レポート提出 テーマ[医療職を選択することの重さと安全努力の責務～自己の課題とこれからの取り組み～]	
【メッセージ】 3年次は実習でさまざまな対象者と対峙し看護を展開します。みなさんが対象者の安全を守る行動がとれ、そして安全に実習を遂行できることができるよう常に意識づけを行います。そして、「してはならないこと」と「すべきこと」の根拠・理由を実習と連動させながら修得してください。			

【レポート課題】

- 1) レポート用紙2枚(3200文字以内)とし、参考・引用文献等の記載は3枚目に行う。
- 2) 文字数40字、行数40行、余白上下左右20mm、字体MS明朝、フォント10.5に設定する。
- 3) 表紙をつけテーマ、授業名、担当教員名、学籍番号、氏名を記載する。

【評価方法】

筆記試験 80%、レポート 20%、技術試験 10%で総合的に評価する。

【教科書】

川村治子:系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践第4版, 医学書院, 2018
任和子, 他編:系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 第17版, 医学書院, 2019
岡庭豊, 他編:看護がみえる vol.1 基礎看護技術第1版, メディックメディア, 2018

【参考図書】

石川雅彦， 齊藤奈緒美:リスクアセスメント力が身につく 実践的医療安全トレーニング第 1 版， 医学書院， 2016

小林美亜， 他編:看護学テキスト統合と実践 医療安全 改訂第 2 版， 学研メディカル秀潤社， 2018

科目名	卒業研究		
単位数・時間数	1 単位 30 時間	対象年次	3
担当教員	川並 愛	実務経験の有無	

【授業の概要】 看護専門職の目標は、患者に提供される看護サービスの効果を最大限にすること、すなわち質の高い看護を提供することにあると言える。そのために、看護に対する日々の看護実践を振り返り、具体的な看護ケアに関する‘疑問’や‘問題意識’に目を向けることが大切である。本単元では、看護への探求心を育み、看護職として暗黙知を形式知へと高めるための、手段と方法を修得するための礎となることを狙いとする。

【授業の目的】

看護研究方法の基礎を修得し、自己の実践事例をケースレポートすることができる

【到達目標】

1. 実践事例から看護になり得た、もしくは、看護になり得なかったと思えた事例を選択できる
2. なぜ看護になり得たか、なぜ看護になり得なかったのか説明でき、研究素材を述べることができる
3. 素材化した事例を、研究の作法に沿って記述することができる
4. ケーススタディにより、看護が取り扱う課題と問題に向けた解決・改善策を提示できる力を身につける

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習等）
1	ガイダンス	1) 看護研究の学習方法の説明 2) それぞれの一番印象に残っている看護体験についてグループへ発表する	【予習】「私の看護を振り返る」の用紙を書き、授業時に持参する
2	文献検討	[文献レビュー] 1) 文献検索の方法について 2) 文献を検索してみる 3) 文献クリティークとは	【予習】配布された文献を読み、要約してくる。疑問点や気になる点を意識しながら読んでみよう。 【復習】自分の気になる文献を3つ探し、指定の様式に沿って記載する。
3	研究計画書の作成	1) 自己の体験、先行研究をもとにリサーチクエスションを明確化し研究課題を決定する ・研究の動機、目的・研究の意義 2) 倫理的配慮について	【復習】研究テーマ、動機、目的、意義を指定の様式に沿って記載し、期日までに提出する。
4	・研究の作法について 論文作成	1) 論文の記述の原則、まとめ方を知る 2) 全体の構成 1) [はじめに]	【予習】配布された文献を読み、文献の構成について考えてくる。 [はじめに]にはどのようなことが記載されているか調べてくる。 【復習】授業中に終わらなかった部分

			を仕上げ、期日までに提出する。
5	論文作成	2) [目的] [方法]	【予習】[目的] と[方法]にはどのようなことが記載されているか調べてくる。 【復習】授業中に終わらなかった部分を仕上げ、期日までに提出する
6		3) [結果]	【復習】授業中に終わらなかった部分を仕上げ、期日までに提出する
6		4) [考察]	【予習】もう一度、自分のテーマに関連する文献をいくつか読み直し、必要であれば探してくる。 【復習】授業中に終わらなかった部分を仕上げ、期日までに提出する。
7		5) [結論]	【復習】何度も読み直し、本当に伝えたいことを書けているか、だれが読んでも伝わる内容か、そして首尾一貫しているか確認を行う。
8	グループ内 発表	グループ内で発表をし、アドバイスをもらう。教員はファシリテーターを務める。	【予習】グループ内で順序や発表形式を決め、タイムスケジュール表を作成し、提出する。 【復習】ケースレポートに加筆修正を加える
9			
10	論文修正	指摘事項を加筆修正し、論文を仕上げ、授業終了時に全員提出する	
11	‘研究とは’ ふりかえり	ケースレポートを書いてみて、研究の意義を振り返る。これからの課題を明確にする。	【予習】レポート課題あり。 「なぜ看護研究は必要なのか」 【復習】発表準備を重ねる
13	発表準備	1) 冊子作成 2) 会場準備	
14	学内発表会	下級生たちへ発表する	
15			
メッセージ		看護と向き合う大切な時間です。自分自身の看護を丁寧に振り返り、研究の第一歩を踏み出しましょう。	

【評価方法】 研究論文、各授業時の提出物、態度で総合的に評価する

【教科書】 資料

【参考図書】 早川和生：JNN スペシャル看護研究の進め方 論文の書き方，第2版第4刷，医学書院，2014， 川村佐和子：看護研究，第3版第1刷，メディカ出版，2018.

科目名	統合看護技術演習		
単位数・時間数	1 単位 15 時間	対象年次	3
担当教員	谷 早加	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

卒業時の実践能力向上を目指して、指導要綱に示された「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」における看護実践能力のⅠ群：「ヒューマンケアの基本的な能力」、Ⅱ群：「根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力」、Ⅲ群：「健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力」については、これまでに終えた実習で学んだ知識・技術を統合し、さらに、突発事象に求められる対応（看護）を判断し、優先順位を考えて実践する能力の体得である。そのために、Ⅳ群：「ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力」を養い、さらにⅤ群「専門職として研鑽し続ける基本能力」では、各自が振り返り、自己の課題を明確にする。本単元は、統合実践実習に通ずる事前演習である。統合実践実習の目標は、これまでに培った知識や技術を統合して、対象の状況に応じた看護を行うこと、すなわち看護実践能力を身につけることである。

【授業の目的】

看護に関する各科目において修得した内容をより臨床実践に近い形で学習し、臨床に適応できるように知識と技術の統合を図り、看護の実践者として患者の看護を総合的に展開できるようにするために必要な態度を育てる。さらに臨床実践に近い形で実際の看護業務遂行を疑似体験し、状況判断の重要性と看護実践の安全性を学習し、時間管理、多重課題、優先度の決定などのより実践的な看護を学ぶ。また、チームを組んで通る組むことリーダーシップ、メンバーシップを理解し、自己の看護実践における課題を見出す。

【授業の目標】

- ①多重の問題を持つ患者の援助計画が立案できる
- ②複数患者の疾患を理解して優先順位を考えた看護計画を立案し、グループで実践できる
- ③看護実践中に起こった突発的事象に対して、対処方法を判断し実践できる
- ④チームの一員であることを自覚し、連絡、相談、報告ができる
- ⑤チームメンバーと連携しながら状況に応じた看護の実践を振り返ることができる
- ⑥統合実習に向けた自己の課題を理解して、ゴール（目標）が見いだせる

【授業計画】

回	項 目	授 業 内 容	備考（予習・復習等）
1	統合演習の意義・目的	・看護における状況判断と実践能力 技術の安全性、効率的な実践 状況判断能力の重要性	【予習】事例について疾患、症状、治療に対する事前学習 【復習】
2		・複数事例を用いた看護アセスメント	【予習】
3		1) 2 人の患者のケア計画を立案。 ・状況判断/優先順位/時間的配分/安全安	・2 人の患者の状態から優先度を判断し、行動計画立案を行う

		楽を考慮したケアのマネジメント ・看護サマリーの書き方 ※提示された事例を基に、GW を行い短時間で判断し、看護が提供できるような机上シミュレーションを行い、グループでまとめる。	【復習】 ・事例について疾患、症状、治療に対する事前学習の追加・修正を行う。 ・グループで話し合った結果をもとに、自分の行動計画を追加・修正する
4	実践演習 (優先度 に合わせた 看護実践)	・実践演習 1) 客観的臨床能力試験(設問 OSCE) 2) 患者の状態に合わせた看護実践 3) 複数患者の優先度に合わせて看護実践 ・実践演習 基本技術の振り返り/グループ間で評価しながら自己の技術力を確認する	【予習】 ・事例について疾患、症状、治療に対する事前学習の追加・修正を行う。 ・グループで話し合った結果をもとに、自分の行動計画を追加・修正する 【復習】 ・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する
5			
6	実践演習 (突 発 事 象)	・実践演習 客観的臨床能力試験 (OSCE) /突発事象 基本技術の振り返り/グループ間で評価しながら自己の技術力を確認する	【予習】 基本技術の手順・根拠について再確認 【復習】 ・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する
7	実践演習 (突 発 事 象)	客観的臨床能力試験 (OSCE) /突発事象 基本技術の振り返り/グループ間で評価しながら自己の技術力を確認する	【予習】 基本技術の手順・根拠について再確認 【復習】 ・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する
8		GW テーマ「私たちの卒業時における看護実践能力とは」発表	【予習】・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する 【課題】 レポート提出(評価対象とします) 「自己の課題を明確にし、卒業時における看護実践能力を向上させるためには」
9	試験	筆記試験	
メッセージ		・今まで学んできた知識と技術を統合し、臨床実践に近い形で学習します。チームの中の一員であることを念頭に、報告・連絡・相談を行いながら、チームメンバーと連携し、自己の看護の実践を振り返り、自己の課題を明確にしましょう。	

【評価方法】 筆記試験 60% 客観的臨床能力試験 (OSCE) 20% グループ学習態度 10%

レポート評価 10%

【教科書】 系統看護学講座 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 I・II 医学書院

【参考書】 資料

参考文献 看護 OSCE 中村 恵子 メディカルフレンド 指定教科書の全体 評価 課題レポート及び客観的臨床能力試験 (OSCE) 実施により評価する (課題への取り組み状況等を評価時の参考に加える)